

250 Duke

ART. NO. 3213414ja



KTM

KTMをお買い上げ頂いた皆様に

このたびは KTM のモーターサイクルをお買い上げ頂き、ありがとうございます。最新のスポーツモーターサイクルを手に入れたお客様に、これを十分満喫頂くため、適切なメンテナンスと手入れを行う事をお願いしています。

快適な走行をお楽しみ下さい！

お持ちのモーターサイクルのシリアルナンバーを以下に記して下さい。

シャーシナンバー (📖 頁20)	正規ディーラー店スタンプ
エンジンナンバー (📖 頁21)	
キーナンバー (📖 頁21)	

本オーナーズマニュアルは、印刷時点現在、当該モデルシリーズの最新仕様に基づいて作成されています。しかし、車両の構造が更に開発される事により、製品と若干の差異が生じる可能性があります。

ここに記載された内容について、当社は何ら義務を負わないものと致します。KTM Sportmotorcycle GmbH は、記載された技術内容、価格、色、形、部品、サービス内容、構造、装備などにつき予告および理由の開示なく変更、代替品なく抹消、地域の状況に合わせ変更、並びに特定モデルの生産を予告なく停止する権利を有するものとします。商品入手の可否、写真・イラスト並びに記載内容との差異、印刷ミス並びに誤記に対し、KTM は一切の責任を負いかねます。画像表示されたモデルには、標準仕様には含まれていない特別仕様が部分的に含まれています。

© 2016 KTM Sportmotorcycle GmbH, Mattighofen オーストリア
無断複写・転載を禁じます。



3213414ja

2016年2月

KTMをお買い上げ頂いた皆様に

一部または全部並びにその種類を問わず、複製・複写には必ず著作者の書面による許可を要します。



ISO 9001(12 100 6061)

国際品質管理規格 ISO 9001 の観点から、KTM では到達しうる最高の生産品質を実現するための品質保証プロセスを導入しています。

発行: TÜV Management Service

REG.NO. 12 100 6061

KTM Sportmotorcycle GmbH
5230 Mattighofen, オーストリア

以下のモデルがこの書類の内容に該当します。 :

250 Duke EU (F4203P1)


250 Duke JP (F4286P1)

250 Duke MY (F4289P1)

250 Duke TH (F4283P1)

目次

1	表示方法	7	6	操作各部	22
1.1	本書の表示マークについて	7	6.1	クラッチレバー	22
1.2	使用文字種について	8	6.2	ブレーキレバー	22
2	安全の手引き	9	6.3	スロットルグリップ	23
2.1	使用環境	9	6.4	ホーンスイッチ	23
2.2	安全の手引き	9	6.5	ライトスイッチ	24
2.3	危険度と表示マーク	10	6.6	パッシングライトスイッチ	24
2.4	改造に関する警告	10	6.7	ターンシグナルスイッチ	25
2.5	安全な運転	11	6.8	エマージェンシーOFFスイッチ	25
2.6	保護服	12	6.9	スタータースイッチ	26
2.7	作業上の決まり	12	6.10	イグニッション/ハンドルロック	26
2.8	環境	12	6.11	ハンドル操作をロックする	27
2.9	OWNER'S MANUAL	13	6.12	ハンドル操作のロックを解除する	27
3	重要な注意事項	14	6.13	コンビネーションインストルメント	28
3.1	メーカー保証、法定保証	14	6.13.1	表示	28
3.2	油脂類、ケミカル類	14	6.13.2	作動とテスト	29
3.3	スペアパーツ、アクセサリ	14	6.13.3	警告表示	30
3.4	サービス	15	6.13.4	機能ボタン	33
3.5	写真	15	6.13.5	インジケータランプ	34
3.6	カスタマーサービス	15	6.13.6	ディスプレイ	35
4	各部の名称	16	6.13.7	フューエルタンクの残量表示	36
4.1	各部の名称 左前方 (代表写真)	16	6.13.8	TRIP F モード	37
4.2	各部の名称 右後方 (代表写真)	18	6.13.9	クーラントの温度表示	38
5	シリアルナンバー	20	6.13.10	インフォメーションディスプレイ	39
5.1	シャーシナンバー	20	6.13.11	走行時間/平均速度メニュー	40
5.2	タイプラベル	20	6.13.12	平均速度/平均燃費メニュー 1	41
5.3	エンジンナンバー	21	6.13.13	平均燃費 1/ 平均燃費 2 メニュー	42
5.4	キーナンバー	21	6.13.14	平均燃費 2/ サービスメニュー	43

6.13.15	サービス / 航続距離メニュー	44	8.5	ブレーキをかける	67
6.13.16	航続距離 / 走行時間メニュー	45	8.6	停止と駐車	69
6.13.17	総走行距離 ODO メニュー	46	8.7	輸送	70
6.13.18	走行距離 1 TRIP 1 メニュー	47	8.8	燃料を給油する	71
6.13.19	走行距離 2 TRIP 2 メニュー	47	9	サービスプラン	73
6.13.20	キロメートルかマイルを選択する	48	9.1	補足情報	73
6.13.21	時計を設定する	49	9.2	必須作業	73
6.13.22	シフト回転数 RPM 1 を設定する	49	9.3	推奨作業	75
6.13.23	シフト回転数 RPM 2 を設定する	50	10	シャーシを調整する	76
6.14	フィルターキャップを開く	51	10.1	ショックアブソーバーのspringsプリロード を調節する 	76
6.15	フィルターキャップを閉じる	52	10.2	シフトレバーを調節する	77
6.16	シートロック	52	11	シャーシで行うサービス作業	78
6.17	車載工具	53	11.1	車両をリアスタンドでジャッキアップする	78
6.18	サイドグリップ	53	11.2	車両をリアスタンドから降ろす	78
6.19	リアシート用フットレスト	54	11.3	フロントスタンドで車両をジャッキアップする	79
6.20	シフトレバー	54	11.4	車両をフロントスタンドから降ろす	80
6.21	ブレーキペダル	55	11.5	リアシートを取り外す	81
6.22	サイドスタンド	56	11.6	リアシートを取り付ける	82
7	運転操作の前に	57	11.7	シートを取り外す	82
7.1	初めて運転操作を行う際の注意	57	11.8	シートを取り付ける	83
7.2	慣らし運転をする	58	11.9	チェーンの汚れを点検する	84
7.3	車両に荷物を積む	59	11.10	チェーンを清掃する	84
8	運転上の注意事項	61	11.11	チェーンの遊びを点検する	85
8.1	運転操作の前に必ず行う点検・メンテナンス 作業	61	11.12	チェーンの遊びを調節する	86
8.2	エンジン始動	62	11.13	チェーン、リアスプロケット、フロントスプロ ケットを点検する	88
8.3	発進	64	11.14	フロントスポイラーを取り外す	92
8.4	シフト操作とライディング	64	11.15	フロントスポイラーを取り付ける	93

12	ブレーキシステム.....	94	14.7	ポジションライトのバルブを交換する.....	127
12.1	アンチロックブレーキシステム (ABS).....	94	14.8	ヘッドライトの設定を点検する.....	131
12.2	ブレーキディスクを点検する.....	95	14.9	ヘッドライトの照明距離を調節する.....	132
12.3	前輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検する.....	96	15	冷却システム.....	135
12.4	前輪ブレーキのブレーキフルードを補給する ㊦.....	97	15.1	冷却システム.....	135
12.5	前輪ブレーキのブレーキパッドを点検する.....	99	15.2	不凍液とクーラントのレベルを点検する.....	136
12.6	ブレーキペダルの遊びを点検する.....	99	15.3	クーラントのレベルを点検する.....	138
12.7	ブレーキペダルの遊びを調節する ㊦.....	100	15.4	クーラントを排出する ㊦.....	140
12.8	後輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検する.....	101	15.5	冷却システムにクーラントを注入してエア抜きをする ㊦.....	141
12.9	後輪ブレーキのブレーキフルードを補給する ㊦.....	102	16	エンジンを調整する.....	144
12.10	後輪ブレーキのブレーキパッドを点検する.....	104	16.1	アクセルワイヤーの遊びを点検する.....	144
13	車輪、タイヤ.....	106	16.2	アクセルワイヤーの遊びを調節する ㊦.....	145
13.1	前輪を取り外す ㊦.....	106	16.3	クラッチレバーの遊びを点検する.....	145
13.2	前輪を取り付ける ㊦.....	107	16.4	クラッチワイヤーの遊びを調節する ㊦.....	146
13.3	後輪を取り外す ㊦.....	109	17	エンジンで行うサービス作業.....	147
13.4	後輪を取り付ける ㊦.....	110	17.1	エンジンオイルのレベルを点検する.....	147
13.5	後輪のハブダンパーを点検する ㊦.....	112	17.2	エンジンオイルとオイルフィルターを交換し、オイルスクリーンを清掃する ㊦.....	147
13.6	タイヤの状態を点検する.....	113	17.3	エンジンオイルを補給する.....	150
13.7	タイヤの空気圧を点検する.....	114	18	清掃、手入れ.....	152
14	電装系.....	116	18.1	洗車をする.....	152
14.1	バッテリーを取り外す ㊦.....	116	18.2	冬季運転における点検・メンテナンス作業.....	154
14.2	バッテリーを取り付ける ㊦.....	117	19	保管.....	156
14.3	バッテリーを充電する ㊦.....	118	19.1	保管.....	156
14.4	ABS ヒューズを交換する.....	121	19.2	保管後、運転操作の前に.....	157
14.5	各電装系部品のヒューズを交換する.....	123	20	トラブルシューティング.....	158
14.6	ヘッドライトバルブを交換する.....	124	21	仕様一覧.....	161
			21.1	エンジン.....	161

目次

21.2	締付けトルクエンジン	162
21.3	容量	165
21.3.1	エンジンオイル	165
21.3.2	クーラント	166
21.3.3	燃料	166
21.4	シャーシ	166
21.5	電装系	167
21.6	タイヤ	168
21.7	フロントフォーク	168
21.8	ショックアブソーバー	169
21.9	締付けトルクシャーシ	169
22	油脂類	175
23	ケミカル類	177
24	規格	179
25	用語索引	180
26	表示マーク索引	181
26.1	赤のマーク	181
26.2	黄色とオレンジ色のマーク	181
26.3	緑と青のマーク	181
索引	182

1.1 本書の表示マークについて

以下、使用されている表示マークについて説明します。



予想される正常な反応を示します。例: 特定の作業ステップや機能実行の結果



想定外の異常な反応を示します。例: 特定の作業ステップや機能実行の結果



このマークが付いている作業は全て専門知識や技術的知識を必要とします。ご自身の安全のため、これら作業はKTM正規ディーラーで実施するようにして下さい！特別な訓練を受けた専門技術者が必要な専用ツールを使って、お客様のモーターサイクルを最適な状態にメンテナンス致します。



参照頁を示します (詳細については記載の頁を参照して下さい)。



補足情報や役に立つ情報を示します。



確認ステップの結果を示します。

1.2 使用文字種について

以下、使用されている文字種について説明します。

固有名詞	固有名詞を示します。
商標®	登録商標を示します。
マーク™	トレードマークを示します。
<u>下線を引いた用語</u>	車両の技術的詳細を参照または用語解説にある専門用語を示します。

2.1 使用環境

KTM のスポーツモーターサイクルは、通常の道路走行で考えられる使用環境に耐えられるような設計・構造となっています。サーキットやアスファルト舗装されていない場所での走行は想定されていません。



参考

承認を受けたモデルのみ、公共道路での走行が許可されています。

2.2 安全の手引き

車両の安全な環境のために安全の手引きに留意して下さい。そのためにも、この説明書を全頁よくお読み下さい。この安全の手引きは文章が見やすく記載され、重要箇所はリンクが添付されています。



参考

車両にはよく見える箇所に注意・警告表示が貼付されています。注意・警告表示をはがさないで下さい。これら表示がないと危険が認識できず、お客様ご自身並びに周囲の方々が怪我をされる恐れがあります。

2.3 危険度と表示マーク



危険

適切に対応しないと直接および確実に死亡や後遺症を残す重傷につながる危険を示します。



警告

適切に対応しないと死亡や後遺症を残す重傷につながる恐れのある危険を示します。



注意

適切に対応しないと場合によっては軽傷につながる恐れのある危険を示します。

注意

適切に対応しないと車両または部品に重大な損傷をもたらす危険を示します。



警告

適切に対応しないと環境汚染につながる危険を示します。

2.4 改造に関する警告

ノイズダンパー部品の改造を行うことは禁じられています。以下の処置および該当する状態の製造は法的に禁じられています:

- 1 防音のために取り付けられている装備や部品のいずれかを、新車がエンドユーザーに販売または引き渡される前に取り外したり、機能しないように変更したりする事。あるいは車両の使用期間中にメンテナンス、修理、交換以外の目的で取り外したり、機能しないように変更したりする事。
- 2 そのように設置したり部品を取り外す、もしくは機能しないようにした車両の使用。

違法改造の例:

- 1 メインサイレンサー、バッフルプレート、マニホールド、その他排気系統の部品の取り外しもしくは貫通。
- 2 インテークシステムの部品を取り外す事、またはこれら部品に穴を開ける事。
- 3 非合法的なメンテナンス状態での使用。
- 4 車両の可動部品、あるいは排気装置またはインテークシステムの部品を製造者が承認していない部品と交換する事。

2.5 安全な運転



危険

事故の危険性 不十分な運転技能による危険性。

- 飲酒および薬剤やドラッグを摂取した状態、または精神的・肉体的理由により道路交通で正常な運転ができない恐れがある場合は、運転をしないで下さい。



危険

中毒の危険性 排気ガスは毒性で、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンをかけているときは必ず十分に換気し、適切な排気設備のない閉め切った室内でエンジンをかけたり、かけたままにする事はやめて下さい。



警告

火傷の危険性 一部の部品は運転中非常に熱くなります。

- 排気装置、ラジエーター、エンジン、ダンパー、ブレーキシステムなど、熱くなった部品には触れないで下さい。これら部品で作業を行う際は、部品が冷えるまで待って下さい。

車両が完璧に整備された状態で適切かつ安全、また環境に優しい運転を心がけて下さい。

公道では適切な運転許可証が必要となります。

安全を妨げるような故障等はすぐに KTM 正規ディーラーで処置してもらって下さい。

車両に貼付された注意・警告表示に留意して下さい。

2.6 保護服



警告

人体への危険性 不足および欠陥のある保護服の着用は安全面での危険性を高めます。

- 走行の際は必ず保護服 (ヘルメット、ブーツ、手袋、ズボン、プロテクター付きジャケット) を着用して下さい。損傷等がなく、かつ法規則に従った保護服を常に着用して下さい。

KTM ではお客様の安全性のためにも運転の際には適切な保護服を必ず着用するようお勧めしています。

2.7 作業上の決まり

作業の中には専用ツールを必要とするものがあります。専用ツールは車両の付属品ではありませんが、()に記載されている番号を指定して注文する事ができます。例: ベアリングプーラー (15112017000)

組み立ての際、再使用できない部品 (緩み止めスクリューとナット、ガスケット、シールリング、Oリング、割りピン、ロックワッシャーなど) は新しい部品と交換して下さい。

スクリュー脱落にはゆるみ止め材 (例、Loctite®) が必要です。使用の際にはメーカーの使用上の注意に従って下さい。

分解後も再度使用する部品は清掃し、破損・磨耗がないか点検します。破損・磨耗した部品は交換します。

修理およびサービス終了後は、車両が安全に使用できる状態である事を確認して下さい。

2.8 環境

責任感をもってモーターサイクルと接する事で問題や対立の発生を避ける事ができます。モーターサイクルの明るい未来のためにも、法律で定められた範囲でモーターサイクルを使用し、環境意識を持ち、他人の権利を尊重する事を常に心がけて下さい。

古い燃料、その他燃料およびケミカル類、古くなった部品の廃棄は各国の法律および規則を遵守して下さい。

モーターサイクルは古い車両の廃棄に関する EU 指令の対象ではないので、法的な規定はありません。KTM 正規ディーラーにお気軽に
お尋ね下さい。

2.9 OWNER'S MANUAL

初めてツーリングに出る前に、必ずこのオーナーズマニュアルを全頁注意して読んで下さい。車両の操作や取り扱いのために有用なヒントや情報が盛り込まれています。車両を自分に合った最適な状態に調整し、ご自身を怪我から守る方法を知るにはこれ以外の道はありません。

必要に応じていつでも確認出来るよう、誰でも閲覧可能な場所にオーナーズマニュアルを保管して下さい。

車両に関するさらなる情報をお求めの場合、もしくは読んでいて不明な点がある場合は、KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。オーナーズマニュアルはモーターサイクルの重要な部品の一部です。販売する際は必ず車両と一緒に新しい所有者に引き渡して下さい。

3.1 メーカー保証、法定保証

サービスプランに規定された作業は必ず KTM 正規ディーラーで実施し、カスタマーサービスブック並びに KTM Dealer.net に証明を受けて下さい。これをしないと、一切の保証請求が無効となります。また、車両の変更・改造に起因する直接・間接の損害はメーカー保証の対象外です。

メーカー保証および法定保証に関する詳細とその手続きについては、カスタマーサービスブックを参照して下さい。

3.2 油脂類、ケミカル類



警告

環境汚染 燃料の不適切な取り扱い、環境汚染の原因となります。

- 燃料を地下水、土壌、下水道に流してはいけません。

オーナーズマニュアルに記載されたケミカル類 (例、燃料・潤滑剤) または仕様に応じた油脂類を使用して下さい。

3.3 スペアパーツ、アクセサリー

ご自身の安全のため、KTM により承認または推奨されたスペアパーツ並びにアクセサリーのみを使用し、またこれら部品の取り付けは KTM の正規ディーラーで行って下さい。それ以外の製品およびその使用に起因する損害について、KTM は一切その責任を負いかねます。

関連する説明文で () 内に記載されているスペアパーツやアクセサリーもあります。KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。

お手持ちの製品でご使用になれる最新の KTM PowerParts については、KTM のホームページをご覧ください。

KTM インターナショナルサイト: <http://www.ktm.com>

3.4 サービス

故障を避け、早期摩耗を防ぐには、オーナーズマニュアルの記載に従ってエンジンとシャーシのサービス、手入れ、調整作業を行う必要があります。シャーシの調整を間違えると、シャーシ部品の損傷や破損を引き起こす恐れがあります。

強い雨や厳しい暑さの中、あるいは重い荷物を積むなど、過酷な条件で車両を使用すると、駆動装置、ブレーキシステム、サスペンションなどで部品の磨耗を大幅に早める原因となります。その結果、次回サービス実施時期に達する前に点検や部品の交換が必要になる事があります。

規定の慣らし運転時間とサービス時期を必ず守って下さい。これは、車両の寿命を長くするために非常に重要な事です。

3.5 写真

注意事項に記載された写真には一部特別装備が施されています。

より分かりやすく表示および説明するために一部部品を取り外したり、記載していない場合があります。これらの記述に関する取り外しは必ずしも必要ではありません。記載内容に留意して下さい。

3.6 カスタマーサービス

お手持ちの製品や KTM に関するご質問については、KTM 正規ディーラーまでお気軽にお問い合わせ下さい。

KTM 正規ディーラーの一覧は KTM のホームページに掲載されています。

KTM インターナショナルサイト: <http://www.ktm.com>

4 各部の名称

4.1 各部の名称 左前方 (代表写真)

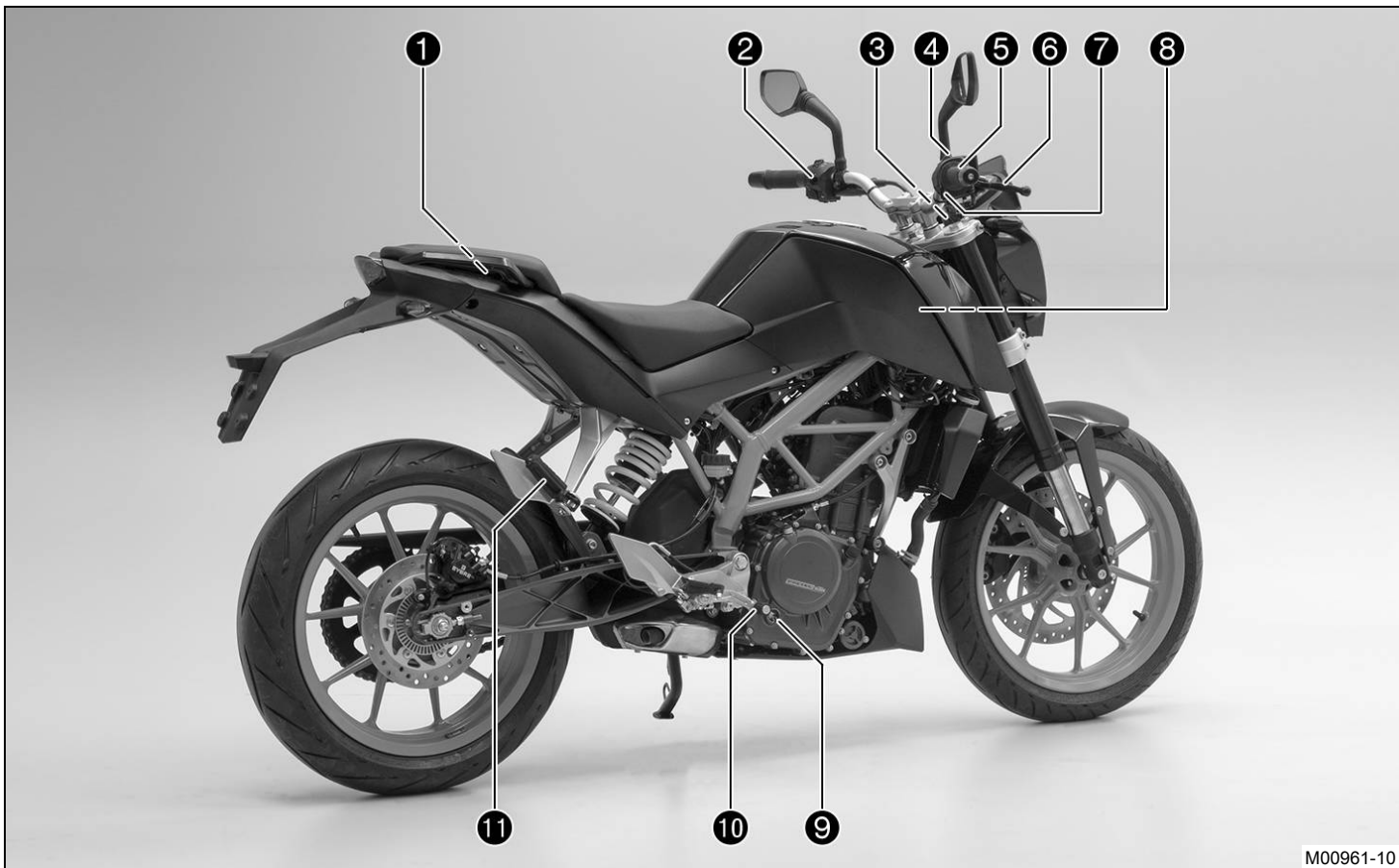


4 各部の名称

1	コンビネーションインスツルメント
2	バックミラー
3	クラッチレバー (図 頁22)
4	シート
5	リアシート
6	シートロック (図 頁52)
7	サイドグリップ (図 頁53)
8	シフトレバー (図 頁54)
9	サイドスタンド (図 頁56)
10	エンジンナンバー (図 頁21)

4 各部の名称

4.2 各部の名称 右後方 (代表写真)

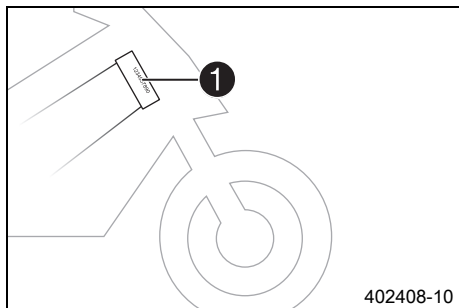


4 各部の名称

1	車載工具 (図 頁53)
2	ライトスイッチ (図 頁24)
2	パッシングライトスイッチ (図 頁24)
2	ターンシグナルスイッチ (図 頁25)
2	ホーンスイッチ (図 頁23)
3	イグニッション / ハンドルロック (図 頁26)
4	エマージェンシーOFFスイッチ (図 頁25)
5	スロットルグリップ (図 頁23)
6	ブレーキレバー (図 頁22)
7	スタータースイッチ (図 頁26)
8	シャーシナンバー (図 頁20)
8	タイプラベル (図 頁20)
9	エンジンオイルの点検窓
10	ブレーキペダル (図 頁55)
11	リアシート用フットレスト (図 頁54)

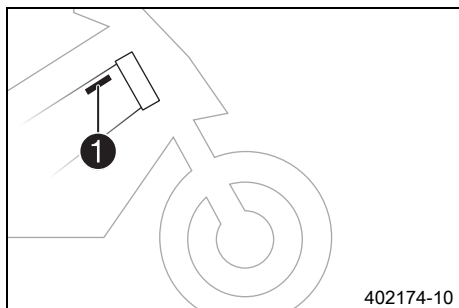
5 シリアルナンバー

5.1 シャーシナンバー



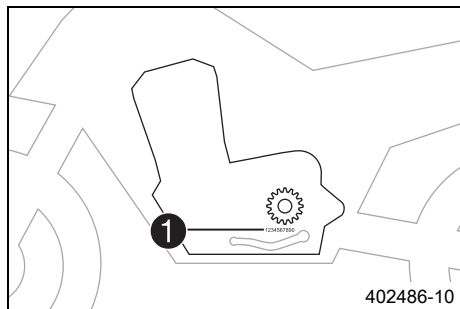
シャーシナンバー①はステアリングヘッドの右に刻印されています。

5.2 タイプラベル



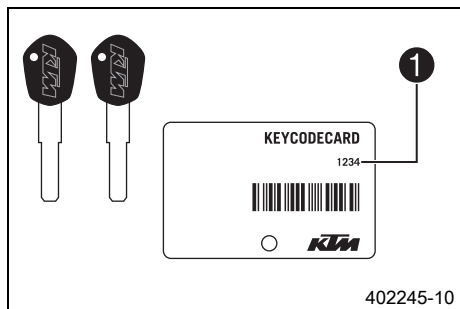
タイプラベル①はステアリングヘッド右後方のフレームに貼付されています。

5.3 エンジンナンバー



エンジンナンバー①はエンジンの左側、フロントスプロケットの下に刻印されています。

5.4 キーナンバー



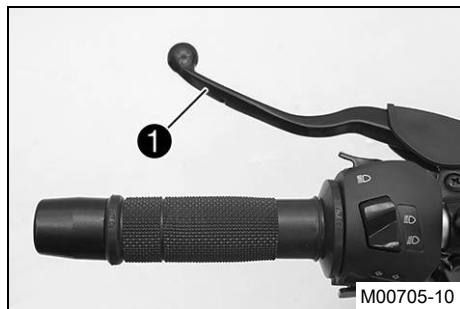
キーナンバー①はKEYCODECARDに記載されています。



参考

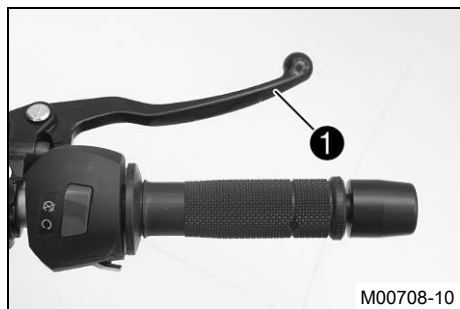
予備のキーを注文する際にキーナンバーが必要となります。KEYCODECARDは安全な場所に保管して下さい。

6.1 クラッチレバー



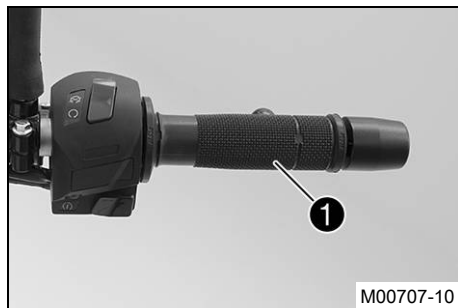
クラッチレバー①は左のハンドルバーに設置されています。

6.2 ブレーキレバー



ブレーキレバー①は右のハンドルバーに設置されています。
ブレーキレバーで前輪ブレーキを作動します。

6.3 スロットルグリップ



スロットルグリップ①は右のハンドルバーに設置されています。

6.4 ホーンスイッチ



ホーンスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態



- ホーンスイッチが基本位置にある
- ホーンスイッチが押されている- この位置でホーンが鳴ります。

6.5 ライトスイッチ



ライトスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態

	<p>ヘッドライト (ロービーム)点灯-ライトスイッチの下側が押されています。この位置でヘッドライト (ロービーム)とテールライトが点灯しています。</p>
	<p>ヘッドライト (ハイビーム)点灯-ライトスイッチの上を押します。この位置でヘッドライト (ハイビーム)とテールライトが点灯しています。</p>

6.6 パッシングライトスイッチ



パッシングライトスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態



- パッシングライトスイッチが基本位置にある
- パッシングライトスイッチが押されている- この位置でパッシングライト (ハイビーム)が作動します。

6.7 ターンシグナルスイッチ



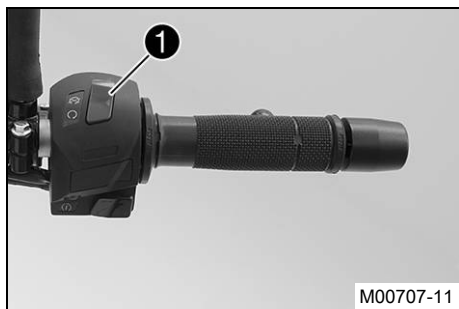
ターンシグナルスイッチ①は左のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態

	ターンシグナル停止
	左のターンシグナルが作動- ターンシグナルスイッチを左に押します。ターンシグナルが作動し、スイッチは中央位置に戻ります。
	右のターンシグナルが作動- ターンシグナルスイッチを右に押します。ターンシグナルが作動し、スイッチは中央位置に戻ります。



ターンシグナルを停止するには、ターンシグナルスイッチをスイッチボックスに向かって押します。

6.8 エマージェンシーOFFスイッチ

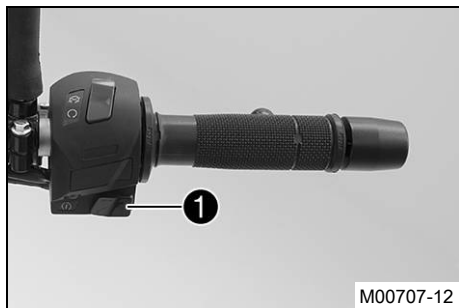


エマージェンシーOFFスイッチ①は右のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態

	エマージェンシーOFFスイッチがオフ- この位置ではイグニッション回路が接続されておらず、エンジン作動中はこれを停止し、エンジンをかける事ができません。
	エマージェンシーOFFスイッチがオン- 運転する際はこの位置に設定します。イグニッション回路が接続されています。

6.9 スタータースイッチ



スタータースイッチ①は右のハンドルバーに設置されています。

確認すべき状態

- スタータースイッチ③が基本位置にある
- スタータースイッチ③が押されている- この位置でセルフスターターが作動します。

6.10 イグニッション/ハンドルロック



イグニッション/ハンドルロックはアッパートリプルクランプの前方に設置されています。

確認すべき状態

	<p>イグニッション停止OFF- この位置ではイグニッション回路が接続されておらず、エンジン作動中はこれを停止し、停止中の場合はエンジンをかける事ができません。イグニッションキーを抜く事ができます。</p>
	<p>イグニッション作動ON- この位置ではイグニッション回路が接続されており、エンジンをかける事ができます。</p>
<p>LOCK</p>	<p>ハンドルのロック- この位置ではイグニッション回路が接続されておらず、ハンドルはロックされています。イグニッションキーを抜く事ができません。</p>

6.11 ハンドル操作をロックする

注意

損傷の危険性 停車中の車両が動いたり倒れる恐れがあります。

- 車両は必ず安定した平らな場所にとめて下さい。



- 車両をとめます。
- ハンドルバーを左に回し切ります。
- イグニッション / ハンドルロックにキーを差し込み、中に押し込んでから左に回します。キーを抜きます。
- ✓ これで、もうハンドルバーを動かすことはできません。

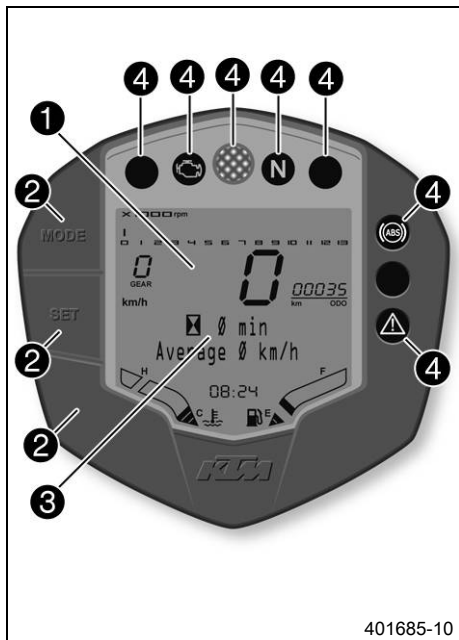
6.12 ハンドル操作のロックを解除する



- イグニッション / ハンドルロックにキーを差し込み、中に押し込んでから右に回します。キーを抜きます。
- ✓ これでまたハンドルバーを動かす事ができます。

6.13 コンビネーションインスツルメント

6.13.1 表示



- | | |
|---|------------------------|
| 1 | ディスプレイ (頁 35) |
| 2 | 機能ボタン (頁 33) |
| 3 | インフォメーションディスプレイ (頁 39) |
| 4 | インジケータランプ (頁 34) |

6.13.2 作動とテスト



起動

イグニッションをオンにすると、コンビネーションインスツルメントが起動します。

テスト

タコメーターのセグメントとギア表示が順番に点灯し、再び消えます。

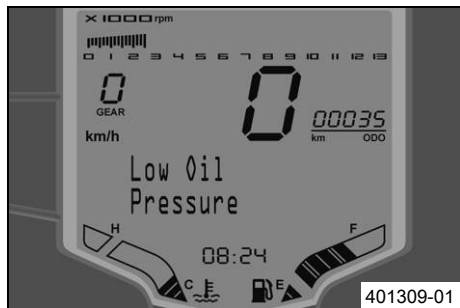
速度表示が 0 から 199 までカウントし、また 0 に戻ります。

インフォメーションディスプレイの範囲外にある、それ以外の表示セグメントが短く点灯します。

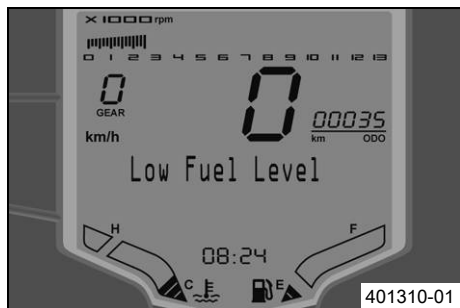
インフォメーションディスプレイに **READY TO RACE >>** の文字列が表示されます。

その後、最後に選択したモードが表示されます。

6.13.3 警告表示

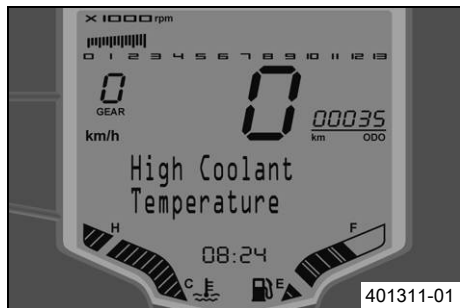


油圧が低過ぎると、インフォメーションディスプレイに**Low Oil Pressure**が表示されます。



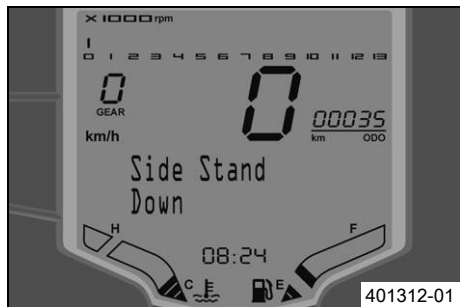
燃料レベルがリザーブマークに達すると、インフォメーションディスプレイに**Low Fuel Level**が表示されます。

6 操作各部



クーラントの温度が規定値を上回ると、インフォメーションディスプレイに**High Coolant Temperature**が表示されます。

クーラントの温度	125 °C
----------	--------



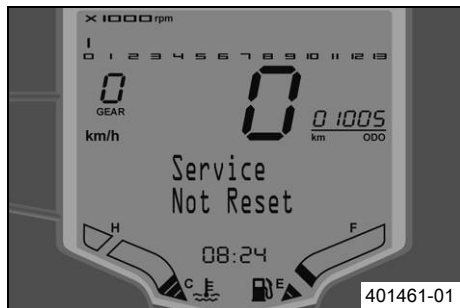
サイドスタンドが出ていると、インフォメーションディスプレイに**Side Stand Down**が表示されます。



バッテリー電圧が規定値を下回ると、インフォメーションディスプレイに**Low Battery**が表示されます。

バッテリー電圧	10.80 V
---------	---------

6 操作各部



イグニッションがオンになっている、サービスの走行距離を超えている、もしくはサービス期間の表示がサービス時にリセットされていないと、インフォメーションディスプレイに**Service Not Reset**が表示されます。

6.13.4 機能ボタン



401685-12

MODEボタン①でモードを切り替えます。

選択できるモードには総走行距離 (ODO)、走行距離 1 (TRIP 1)、走行距離 2 (TRIP 2)があります。

SETボタン②を長押しすると走行距離 1 (TRIP 1)と走行距離 2 (TRIP 2)が0.0にリセットされ、**SET**ボタン②を短く押すとインフォメーションディスプレイが次のモードに切り替わります。









ボタン③でABSをオフにできます。

6.13.5 インジケーターランプ

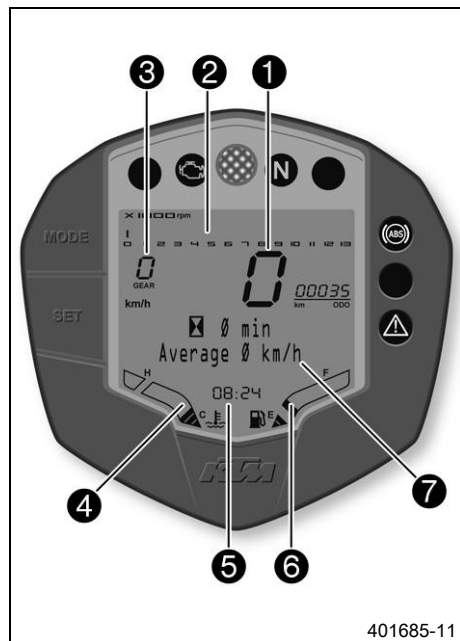


401686-01

確認すべき状態

	ターンシグナルインジケーターランプがターンシグナルのリズムで緑に点滅- ターンシグナルが作動しています。
	エンジン診断警告ランプ (MIL) が赤く点灯- OBD (On-Board-Diagnose (オンボード診断)) が排気または安全関連で重大な不具合を検出しました。
	シフトランプが赤く点灯 / 点滅- 設定した回転数に達しました。
	ニュートラルインジケーターランプが緑に点灯- ギアがニュートラルに入っています。
	ハイビームインジケーターランプが青く点灯- ハイビームが点灯していません。
	盗難防止システムのインジケーターランプが赤く点灯 / 点滅- 盗難防止システム / アラーム装置で状態メッセージまたはエラーメッセージが発生しました (オプション)。
	警告全般を示すランプが黄色に点灯- 操作安全上の注意 / 警告事項が検出されました。この場合、関連情報がインフォメーションディスプレイにも表示されます。
	ABS 警告ランプが黄色に点灯 / 点滅- ABS (アンチロックブレーキシステム) で状態メッセージまたはエラーメッセージが発生しました。

6.13.6 ディスプレイ



速度①には時速がキロメートル (km/h) またはマイル (mph) で表示されます。

タコメーター②は分単位のエンジン回転数を示します。

ギア表示③は現在選択されているギアを示します。

クーラントの温度は④に表示されます。

時計は⑤に表示されます。

フューエルタンク内の残量は⑥に表示されます。

インフォメーションディスプレイ⑦には補足情報が表示されます。

i 参考

バッテリーの接続を外した後やヒューズを交換した後は時計を設定して下さい。

LED ディスプレイの照明は周囲の明るさにより左右します。

6.13.7 フューエルタンクの残量表示



ディスプレイの残量表示には9つのゲージがあります。点灯しているゲージが多いほど、フューエルタンクの燃料量が多い事を示します。

6.13.8 TRIP F モード



燃料レベルがリザーブマークに達すると、選択されているモードに関係なく表示が自動的にTRIP Fに切り替わり、0.0からカウントし始めます。



参考

モードがTRIP Fに切り替わると、同時に警告全般を示す \triangle が点灯し、インフォメーションディスプレイにLow Fuel Levelの警告通知が表示されます。

6.13.9 クーラントの温度表示



401292-01

ディスプレイの温度表示には 13 のゲージがあります。点灯しているゲージが多いほど、クーラントの温度が高い事を示します。全てのゲージが点灯すると、インフォメーションディスプレイに**High Coolant Temperature**という警告通知も表示されます。

確認すべき状態

- エンジンが冷えている-ゲージが 3 つまで点灯しています。
- エンジンが作動温度に達している-4 つから 6 つのゲージが点灯しています。
- エンジンが熱くなっている-11 個から 13 個のゲージが点灯しています。

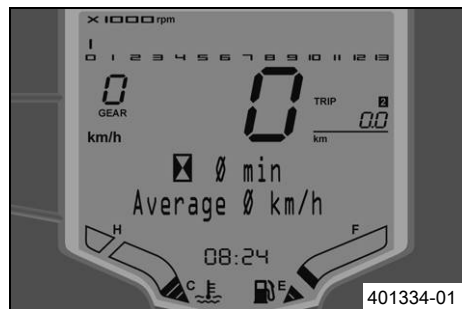
6.13.10 インフォメーションディスプレイ



インフォメーションディスプレイ①には様々な警告通知が表示されます。警告全般を示す④が点灯したら、対応する警告通知がインフォメーションディスプレイに表示されます。

401291-10

6.13.11 走行時間 / 平均速度メニュー



条件

ケース 1

- ・ イグニッションがオンである。
- ・ 車両が停止している。

ケース 2

- ・ イグニッションがオンである。
 - ・ 車両が走行中である。
- **SET**ボタンを何度か短く押して、選択したいモードをインフォメーションディスプレイに表示させます。

このメニューでは走行時間と平均速度が表示されます。



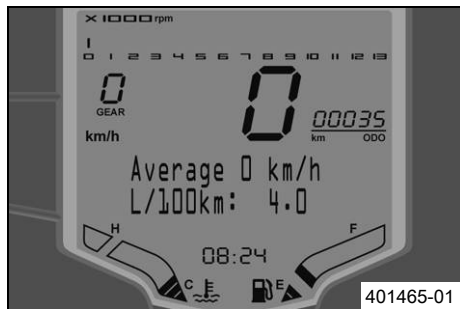
参考

イグニッションをオフにして 60 分が経過すると、表示は再び 0 にリセットされます。

SETボタンを短く押
します。

インフォメーションディスプレイが次のモードに切り替わります

6.13.12 平均速度 / 平均燃費メニュー 1

**条件****ケース 1**

- ・ イグニッションがオンである。
- ・ 車両が停止している。

ケース 2

- ・ イグニッションがオンである。
 - ・ 車両が走行中である。
- **SET** ボタンを何度か短く押して、選択したいモードをインフォメーションディスプレイに表示させます。

このメニューには平均速度と平均燃費 1 (リッター / 100km もしくはリッター / 100 マイル) が表示されます。

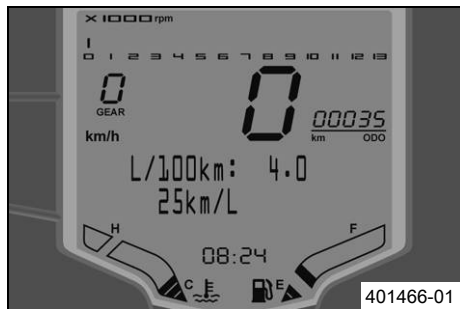
**参考**

平均燃費 1 はイグニッションをオンにし、数百メートル走行した後で表示されます。イグニッションをオフにして 60 分が経過すると、平均速度および平均燃費 1 の表示は再び 0 にリセットされます。

SET ボタンを短く押します。

インフォメーションディスプレイが次のモードに切り替わります

6.13.13 平均燃費 1/ 平均燃費 2 メニュー



条件

ケース 1

- ・ イグニッションがオンである。
- ・ 車両が停止している。

ケース 2

- ・ イグニッションがオンである。
 - ・ 車両が走行中である。
- **SET** ボタンを何度か短く押して、選択したいモードをインフォメーションディスプレイに表示させます。

このメニューには平均燃費 1(リッター/100km もしくはリッター/100 マイル)と平均燃費 2(リッター/100km もしくはリッター/100 マイル)が表示されます。



参考

平均燃費 1 と 2 はイグニッションをオンにし、数百メートル走行した後で表示されます。

イグニッションをオフにして 60 分が経過すると、平均燃費 1 と 2 の表示は再び 0 にリセットされます。

SET ボタンを短く押します。

インフォメーションディスプレイが次のモードに切り替わります

6.13.14 平均燃費 2/ サービスメニュー



条件

ケース 1

- ・ イグニッションがオンである。
- ・ 車両が停止している。

ケース 2

- ・ イグニッションがオンである。
 - ・ 車両が走行中である。
- **SET**ボタンを何度か短く押して、選択したいモードをインフォメーションディスプレイに表示させます。

このメニューには平均燃費 2(km/ リッターもしくはマイル/リッター)と次回サービス実施までの走行距離が表示されます。



参考

平均燃費 2 はイグニッションをオンにし、数百メートル走行した後で表示されます。
イグニッションをオフにして 60 分が経過すると、平均燃費 2 の表示は再び 0 にリセットされます。

SETボタンを短く押します。

インフォメーションディスプレイが次のモードに切り替わります

6.13.15 サービス / 航続距離メニュー



条件

ケース 1

- ・ イグニッションがオンである。
- ・ 車両が停止している。

ケース 2

- ・ イグニッションがオンである。
 - ・ 車両が走行中である。
- SETボタンを何度か短く押して、選択したいモードをインフォメーションディスプレイに表示させます。

このメニューでは次回サービス実施までの走行距離、そして航続距離が表示されます。



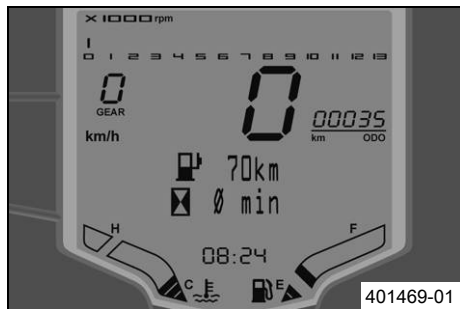
参考

航続距離は平均燃費とフューエルタンク内の燃料量に関係しています。
航続距離はイグニッションをオンにし、数百メートル走行した後で表示されます。
イグニッションをオフにして 60 分が経過すると、航続距離および走行時間の表示は再び 0 にリセットされます。

SETボタンを短く押
します。

インフォメーションディスプレイが次のモードに切り替わります

6.13.16 航続距離 / 走行時間メニュー



条件

ケース 1

- イグニッションがオンである。
- 車両が停止している。

ケース 2

- イグニッションがオンである。
 - 車両が走行中である。
- **SET**ボタンを何度か短く押して、選択したいモードをインフォメーションディスプレイに表示させます。

このメニューでは航続距離と走行時間が表示されます。



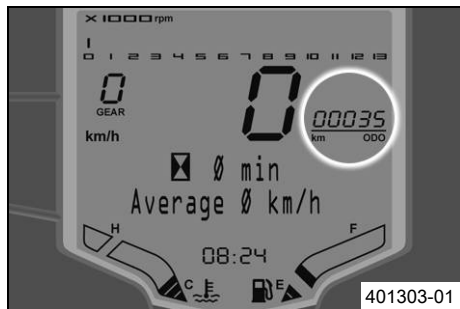
参考

航続距離は平均燃費とフューエルタンク内の燃料量に関係しています。
航続距離はイグニッションをオンにし、数百メートル走行した後で表示されます。
イグニッションをオフにして 60 分が経過すると、航続距離および走行時間の表示は再び 0 にリセットされます。

SETボタンを短く押
します。

インフォメーションディスプレイが次のモードに切り替わります

6.13.17 総走行距離ODOメニュー

**条件****ケース 1**

- ・ イグニッションがオンである。
- ・ 車両が停止している。

ケース 2

- ・ イグニッションがオンである。
 - ・ 車両が走行中である。
- **MODE**ボタンを何度か短く押して、ディスプレイに**ODO**を表示させます。

ODOは走行した総距離を示します。

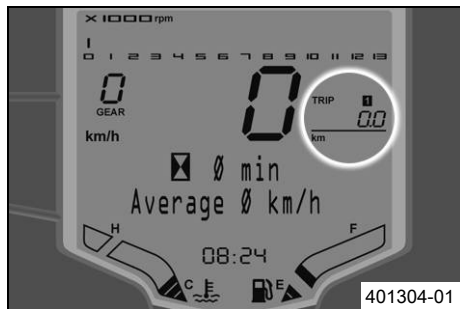
**参考**

この値はバッテリーが車両から外されても、またヒューズが飛んでも保持されます。

MODEボタンを押
します。

ディスプレイが次のモードに切り替わります

6.13.18 走行距離 1 TRIP 1 メニュー



条件

ケース 1

- ・ イグニッションがオンである。
- ・ 車両が停止している。

ケース 2

- ・ イグニッションがオンである。
- ・ 車両が走行中である。

– **MODE**ボタンを何度か短く押して、ディスプレイに**TRIP 1**を表示させます。

TRIP 1モードでは最後のリセットからの走行距離が表示されます (例、給油間の走行距離)。 **TRIP 1**は常に作動しており、**999.9**までカウントします。

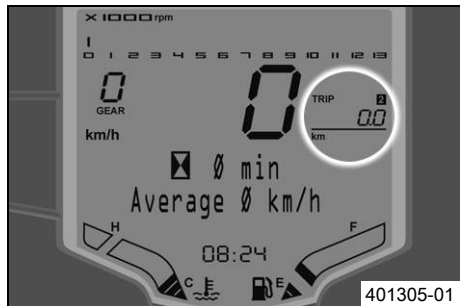
SETボタンを 5~10 秒間押し続けます。

TRIP 1の表示をリセットします

MODEボタンを押します。

ディスプレイが次のモードに切り替わります

6.13.19 走行距離 2 TRIP 2 メニュー



条件

ケース 1

- ・ イグニッションがオンである。
- ・ 車両が停止している。

ケース 2

- ・ イグニッションがオンである。
- ・ 車両が走行中である。

– **MODE**ボタンを何度か短く押して、ディスプレイに**TRIP 2**を表示させます。

TRIP 2モードでは最後のリセットからの走行距離が表示されます (例、給油間の走行距離)。TRIP 2は常に作動しており、999.9までカウントします。

SETボタンを 5~10 秒間押し続けます。	TRIP 2の表示をリセットします
MODEボタンを押します。	ディスプレイが次のモードに切り替わります

6.13.20 キロメートルかマイルを選択する



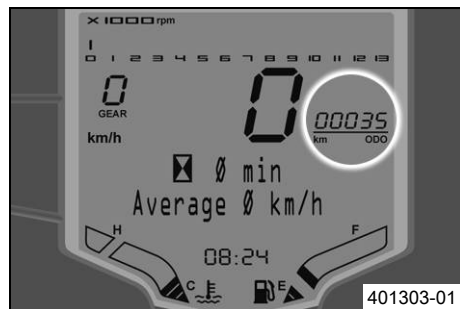
参考

国に応じた設定を選択して下さい。

条件

イグニッションがオンである。
車両が停止している。

- MODEボタンを何度か短く押して、ディスプレイにODOを表示させます。
- MODEボタンを 5 ~ 10 秒間押し続けます。
- ✓ 表示が km/h から mph に、または mph から km/h に切り替わります。



6.13.21 時計を設定する

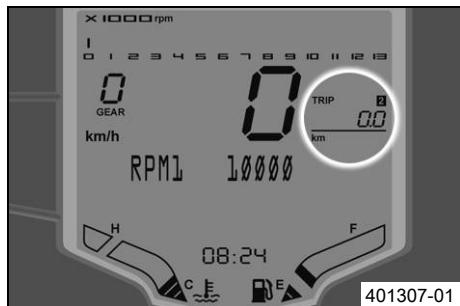


条件

イグニッションがオンである。
車両が停止している。

- MODEボタンを何度か短く押して、ディスプレイにODOを表示させます。
- MODEボタンとSETボタンを5~10秒間押し続けます。
 - ✓ 時計表示が点滅し始めます。
- MODEボタンで時間表示を設定します。
- SETボタンで分表示を設定します。
- MODEボタンとSETボタンを5~10秒間押し続けます。
 - ✓ 時計が設定されました。

6.13.22 シフト回転数RPM 1を設定する



条件

イグニッションがオンである。
車両が停止している。

- MODEボタンを何度か短く押して、ディスプレイにTRIP 2を表示させます。
- MODEボタンを5~10秒間押し続けます。
 - ✓ RPM 1が表示されます。

参考

回転数は50単位で設定できます。
RPM 1はシフトランプが作動・点滅を始める回転数を示します。

- MODEボタンとSETボタンを使って回転数を設定します。

i 参考

MODEボタンは値を増やします。
SETボタンは値を減らします。

- どちらのボタンも押さずに約 15 秒間待ちます。
- ✓ RPM 1の表示が消え、設定した回転数が保存されます。

6.13.23 シフト回転数RPM 2 を設定する

条件

イグニッションがオンである。
車両が停止している。

- MODEボタンを何度か短く押して、ディスプレイにTRIP 2を表示させます。
- SETボタンを 5~ 10 秒間押し続けます。
- ✓ RPM 2が表示されます。

i 参考

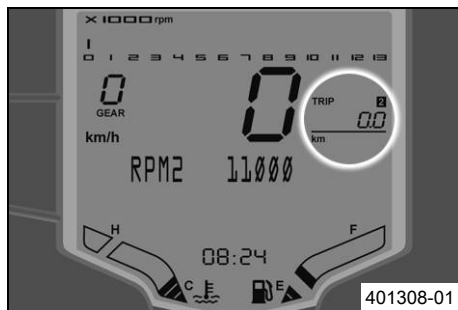
回転数は 50 単位で設定できます。
RPM 2はシフトランプが点灯したままになる回転数を示します。
回転数RPM 2には必ず回転数RPM 1より大きな値を設定して下さい。

- MODEボタンとSETボタンを使って回転数を設定します。

i 参考

MODEボタンは値を増やします。
SETボタンは値を減らします。

- どちらのボタンも押さずに約 15 秒間待ちます。
- ✓ RPM 2の表示が消え、設定した回転数が保存されます。



6.14 フィラーキャップを開く



危険

火災の危険性 燃料は可燃性です。

- 給油の際は炎や吸いかけのタバコの近くを避け、エンジンを必ず停止して下さい。また、熱せられた部品には特に燃料がかからないよう注意して下さい。こぼれた燃料はすぐに拭き取って下さい。
- フューエルタンク内の燃料は熱により膨張し、溢れ出る恐れがあります。給油に関する注意事項をよく守って下さい。



警告

中毒の危険性 燃料は毒性で、健康に害を及ぼします。

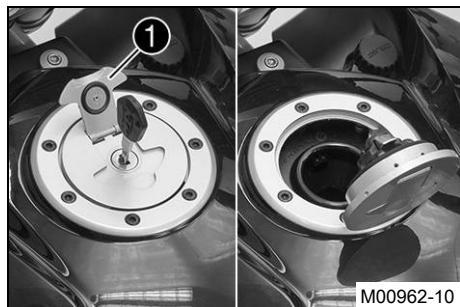
- 燃料が皮膚、目、衣服につかないよう注意して下さい。燃料から発生するガスを吸い込まないで下さい。目に入った場合はすぐに水で洗い流し、医師の診断を受けて下さい。皮膚についた場合は、すぐにその部分を水と石鹼で洗って下さい。燃料を飲み込んでしまった場合は、すぐに医師の診断を受けて下さい。燃料が衣服についた場合は着替えて下さい。燃料は適切なキャニスターに入れ、子供の手の届かない場所に保管して下さい。



警告

環境汚染 燃料の不適切な取り扱いは、環境汚染の原因となります。

- 燃料を地下水、土壌、下水道に流してはいけません。



- フィラーキャップのカバー①を上を開き、イグニッションキーを鍵穴に差し込みます。

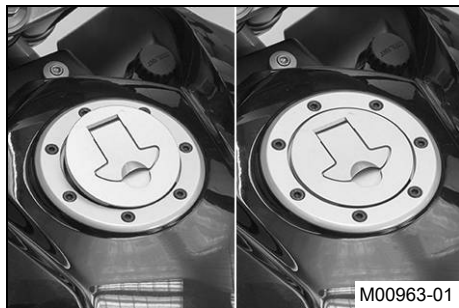
注意

損傷の危険性 イグニッションキーの破損。

- イグニッションキーに負担がかからないよう、フィラーキャップを上から押し下す。イグニッションキーが破損した場合は交換して下さい。
- イグニッションキーを時計回りに 90 度回します。

- フィラーキャップを上を開きます。
- イグニッションキーを抜きます。

6.15 フィラーキャップを閉じる



警告

火災の危険性 燃料は可燃性で毒性があり、健康に害を及ぼします。

- フィラーキャップを閉じた後は、きちんとロックされているか確認して下さい。燃料が衣服についた場合は着替えて下さい。皮膚についた場合は、すぐにその部分を水と石鹸で洗って下さい。
-
- フィラーキャップを閉じます。
 - ロックがはまるまで、フィラーキャップを下に押しします。

6.16 シートロック



シートロック①はシートの左横に設置されています。
イグニッションキーでロックできます。

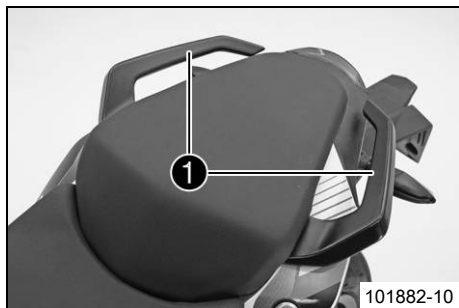
6.17 車載工具



B00758-10

リアシートの下に車載工具①が収納されています。

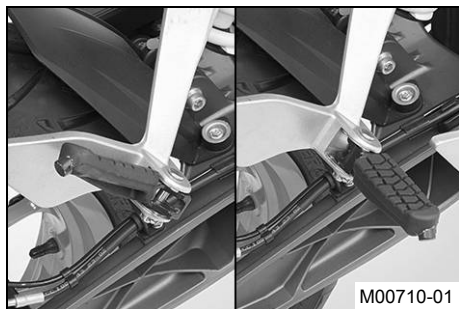
6.18 サイドグリップ



101882-10

サイドグリップ①は車両を移動する際に使用します。
同乗者を乗せている場合、同乗者はサイドグリップをつかんで身体を支える事ができます。

6.19 リアシート用フットレスト

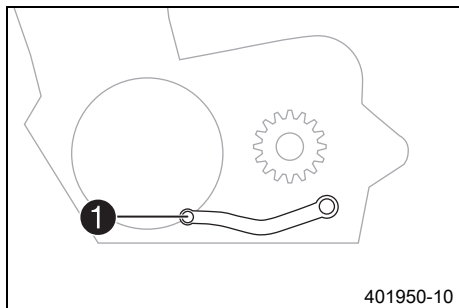


リアシート用フットレストは開閉式になっています。

確認すべき状態

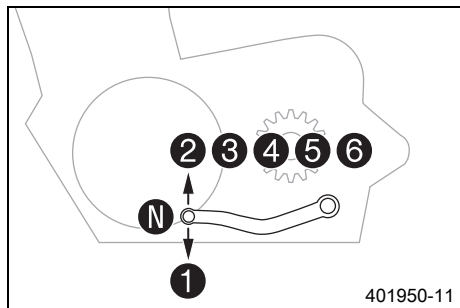
- リアシート用フットレストが閉じられている- 同乗者がいない場合。
- リアシート用フットレストが開かれている- 同乗者がいる場合。

6.20 シフトレバー



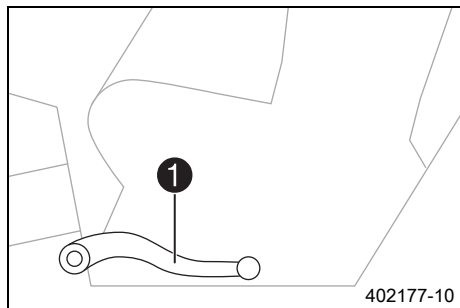
シフトレバー①はエンジンの左側に設置されています。

6 操作各部



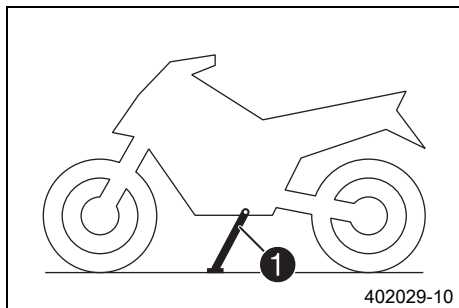
各ギアのポジションは図の通りです。
ニュートラル / アイドリングは 1 速と 2 速の間にあります。

6.21 ブレーキペダル



ブレーキペダル①は右のフットレストの前方に設置されています。
ブレーキペダルで後輪ブレーキを作動します。

6.22 サイドスタンド



サイドスタンド①は車両の左側に設置されています。
サイドスタンドは車両を立てるのに使用します。

i 参考

走行中はサイドスタンドを上閉じてください。
サイドスタンドは安全スタートシステムと連結しています。運転上の注意事項の説明に従ってください。

確認すべき状態

- サイドスタンドが開かれている-サイドスタンドで車両を立てる事ができます。安全スタートシステムが作動しています。
- サイドスタンドが閉じられている-走行中は必ずこの位置にして下さい。安全スタートシステムは作動していません。

7.1 初めて運転操作を行う際の注意



危険

事故の危険性 不十分な運転技能による危険性。

- 飲酒および薬剤やドラッグを摂取した状態、または精神的・肉体的理由により道路交通で正常な運転ができない恐れがある場合は、運転をしないで下さい。



警告

人体への危険性 不足および欠陥のある保護服の着用は安全面での危険性を高めます。

- 走行の際は必ず保護服（ヘルメット、ブーツ、手袋、ズボン、プロテクター付きジャケット）を着用して下さい。損傷等がなく、かつ法規則に従った保護服を常に着用して下さい。



警告

転倒の危険性 前輪と後輪でタイヤのプロフィールが異なっていると、安定した走行が妨げられます。

- 制御不能な状況にならないよう、前輪・後輪には必ず同種プロフィールのタイヤを装着して下さい。



警告

事故の危険性 承認または推奨されていないタイヤならびに車輪を装着した場合、走行性能が損なわれます。

- KTM により承認および推奨された適切な速度記号のタイヤならびに車輪のみを使用して下さい。



警告

事故の危険性 新しいタイヤでの粘着力の低下。

- 新しいタイヤは接地面が滑らかで、粘着力が完全ではありません。最初の 200 km は穏やかに、傾きを変えて走行し、接地面全体を粗くします。タイヤは「走り込み」によりはじめてその粘着力をフルに発揮できます。



参考

運転の際は、過度の騒音で周辺の人々の迷惑にならないよう心がけましょう。

- KTM 正規ディーラーで納車前検査がきちんと行われた事を確認して下さい。
✓ 納車の際、納車証明書とカスタマーサービスブックがお客様に手渡されます。
- 初めて運転をする前に、オーナーズマニュアルを全頁よく読んで下さい。
- 操作各部の扱いに慣れて下さい。
- ツーリングに出る前に、まず適切なオフロードで車両の取り扱いに慣れて下さい。一度できるだけゆっくり走る練習もし、車両の感覚をつかむようにして下さい。
- 走行中は両手でしっかりとハンドルバーを握り、フットレストに両足をのせます。
- 慣らし運転をします。(📖 頁58)

7.2 慣らし運転をする

- 慣らし運転の段階では、以下に挙げたエンジン回転数を超えないようにして下さい。
規定

エンジンの最高回転数	
走行開始から最初の: 1,000 km	7,500 rpm

ヒント

慣らし運転の段階では、シフトランプを上挙げたエンジン回転数に設定します。

- シフト回転数RPM 1を設定します。(📖 頁49)
- シフト回転数RPM 2を設定します。(📖 頁50)
- フルスロットルでの運転は避けて下さい！

7.3 車両に荷物を積む



警告

事故の危険性 不安定な走行状態。

- 最大許容重量および軸重を超えることないようにご注意ください。総重量は運転準備が整い満タンに給油した状態の車両、保護服とヘルメットを着用した運転者と同乗者、荷物の総重量です。



警告

事故の危険性 ハードケースやタンクバッグの不適切な取り付けによる不安定な走行状態。

- ハードケースやタンクバッグはメーカーの規定に従って取り付けの上、固定して下さい。



警告

事故の危険性 ハードケースが破損する危険性。

- ハードケースを車両に取り付けている場合は、メーカーの最大積載量に関する規定を守って下さい。



警告

事故の危険性 荷物がずれて他の運転者から良く見えない。

- テールライトが覆われていると、暗がりでは特に後続の交通に認識されにくくなります。車両に載せている荷物の固定状態を定期的に点検して下さい。



警告

事故の危険性 積載量の増加による走行状態の変化と制動距離の増加。

- 速度を積載量に合わせて走行して下さい。



警告

事故の危険性 荷物のすべりによる不安定な走行状態。

- 車両に載せている荷物の固定状態を定期的に点検して下さい。

7 運転操作の前に

- 荷物を積む場合はできるだけ車両の中心にしっかりと固定し、前輪・後輪均等に重量がかかるよう注意します。
- 最大許容総重量並びに最大許容軸重を守って下さい。

規定

最大許容総重量	335 kg
最大許容軸重 (前輪)	125 kg
最大許容軸重 (後輪)	210 kg

8.1 運転操作の前に必ず行う点検・メンテナンス作業



参考

走行前には必ず車両の状態を点検し、道路交通で安全に使用できる事を確認して下さい。
運転の際は車両が技術的に完璧な状態でなければなりません。

- エンジンオイルのレベルを点検します。(📖 頁147)
- 前輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検します。(📖 頁96)
- 後輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検します。(📖 頁101)
- 前輪ブレーキのブレーキパッドを点検します。(📖 頁99)
- 後輪ブレーキのブレーキパッドを点検します。(📖 頁104)
- ブレーキシステムの機能を点検します。
- クーラントのレベルを点検します。(📖 頁138)
- チェーンの汚れを点検します。(📖 頁84)
- チェーンの遊びを点検します。(📖 頁85)
- タイヤの状態を点検します。(📖 頁113)
- タイヤの空気圧を点検します。(📖 頁114)
- 操作各部が正しく調節されているか、スムーズに操作できるか確認します。
- 電装系部品の機能を点検します。
- 荷物が正しく固定されているか確認します。
- 車両に乗り、バックミラーの位置を確認します。
- 燃料の残量を確認します。

8.2 エンジン始動



危険

中毒の危険性 排気ガスは毒性で、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンをかけているときは必ず十分に換気し、適切な排気設備のない閉め切った室内でエンジンをかけたり、かけたままにする事はやめて下さい。



注意

事故の危険性 バッテリーがあがった状態、もしくはバッテリーなしで車両を運転すると、電子部品と安全関連装置を損傷する恐れがあります。

- バッテリーがあがった状態、もしくはバッテリーなしで車両を運転する事は絶対に避けて下さい。

注意

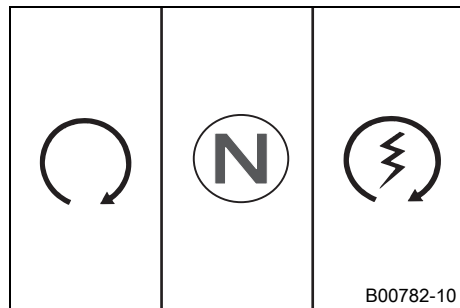
エンジン損傷 フィルターを通さずに吸い込んだ空気は、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。

- エアフィルターをつけずに運転すると、ほこりや汚れがエンジンに入り込んで摩耗を早めますので、絶対にやめて下さい。

注意

エンジン損傷 エンジンが冷えた状態で高回転させるのは、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。

- 必ず低回転での暖機運転を行って下さい。



- ハンドル操作のロックを解除します。(🔑 頁27)
- 車両に乗ってサイドスタンドに重量をかけないようにし、サイドスタンドを足で押し上げて完全に閉じます。
- エマージェンシーOFFスイッチを押して○の位置に入れます。
- イグニッションキーを○の位置に回して、イグニッションを作動します。
 - ✓ イグニッションをオンにすると、燃料ポンプの作動音が約2秒間聞こえます。同時にコンビネーションインスツルメントの機能点検が実行されます。
- ギアをニュートラルに入れます。
 - ✓ 緑のニュートラルインジケータランプ**N**が点灯します。
 - ✓ **ABS**警告ランプが点灯し、発進するとまた消えます。
- スタータースイッチ③を押します。

i 参考

コンビネーションインスツルメントの機能点検が終了するまで、スタータースイッチを押さないで下さい。

始動の際、スロットルは**開かない**で下さい。エンジン始動時にスロットルを開くとエンジン制御から燃料が噴射されず、エンジンがかかりません。

5秒以上連続してエンジンをかけようとししないで下さい。再度試みるまで最低5秒は間隔をおいて下さい。

本モデルには安全スタートシステムが装備されています。ギアがニュートラルに入っているか、またはニュートラル以外のポジションでクラッチレバーが握られている場合にのみ、エンジンの始動が可能です。サイドスタンドを開いた状態でギアを入れ、クラッチレバーを離すとエンジンが停止します。



ABS を停止する

KTM では常に ABS を作動した状態で走行する事をお勧めしています。しかし、走行状況によって ABS の作動が好ましくない場合もあります。

条件

車両が停止しており、エンジンがかかっている。

- ボタン①を3～5秒間押し続けます。
- ✓ ABS 警告ランプが点滅し始め、ABS がオフになります。

8.3 発進

- クラッチレバーを握り、ギアを1速に入れ、クラッチレバーをゆっくりと離しながら慎重にスロットルを開いていきます。

ヒント

発進の際にエンストしてしまった場合は、クラッチレバーを握ってスタータスイッチを作動するだけで大丈夫です。ギアをニュートラルに入れる必要はありません。

8.4 シフト操作とライディング



警告

事故の危険性 左右の負荷バランスが突然変わると、車両は制御不可能な状態に陥ることがあります。

- 突然負荷を変更したり強くブレーキを作動することは避け、速度は道路の状態に合わせて下さい。



警告

事故の危険性 エンジン回転数が高い状態でシフトダウンすると、後輪がロックする原因となります。

- エンジン回転数が高いままシフトダウンする事は避けて下さい。エンジンが過回転し、後輪がロックする恐れがあります。

8 運転上の注意事項



警告

事故の危険性 間違ったイグニッションキーの設定による不具合の発生。

- 走行中はイグニッションキーの設定を変更しないで下さい。



警告

事故の危険性 車両での設定作業による交通状態への不注意。

- すべての設定作業は車両が停止している状態で行って下さい。



警告

怪我の危険性 同乗者の落下。

- 同乗者はリアシートに正しく乗り、運転者がサイドグリップにつかまります。両足はリアシート用のフットレストに乗せません。同乗者の最低年齢に関する規則を守って下さい。



警告

事故の危険性 危険な運転マナーによる事故の危険性。

- 交通規則を守り、危険をできるだけ早く認識できるよう、安全かつ予見的な運転を心がけて下さい。



警告

事故の危険性 タイヤが冷たい場合の粘着力の低下。

- タイヤが作動温度に達し、最適な粘着力が得られるまで、走行時は必ず最初の数キロメートルを慎重に速度を抑えて走行して下さい。



警告

事故の危険性 新しいタイヤでの粘着力の低下。

- 新しいタイヤは接地面が滑らかで、粘着力が完全ではありません。最初の 200 km は穏やかに、傾きを変えて走行し、接地面全体を粗くします。タイヤは「走り込み」によりはじめてその粘着力をフルに発揮できます。



警告

事故の危険性 荷物のすべりによる不安定な走行状態。

- 車両に載せている荷物の固定状態を定期的に点検して下さい。

8 運転上の注意事項



警告

事故の危険性 転倒後は車両を点検して下さい。

- 転倒後は運転操作をする前に必ず実施するのと同様の点検を行って下さい。

注意

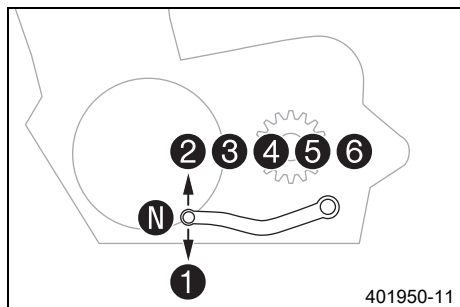
エンジン損傷 過熱でエンジンが損傷します。

- クーラント温度の警告表示が点灯したら、すぐに他の交通の妨げにならないように停車して下さい。
- エンジンと冷却システムの温度が下がるまでお待ち下さい。
- 冷却システムの温度が下がった時に、クーラントのレベルを調節ならびに調整して下さい。



参考

運転中に異常な音がある場合はすぐに停止し、エンジンを切り、KTM 正規ディーラーに連絡して下さい。




- 状況 (勾配、走行状態など) に応じてシフトアップできます。
- スロットルを閉じ、同時にクラッチレバーを握り、次のギアに入れ、クラッチレバーを離しながらスロットルを開きます。



参考

6つの前進ギアのポジションは図の通りです。ニュートラル/アイドリングは1速と2速の間にあります。1速は発進または登り坂で使用するギアです。作動温度に達したら温度表示のゲージが4つ点灯します。

- 常に車道や天候状態に合わせてスロットルを開くようにして下さい。特にカーブではシフトチェンジをせず、細心の注意を払ってスロットルを開くようにして下さい。
- シフトダウンするには、必要に応じてブレーキをかけながらスロットルを閉じます。
- クラッチレバーを握り、低いギアに入れ、クラッチレバーをゆっくりと離しながらスロットルを開くか、再度ギアチェンジします。

- しばらくアイドリングや停止状態が続く場合は、エンジンを停止して下さい。
- 運転中にエンジン診断警告ランプ  が点灯し始めたら、すぐに停止してエンジンを切り、KTM 正規ディーラーに連絡して下さい。

8.5 ブレーキをかける



警告

事故の危険性 ブレーキシステムの濡れ・汚れによるブレーキ性能の劣化。

- ブレーキを慎重に作動し、ブレーキシステムの汚れ・濡れを解消して下さい。



警告

事故の危険性 前輪または後輪ブレーキで圧点が安定していない事によるブレーキ性能の低下。

- この状態で運転はせず、ブレーキシステムを点検して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



警告

事故の危険性 ブレーキがきかない。

- ブレーキペダルに足をかけたままにすると、ブレーキパッドが常に擦られている状態になります。後輪ブレーキが過熱によりきかなくなる恐れがあります。ブレーキを作動しないときはブレーキペダルに足をかけないで下さい。



警告

事故の危険性 総重量の増加による制動距離の増加。

- 同乗者や荷物を乗せている場合は、制動距離が長くなる事にご注意下さい。



警告

事故の危険性 凍結防止用の塩が散布された道路でのブレーキ作用の遅れ。

- 凍結防止用の塩がブレーキディスクに堆積する恐れがあります。通常のブレーキ性能を得るには、あらかじめブレーキを作動しブレーキディスクをきれいな状態にしておきます。



警告

事故の危険性 ABS による制動距離の増加。

- 走行状況や道路の状態に応じたブレーキのかけ方をよう注意して下さい。



警告

事故の危険性 ブレーキを強くかけすぎると、ホイールのロックを引き起こします。

- ABS がオンになっていなければ、その効き目は保証されません。

- ブレーキをかけるにはスロットルを閉じ、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に作動します。



参考

ABSにより、フルブレーキングではもちろん、砂地、雨で濡れた地面やスリップしやすい場所でグリップ力が低下している場合にも、車輪のロックを心配する事なく制動力をフルに活用できます。



警告

事故の危険性 エンジンブレーキの作用による車輪のロック。

- 非常ブレーキやフルブレーキング及び地面が滑りやすい場所でブレーキをかける際はクラッチを切って下さい。



警告

事故の危険性 傾いた状態または道の脇が急傾斜になっている場所でのブレーキ作動によるグリップ力の低下。

- ブレーキをかけるプロセスはカーブが始まる前に終了して下さい。

- ブレーキをかけるプロセスは常にカーブが始まる前までに終了させます。その際、速度に合わせてシフトダウンして下さい。
- 長い下り坂ではエンジンブレーキを利用して下さい。エンジンブレーキを利用するには、エンジンが過回転しないよう注意しながら1段か2段シフトダウンします。こうするとブレーキをかける回数をはるかに減り、ブレーキが過熱するのを防ぐ事ができます。

8.6 停止と駐車



警告

盗難の危険性 第三者による不法な使用。

- エンジンをかけたまま車両を放置するのは絶対にやめて下さい。不法な第三者が車両に近づかないよう注意して下さい。車両を離れる場合はハンドル操作をロックし、イグニッションキーを抜きます。



警告

火傷の危険性 一部の部品は運転中非常に熱くなります。

- 排気装置、ラジエーター、エンジン、ダンパー、ブレーキシステムなど、熱くなった部品には触れないで下さい。これら部品で作業を行う際は、部品が冷えるまで待って下さい。

注意

部品の損傷 誤った方法で駐車を行った場合、車両が破損する恐れがあります。

車両が動いたり倒れたりした場合、大きな破損につながる恐れがあります。


車両を立てる部品はその車両重量のみを考慮して設計されています。

- 車両は安定した平らな地面の上に立てます。
- 車両がスタンド一本で駐車されている場合、車両に誰も乗っていないことを確かめて下さい。

注意

火災の危険性 一部の部品は運転中非常に熱くなります。

- 可燃性並びに引火性の物質近くに車両をとめないで下さい。走行で暖まった車両の上に物を置かないで下さい。必ず車両が十分に冷えるまで待って下さい。

-
- 車両にブレーキをかけます。
 - ギアをニュートラルに入れます。
 - イグニッションキーを  の位置に回して、イグニッションを停止します。

i 参考

エンジンをエマージェンシーOFFスイッチで停止し、イグニッションがまだ作動している状態では、電装系部品の大部分にまだ電気が供給されており、これによりバッテリーが消費されます。エンジンは必ずイグニッションで停止し、エマージェンシーOFFスイッチは非常の場合にのみ使用するようして下さい。

- 車両を安定した地面の上に駐車します。
- 足でサイドスタンドを前に押し完全に開き、車両の重量をかけます。
- ハンドル操作をロックします。(🔒 頁27)

8.7 輸送

注意

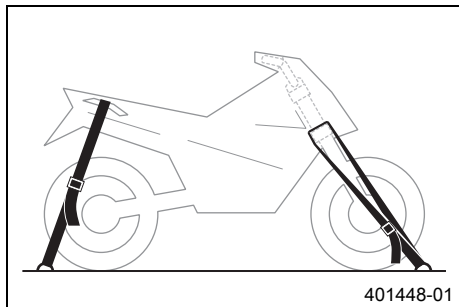
損傷の危険性 停車中の車両が動いたり倒れる恐れがあります。

- 車両は必ず安定した平らな場所にとめて下さい。

注意

火災の危険性 一部の部品は運転中非常に熱くなります。

- 可燃性並びに引火性の物質近くに車両をとめないで下さい。走行で暖まった車両の上に物を置かないで下さい。必ず車両が十分に冷えるまで待って下さい。



- エンジンを停止し、イグニッションキーを抜きます。
- ラッシングベルトが適切な固定器具で、車両が倒れたり動いたりしないよう固定します。

8.8 燃料を給油する



危険

火災の危険性 燃料は可燃性です。

- 給油の際は炎や吸いかけのタバコの近くを避け、エンジンを必ず停止して下さい。また、熱せられた部品には特に燃料がかからないよう注意して下さい。こぼれた燃料はすぐに拭き取って下さい。
- フューエルタンク内の燃料は熱により膨張し、溢れ出る恐れがあります。給油に関する注意事項をよく守って下さい。



警告

中毒の危険性 燃料は毒性で、健康に害を及ぼします。

- 燃料が皮膚、目、衣服につかないよう注意して下さい。燃料から発生するガスを吸い込まないで下さい。目に入った場合はすぐに水で洗い流し、医師の診断を受けて下さい。皮膚についた場合は、すぐにその部分を水と石鹼で洗って下さい。燃料を飲み込んでしまった場合は、すぐに医師の診断を受けて下さい。燃料が衣服についた場合は着替えて下さい。

注意

部品の損傷 燃料フィルターの早期目詰まり。

- 国または地域によって、入手可能な燃料の品質および純度が十分ではありません。燃料システムで問題を引き起こす事があります。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)

8 運転上の注意事項

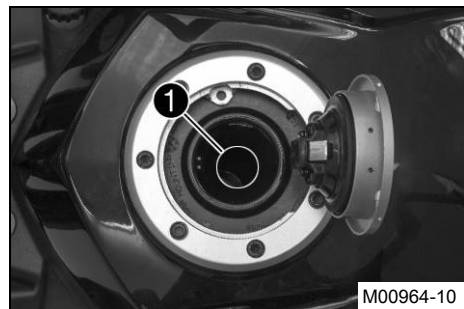
- 指定された規格に適合した、きれいな燃料のみを使用して下さい。



警告

環境汚染 燃料の不適切な取り扱い、環境汚染の原因となります。

- 燃料を地下水、土壌、下水道に流してはいけません。



- エンジンを停止します。
- フィラーキャップを開きます。(図 頁51)
- 注入口の下端①を超えないように注意しながらフューエルタンクに燃料を注ぎます。

フューエルタンク 総容量(約)	11 L	無鉛ハイオクガソリン (ROZ 95) (図 頁176)
--------------------	------	---------------------------------

- フィラーキャップを閉じます。(図 頁52)

9 サービスプラン

9.1 補足情報

必須項目や推奨項目の作業実施により発生した、これら項目以外の作業については、別途注文・請求となります。

9.2 必須作業

	2年ごと				
	毎年				
	15,000 km 走行ごと				
	7,500 km 走行ごと				
	1,000 km 走行後				
KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。 🐛	○	●	●	●	●
電装系部品の機能を点検します。 🐛	○	●	●	●	●
エンジンオイルとオイルフィルターを交換し、オイルスクリーンを清掃します。 🐛 (📖 頁147)	○	●	●	●	●
ブレーキディスクを点検します。 (📖 頁95)	○	●	●	●	●
前輪ブレーキのブレーキパッドを点検します。 (📖 頁99)	○	●	●	●	●
後輪ブレーキのブレーキパッドを点検します。 (📖 頁104)	○	●	●	●	●
タイヤの状態を点検します。 (📖 頁113)	○	●	●	●	●
タイヤの空気圧を点検します。 (📖 頁114)	○	●	●	●	●
ブレーキホースに損傷や漏れがないかを点検します。 🐛	○	●	●	●	●
前輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検します。 (📖 頁96)	○	●	●	●	●
後輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検します。 (📖 頁101)	○	●	●	●	●
ショックアブソーバーとフロントフォークに漏れがないか点検します。	○	●	●	●	●
フォークレグのダストシールを清掃します。		●	●		
チェーン、リアスプロケット、フロントスプロケットを点検します。 (📖 頁88)		●	●	●	●
チェーンの遊びを点検します。 (📖 頁85)	○	●	●	●	●

9 サービスプラン

	2年ごと				
	毎年				
	15,000 km 走行ごと				
	7,500 km 走行ごと				
	1,000 km 走行後				
クーラントのレベルを点検します。(📖 頁138)	○	●	●	●	●
冷却ファンが正しく機能するか確認します。🔧	○	●	●	●	●
エアフィルターを交換します。エアフィルターケースを清掃します。🔧		●	●		
ワイヤーに破損がないか、折れがなく配線・調節されているか確認します。🔧	○	●	●	●	●
ケーブルに破損がないか、折れない配線になっているか確認します。🔧	○	●	●	●	●
バルブの遊びを点検します。🔧	○				
バルブの遊びを点検し、スパークプラグを交換します。🔧			●		
前輪ブレーキのブレーキフルードを交換します。🔧					●
後輪ブレーキのブレーキフルードを交換します。🔧					●
ステアリングヘッドのベアリングのガタを点検します。	○	●	●	●	●
ヘッドライトの設定を点検します。(📖 頁131)	○	●	●		
最終確認: 車両が道路交通で安全に使用できる状態であることを確認し、試験走行を行います。🔧	○	●	●	●	●
試験走行後に KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。🔧	○	●	●	●	●
サービス時期の表示をリセットします。🔧	○	●	●		
KTM Dealer.netとカスタマーサービスブックでサービス登録を行います。🔧	○	●	●	●	●

- 一度限りの実施時期
- 定期的な実施時期

9.3 推奨作業

	4年ごと			
	毎年			
	7,500 km 走行ごと			
	1,000 km 走行後			
不凍液を点検します。👉	○	●	●	
クーラントを交換します。👉				●
全ての可動部品 (サイドスタンド、ハンドレバー、チェーンなど)をグリースアップし、部品がスムーズに動くか確認します。👉	○	●	●	●
ホース類 (燃料、クーラント、エア抜き、排水ホースなど)とワイヤーブーツの全てで、ひびや漏れがないか、正しく配置されているかを確認します。👉	○	●	●	●
スイングアームのベアリングを点検します。👉		●		
ホイールベアリングのガタを点検します。👉		●		
スクリーンとナットがきちんと締められているかを点検します。👉	○	●	●	●

- 一度限りの実施時期
- 定期的な実施時期

10.1 ショックアブソーバーの springs プリロードを調節する



警告

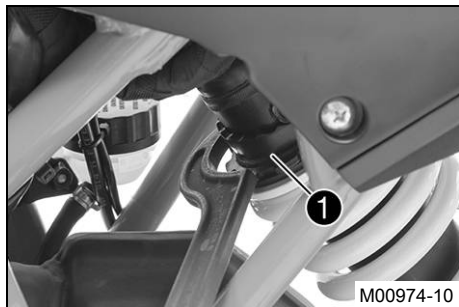
事故の危険性 シャーシの設定変更により走行挙動が大きく変化する事があります。

- 変更後はまずゆっくり走行し、走行挙動を把握するようにして下さい。



参考

スプリングプリロードはショックアブソーバーが伸び縮みする際の基本状態を決定します。スプリングプリロードを最適に調節する事により、運転者の体重(場合によってはさらに荷物と同乗者)に合わせて操作性と安定性のバランスを取る事ができます。



- 調節リング①を回し、スプリングロードを調節します。
規定

スプリングプリロード	
コンフォート	1 クリック
スタンダード	3 クリック
スポーツ	6 クリック
最大積載時	10 クリック

フックレンチ (T106S)



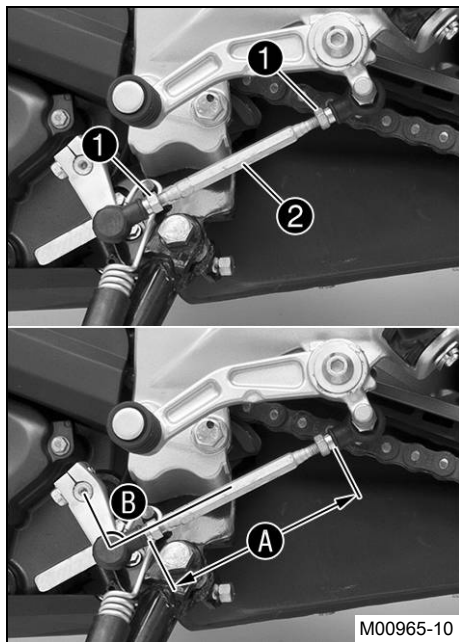
参考

スプリングプリロードは 10 の異なったポジションに調節する事ができます。

10.2 シフトレバーを調節する

i **参考**

シフトレバーの調節範囲には限界があります。



- ナット**①**を緩めます。
- シフトロッド**②**を回転してシフトレバーを調節します。

規定

シフトロッドの調節範囲 ①	110... 122 mm
----------------------	---------------

i **参考**

両端が同じになるように調節します。
シフトロッドが支持部に最低 5 回転分、ねじ込まれているようにして下さい。

- 設定角度**②**を点検します。

規定

設定角度 ② シフトロッドリンケージシステムシフトレバー	90°
-------------------------------------	-----

- ナット**①**をしっかりと締めます。

i **参考**

ベアリングシート内で自由に動けるよう、ナットを締め付けた状態でシフトロッドのベアリングが中心から均等に調整されている事を確認して下さい。

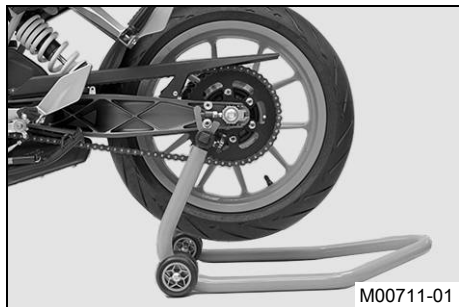
- シフトレバーが機能するか、自由に動けるかを確認します。

11.1 車両をリアスタンドでジャッキアップする

注意

損傷の危険性 停車中の車両が動いたり倒れる恐れがあります。

- 車両は必ず安定した平らな場所にとめて下さい。



- スタンド用のサポートを取り付けます。
- アダプターをリアスタンドに差し込みます。

リアスタンド用ブッシュキット (90229955044)

汎用 V 型アダプター (61029955244)

リアスタンド (61029055400)

- 車両を垂直に立て、ジャッキをスイングアームとアダプターに合わせて車両を持ち上げます。

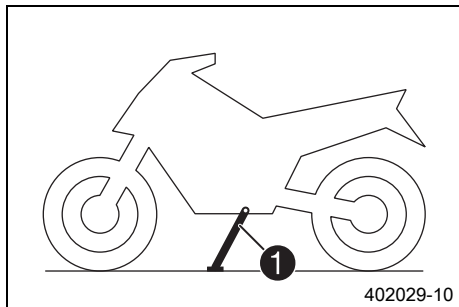
11.2 車両をリアスタンドから降ろす

注意

損傷の危険性 停車中の車両が動いたり倒れる恐れがあります。

- 車両は必ず安定した平らな場所にとめて下さい。

11 シャーシで行うサービス作業



- 車両が倒れないように支えます。
- リアスタンドを外し、車両をサイドスタンド①で立てます。

11.3 フロントスタンドで車両をジャッキアップする

注意

損傷の危険性 停車中の車両が動いたり倒れる恐れがあります。

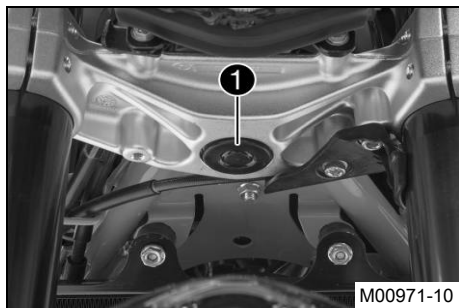
- 車両は必ず安定した平らな場所にとめて下さい。

準備作業

- 車両をリアスタンドでジャッキアップします。(📖 頁78)

条件

- 保護キャップ①を外します。



11 シャーシで行うサービス作業



- ハンドルバーを直進の状態にします。スタンドの位置を調整します。

アダプター (61029955620)

フロントスタンド (61029055500)



参考

車両は必ず後方から先に持ち上げて下さい。

- 車両の前方を持ち上げます。

11.4 車両をフロントスタンドから降ろす

注意

損傷の危険性 停車中の車両が動いたり倒れる恐れがあります。

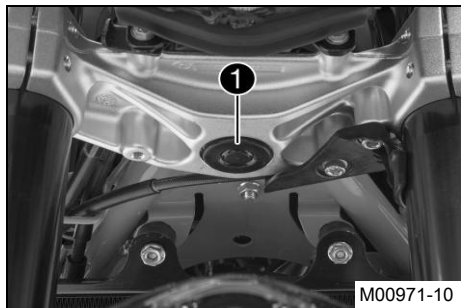
- 車両は必ず安定した平らな場所にとめて下さい。



主な作業

- 車両が倒れないように支えをします。
- フロントスタンドを取り外します。

11 シャーシで行うサービス作業



- 保護キャップ①を取り付けます。

その後の作業

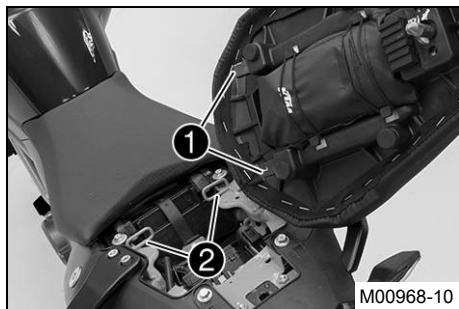
- 車両をリアスタンドから降ろします。(📖 頁78)

11.5 リアシートを取り外す



- イグニッションキーをシートロック①に差し込み、時計回りに回します。
- シート後部を持ち上げ、リアエンドの方に押し、上向きに取り外します。
- イグニッションキーをシートロックから抜きます。

11.6 リアシートを取り付ける



- リアシートにあるフック①をサブフレームの固定フレーム②にはめ、後部を下げながら前に押します。
- リアシートがロックするまで下に押します。

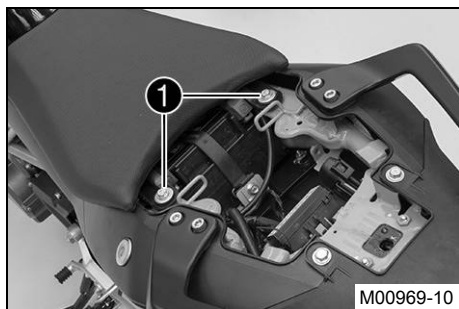


警告

事故の危険性 リアシートが正しく取り付けられていないと、固定部から飛び出す恐れがあります。

- リアシートの取り付け後はリアシートを上につっぱり、きちんとロックされている事を確認して下さい。
-
- 最後にリアシートが正しく取り付けられているか点検します。

11.7 シートを取り外す



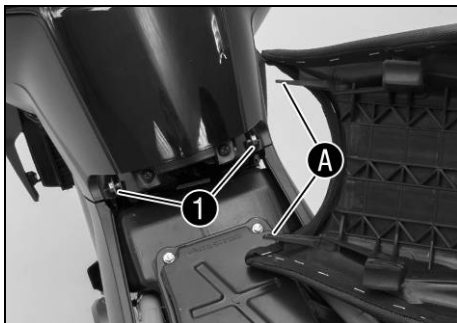
準備作業

- リアシートを取り外します。(📖 頁81)

主な作業

- スクリュー①を外します。
- シート後部を持ち上げ、リアエンドの方に引っ張り、上向きに取り外します。

11.8 シートを取り付ける

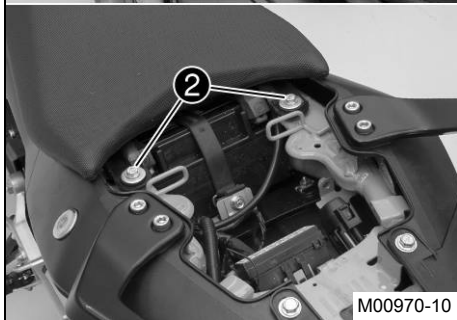


主な作業

- シートのくぼみ部分 **A** をスクリュー **1** にはめ、後部を下げます。
- スクリュー **2** を取り付け、しっかりと締めます。

規定

シート用スクリュー	M6	9 Nm
-----------	----	------

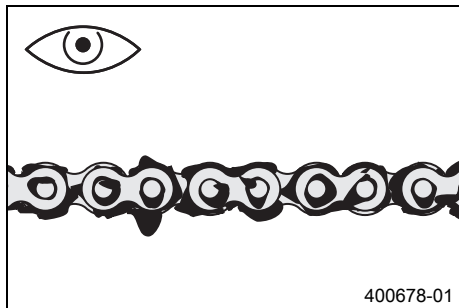


M00970-10

その後の作業

- リアシートを取り付けます。(📖 頁82)

11.9 チェーンの汚れを点検する



- チェーンに大きな汚れが付着していないか点検します。
 - » チェーンがひどく汚れている:
 - チェーンを清掃します。(📖 頁84)

11.10 チェーンを清掃する



警告

事故の危険性 潤滑剤がタイヤに付着すると、タイヤの粘着力が損なわれます。

- 適切な洗浄剤で潤滑剤を取り除いて下さい。



警告

事故の危険性 ブレーキディスクへのオイル、グリースの付着によるブレーキ性能の劣化。

- ブレーキディスクは絶対に油脂類が付かないようにし、必要に応じてブレーキ洗浄剤で清掃します。



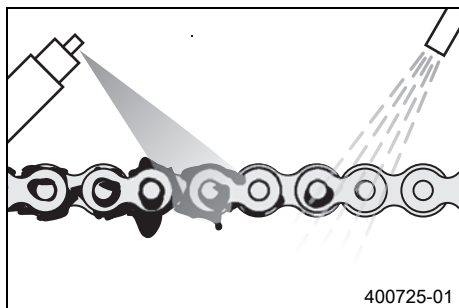
警告

環境汚染 問題物質が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは定められた規則に従って正しく廃棄して下さい。

i 参考

チェーンの寿命は手入れの仕方に大きく左右されます。



準備作業

- 車両をリアスタンドでジャッキアップします。(📖 頁78)

主な作業

- チェーンを定期的に清掃します。
- 大きな汚れは弱い水流で洗い落とします。
- 使用済みグリースの残りはチェーン洗浄剤で落とします。

チェーン洗浄剤 (📖 頁177)

- 乾かした後、チェーンスプレーを吹き付けます。

チェーンスプレー Onroad (📖 頁177)

その後の作業

- 車両をリアスタンドから降ろします。(📖 頁78)

11.11 チェーンの遊びを点検する

! 警告

事故の危険性 不適切なチェーンの遊びによる危険。

- チェーンの張りが強すぎると、二次減速関係の部品 (チェーン、フロントsprocket、リアsprocket、ギア並びに後輪のベアリング) に不要な負荷がかかります。磨耗しやすくなるのに加え、極端な場合にはチェーンが切れたり、ギアのカウンターシャフトが折れたりする恐れがあります。反対にチェーンに遊びがあり過ぎると、フロントsprocketまたはリアsprocketから落ちて後輪をブロックしたり、エンジンを損傷したりする恐れがあります。チェーンの張りが適切であるか注意し、必要な場合は調節して下さい。

準備作業

- 車両をリアスタンドでジャッキアップします。(📖 頁78)

主な作業

- ギアをニュートラルに入れます。
- チェーンスライダーガードの後ろ辺りでチェーンをスイングアームの方向に押し上げ、チェーンの遊び **A** を確認します。

i 参考

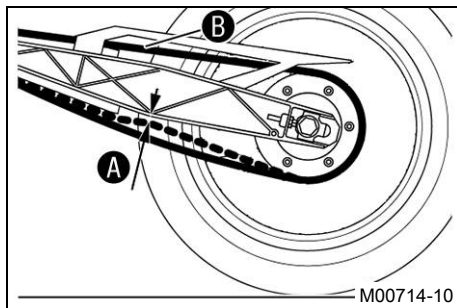
その際、チェーン上部 **B** がピンと張っている事を確認して下さい。
チェーンは均等に擦り切れるとは限らないので、上記確認を何箇所か別の場所で繰り返し行って下さい。

チェーンの遊び	5... 7 mm
---------	-----------

- » チェーンの遊びが規定通りになっていない:
 - チェーンの遊びを調節します。(📖 頁86)

その後の作業

- 車両をリアスタンドから降ろします。(📖 頁78)



11.12 チェーンの遊びを調節する



警告

事故の危険性 不適切なチェーンの遊びによる危険。

- チェーンの張りが強すぎると、二次減速関係の部品 (チェーン、フロントsprocket、リアsprocket、ギア並びに後輪のベアリング) に不要な負荷がかかります。磨耗しやすくなるのに加え、極端な場合にはチェーンが切れたり、ギアのカウンターシャフトが折れたりする恐れがあります。反対にチェーンに遊びがあり過ぎると、フロントsprocketまたはリアsprocketから落ちて後輪をブロックしたり、エンジンを損傷したりする恐れがあります。チェーンの張りが適切であるか注意し、必要な場合は調節して下さい。

準備作業

- 車両をリアスタンドでジャッキアップします。(📖 頁78)
- チェーンの遊びを点検します。(📖 頁85)

主な作業

- ナット①を緩めます。
- ナット②を緩めます。
- 左右の調節スクリュー③を回し、チェーンの遊びを調節します。

規定

チェーンの遊び	5... 7 mm
左右の調節スクリュー③を回し、両側のチェーンアジャスター④のマーキングが目印Aに対して同じ位置にくるように調節します。これにより後輪の位置が正しく調整されます。	

i 参考

その際、チェーン上部がピンと張っている事を確認して下さい。
チェーンは均等に擦り切れるとは限らないので、チェーンの何箇所か別の場所で調整を確認して下さい。

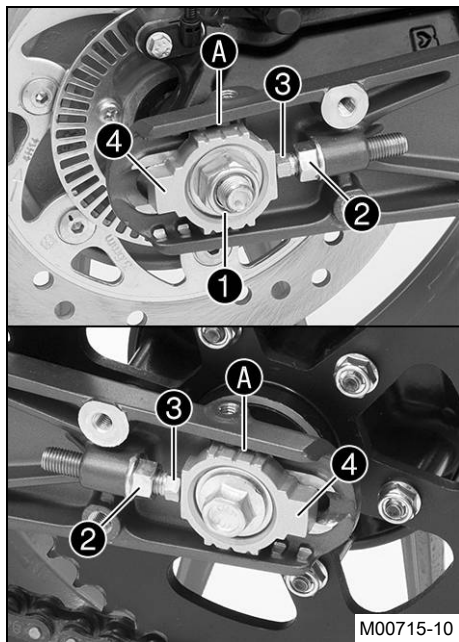
- ナット②をしっかりと締めます。
- チェーンアジャスター④が調節スクリュー③に接触している事を確認します。
- ナット①をしっかりと締めます。

規定

後輪アクスルシャフト用ナット	M14x1.5	90 Nm
----------------	---------	-------

その後の作業

- 車両をリアスタンドから降ろします。(📖 頁78)



11.13 チェーン、リアsproケット、フロントsproケットを点検する

準備作業

- 車両をリアスタンドでジャッキアップします。(🔧 頁78)

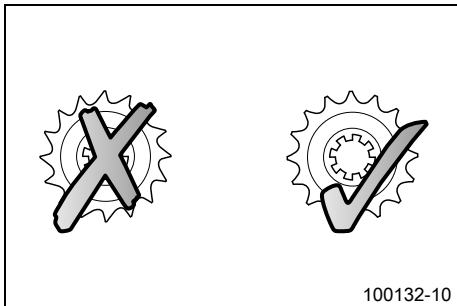
主な作業

- リアsproケットとフロントsproケットの磨耗を点検します。
 - » リアsproケットまたはフロントsproケットが磨耗している:
 - 駆動セットを交換します。🔧

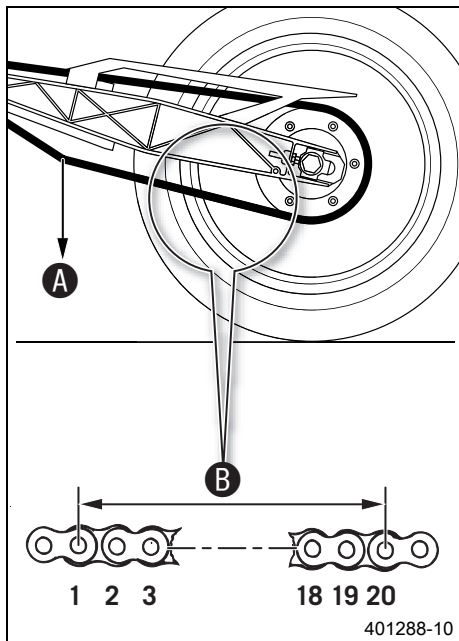


参考

フロントsproケット、リアsproケット、チェーンは必ず一緒に交換して下さい。



11 シャーシで行うサービス作業



- ギアをニュートラルに入れます。
- チェーン下部を以下に挙げた重量 **A** で引っ張ります。

規定

チェーンの磨耗測定における重量	15 kg
-----------------	-------

- チェーン下部でローラー 20 個分の長さ **B** を測定します。

i 参考

チェーンは均等に擦り切れるとは限らないので、上記確認を何箇所か別の場所で繰り返し行って下さい。

チェーンが最も長い部分での長さ B の 最大値	301.6 mm
-----------------------------------	----------

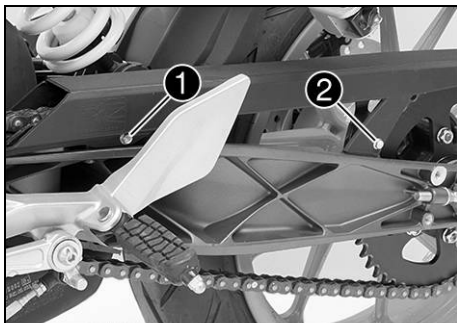
- » 長さ **B** が規定値より大きい:
 - 駆動セットを交換します。🔧

i 参考

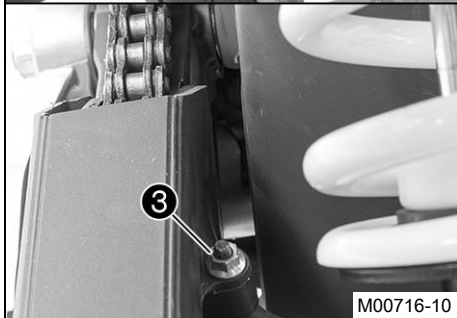
新しいチェーンを取り付ける際は、同時にリアスプロケットとフロントスプロケットも交換して下さい。

新しいチェーンを摩耗が進んだ古いリアスプロケットまたはフロントスプロケットと一緒に使用すると、早く摩耗してしまいます。

11 シャーシで行うサービス作業

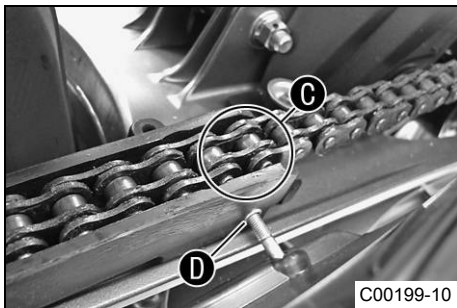


- スクリュー①を緩めます。
- スクリュー②を外します。
- ナット③を外します。
- チェーンガードを脇に置きます。



M00716-10

- チェーンスライダーガードの磨耗を点検します。
 - » 磨耗によりチェーンスライダーガードの多くの部品が失われ、**C** の範囲で穴**D**が上から見えている：
 - チェーンスライダーガードを交換します。🔧
- チェーンスライダーガードがきちんと固定されているか確認します。
 - » チェーンスライダーガードがガタついている：
 - チェーンスライダーガードのスクリューをしっかりと締めます。



C00199-10

11 シャーシで行うサービス作業



- チェーンガードの位置を調整し、スクリュー①をしっかりと締めます。

規定

チェーンガード用スクリュー	EJOT PT® K60x20	4 Nm
---------------	-----------------	------

- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

規定

チェーンガード用スクリュー	EJOT PT® K60x20	4 Nm
---------------	-----------------	------

- ナット③を取り付け、しっかりと締めます。

規定

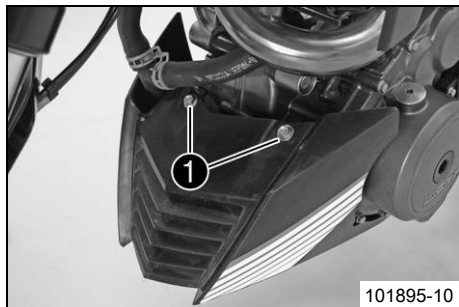
その他シャーシ用ナット	M5	5 Nm
-------------	----	------

その後の作業

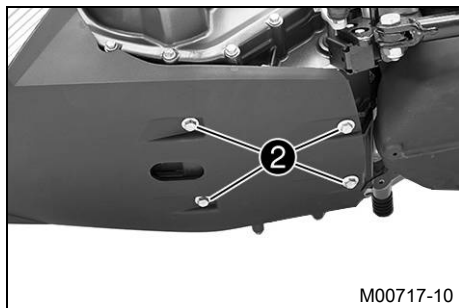
- 車両をリアスタンドから降ろします。(📖 頁78)

11 シャーシで行うサービス作業

11.14 フロントスポイラーを取り外す

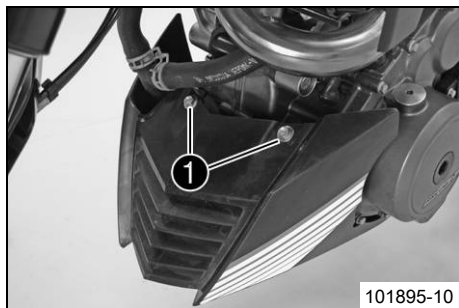


- スクリュー①を外します。

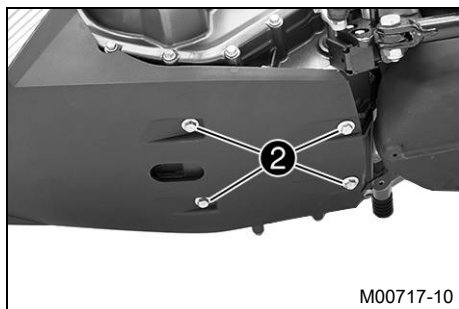


- スクリュー②を外します。
- フロントスポイラーを取り外します。

11.15 フロントスポイラーを取り付ける



- フロントスポイラーの位置を調整します。スクリュー①を取り付け、締めないままにしておきます。



- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

規定

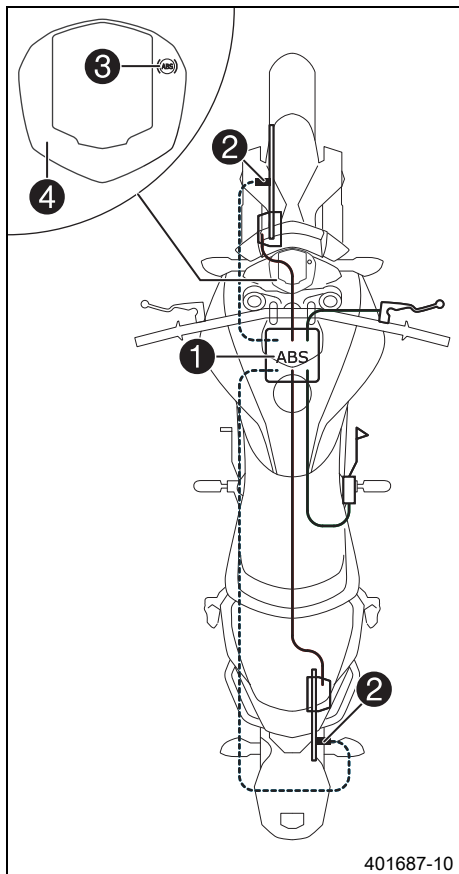
フロントスポイラー用スクリュー	M6	7 Nm
-----------------	----	------

- スクリュー①をしっかりと締めます。

規定

フロントスポイラー用スクリュー	M6	7 Nm
-----------------	----	------

12.1 アンチロックブレーキシステム (ABS)



401687-10

ABS ユニット①は油圧ユニット、ABS コントロールユニット、リターンポンプからなり、シートの下に設置されています。前輪と後輪に各 1 つの車輪速度センサー②が取り付けられています。



警告

事故の危険性 車両を改造した場合、アンチロック・ブレーキシステムの機能に影響を及ぼします。

- 前輪にロックがかかっている場合、公共道路外の場所で、アンチロック・ブレーキシステムをオフの状態にし、後輪を回転させて下さい。
- サスペンションストロークに影響を及ぼすような改造を行わないで下さい。
- ブレーキシステムには KTM 純正製品のスペアパーツのみをご使用下さい。
- KTM により承認および推奨された適切な速度記号のタイヤならびに車輪のみを使用して下さい。
- タイヤの規定空気圧を遵守して下さい。
- サービス作業および修理は正しく行うことが必要です。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)

ABSは、直進走行中に車輪がロックしてハンドルが効かなくなってしまうのを防ぐ安全システムです。



警告

事故の危険性 車両の転倒

- 極端な走行状況(例、積載物の重心が高い、変化の多い道路舗装、急勾配での発進、クラッチを切らずにフルブレーキ等)では、車両の転倒を必ずしも防げるとは限りません。道路の状況、運転能力に応じた走行方法で運転しましょう。

ABS は 2 つの独立したブレーキ回路で作動します (前輪ブレーキと後輪ブレーキ)。通常運転ではブレーキシステムは ABS が装備されていない従来型ブレーキとして機能します。車輪のいずれかがロックしている傾向を ABS コントロールユニットが検出すると、

ブレーキ圧の調整により ABS が作動し始めます。調整プロセスによりブレーキペダルまたはブレーキレバーにわずかな振動が感じられます。

通常、イグニッションをオンにすると ABS 警告ランプ **③** が点灯し、発進すると消えます。発進後もランプが消えない場合や走行中に点灯した場合は、ABS でエラーが発生した事を示します。この場合、ABS は作動せず、ブレーキをかけた際に車輪がロックする恐れがあります。その際、ABS による調整は行われませんが、ブレーキシステム自体は通常通り機能します。

ABS 警告ランプは、ウィリーや後輪の空転など極端な走行状況で前輪と後輪の回転数に大きな差がある場合にも点灯する事があります。この場合、ABS はオフとなります。

ABS を再度オンにするには、車両を停止してイグニッションをオフにします。車両を再び作動すると、ABS も再びオンになります。ABS 警告ランプは発進後に消えます。

ボタン **④** を使用して ABS を手動でオフにできます (エンジン始動の項を参照)。

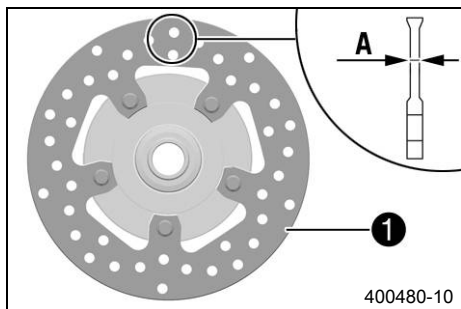
12.2 ブレーキディスクを点検する



警告

事故の危険性 ブレーキディスクの磨耗によるブレーキ性能の低下。

- 磨耗したブレーキディスクはすぐに交換して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)





- 前輪と後輪のブレーキディスクの何箇所かでディスクの厚み **A** を確認します。

参考

ブレーキディスクの厚みは、ブレーキパッドと接触する範囲 **①** が磨耗により減っていきます。

ブレーキディスク磨耗限界	
前輪	3.6 mm
後輪	3.6 mm

- » ブレーキディスクの厚みが規定値を下回っている:
 - 前輪ブレーキのブレーキディスクを交換します。 
 - 後輪ブレーキのブレーキディスクを交換します。
- 前輪と後輪のブレーキディスクでひび、損傷、変形がないかを点検します。
 - » ブレーキディスクにひび、損傷、変形が見られる:
 - 前輪ブレーキのブレーキディスクを交換します。 
 - 後輪ブレーキのブレーキディスクを交換します。

12.3 前輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検する



警告

事故の危険性 ブレーキシステムの故障。

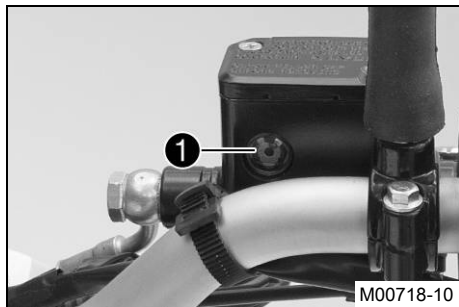
- ブレーキフルードのレベルがMINのマーキングを下回っていたら、ブレーキシステムに漏れがあるかブレーキパッドが完全に摩耗している事が考えられます。この状態で運転はせず、ブレーキシステムを点検して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



警告

事故の危険性 古いブレーキフルードの使用によるブレーキ性能の低下。

- 前輪・後輪ブレーキのブレーキフルードはサービスプランに従って交換して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



- ハンドルバーに取り付けられているブレーキフルードリザーバーを水平な状態にします。
- ブレーキフルードのレベルを点検窓①で確認します。
 - » ブレーキフルードのレベルがMINのマーキングを下回っている:
 - 前輪ブレーキのブレーキフルードを補給します。👉 (📖 頁97)

12.4 前輪ブレーキのブレーキフルードを補給する 🐾



警告

事故の危険性 ブレーキシステムの故障。

- ブレーキフルードのレベルがMINのマーキングを下回っていたら、ブレーキシステムに漏れがあるかブレーキパッドが完全に摩耗している事が考えられます。この状態で運転はせず、ブレーキシステムを点検して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



警告

皮膚の炎症 ブレーキフルードは皮膚に触れると炎症の原因となる恐れがあります。

- 皮膚や目にはつかないように注意し、お子様の手の届かない場所に保管して下さい。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- ブレーキフルードが目に入ってしまったら、よく水で洗い流し、すぐに医師の診断を受けて下さい。



警告

事故の危険性 古いブレーキフルードの使用によるブレーキ性能の低下。

- 前輪・後輪ブレーキのブレーキフルードはサービスプランに従って交換して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



警告

環境汚染 問題物質が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは定められた規則に従って正しく廃棄して下さい。



参考

塗装された部品にブレーキフルードがつかないように注意して下さい。塗装がはげます！
密閉された容器に保存された、きれいなブレーキフルードのみを使用して下さい！

準備作業

- 前輪ブレーキのブレーキパッドを点検します。(📖 頁99)

主な作業

- ハンドルバーに取り付けられているブレーキフルードリザーバーを水平な状態にします。
- スクリュー①を外します。
- カバー②をダイヤフラム③と一緒に外します。
- ブレーキフルードをAで示した位置まで注ぎます。

規定

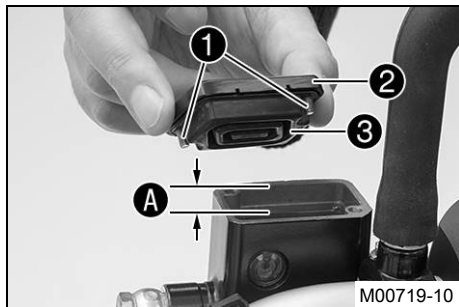
寸法 A	5 mm
ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1 (📖 頁175)	

- カバーとダイヤフラムの位置を調整します。スクリューを取り付け、しっかりと締めます。



参考

ブレーキフルードが溢れたりこぼれたりした場合は、すぐに水で洗い流して下さい。

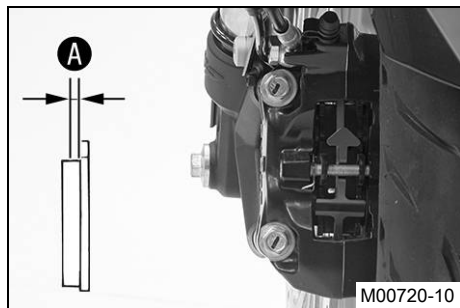


12.5 前輪ブレーキのブレーキパッドを点検する

- 警告**
事故の危険性 ブレーキパッドの摩耗によるブレーキ性能の低下。
- 摩耗したブレーキパッドはすぐに交換して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)

注意
事故の危険性 ブレーキディスクの損傷によるブレーキ性能の低下。

- ブレーキパッドの交換が遅れると、スチール製のブレーキパッドサポートがブレーキディスクをこすります。ブレーキ性能が大幅に低下し、ブレーキディスクを破損してしまいます。ブレーキパッドは定期的に点検して下さい。



- ブレーキパッド厚み **A** の最小値を確認します。

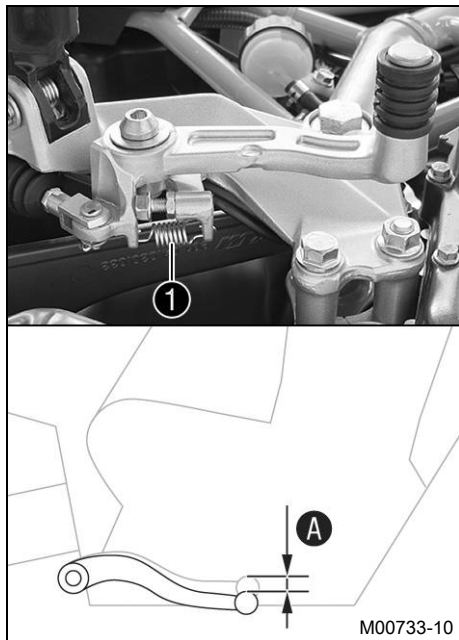
厚み最小値 A	$\geq 1 \text{ mm}$
----------------	---------------------

- » 厚みが最小値を下回っている:
 - 前輪ブレーキのブレーキパッドを交換します。🔧
- ブレーキパッドにひびや破損がないか点検します。
 - » ひびや破損がある:
 - 前輪ブレーキのブレーキパッドを交換します。🔧

12.6 ブレーキペダルの遊びを点検する

- 警告**
事故の危険性 ブレーキがきかない。

- ブレーキペダルに遊びがないと、ブレーキシステム内で後輪ブレーキに圧力がかかります。後輪ブレーキが過熱によりきかなくなる恐れがあります。ブレーキペダルの遊びは規定通りに調節して下さい。



- スプリング①を外します。
- ブレーキペダルを、ペダルが上がり切った状態とフットブレーキシリンダーのピストンに触れる間で何度か動かし、遊びAを確認します。

規定

ブレーキペダルの遊び	3... 5 mm
------------	-----------

- » 遊びが規定通りになっていない:
 - ブレーキペダルの遊びを調節します。🔧 (📖 頁100)
- スプリング①を取り付けます。

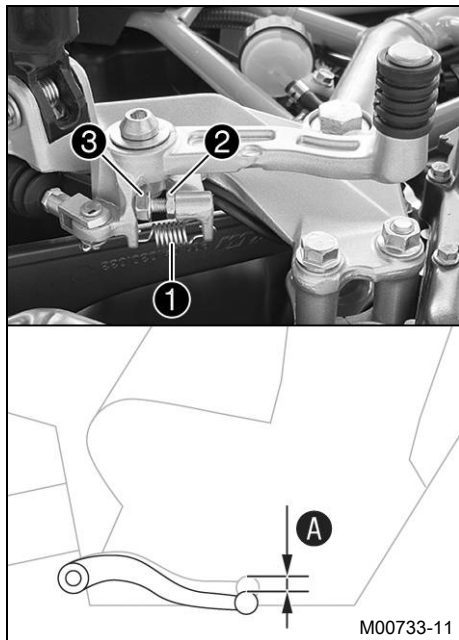
12.7 ブレーキペダルの遊びを調節する 🔧



警告

事故の危険性 ブレーキがきかない。

- ブレーキペダルに遊びがないと、ブレーキシステム内で後輪ブレーキに圧力がかかります。後輪ブレーキが過熱によりきかなくなる恐れがあります。ブレーキペダルの遊びは規定通りに調節して下さい。



- スプリング①を外します。
 - ナット②を緩め、スクリー③で遊びAを規定通りに調節します。
- 規定

ブレーキペダルの遊び	3... 5 mm
------------	-----------

i 参考

調節範囲には限界があります。

- スクリュー③を動かないように押さえ、ナット②をしっかりと締めます。
- スプリング①を取り付けます。

12.8 後輪ブレーキのブレーキフルードのレベルを点検する



警告

事故の危険性 ブレーキシステムの故障。

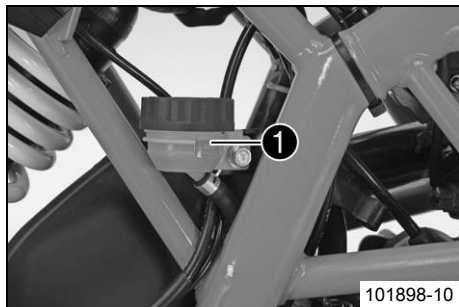
- ブレーキフルードのレベルがMINのマーキングを下回っていたら、ブレーキシステムに漏れがあるかブレーキパッドが完全に摩耗している事が考えられます。この状態で運転はせず、ブレーキシステムを点検して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



警告

事故の危険性 古いブレーキフルードの使用によるブレーキ性能の低下。

- 前輪・後輪ブレーキのブレーキフルードはサービスプランに従って交換して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



- 車両を垂直に立てます。
- ブレーキフルードリザーバーのブレーキフルードのレベルを確認します。
 - » フルードのレベルがMINのマーキング①に達している:
 - 後輪ブレーキのブレーキフルードを補給します。↪ (図 頁102)

12.9 後輪ブレーキのブレーキフルードを補給する ↪



警告

事故の危険性 ブレーキシステムの故障。

- ブレーキフルードのレベルがMINのマーキングを下回っていたら、ブレーキシステムに漏れがあるかブレーキパッドが完全に摩耗している事が考えられます。この状態で運転はせず、ブレーキシステムを点検して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



警告

皮膚の炎症 ブレーキフルードは皮膚に触れると炎症の原因となる恐れがあります。

- 皮膚や目にはつかないように注意し、お子様の手の届かない場所に保管して下さい。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- ブレーキフルードが目に入ってしまったら、よく水で洗い流し、すぐに医師の診断を受けて下さい。



警告

事故の危険性 古いブレーキフルードの使用によるブレーキ性能の低下。

- 前輪・後輪ブレーキのブレーキフルードはサービスプランに従って交換して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



警告

環境汚染 問題物質が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは定められた規則に従って正しく廃棄して下さい。



参考

塗装された部品にブレーキフルードがつかないように注意して下さい。塗装がはげます！
密閉された容器に保存された、きれいなブレーキフルードのみを使用して下さい！

準備作業

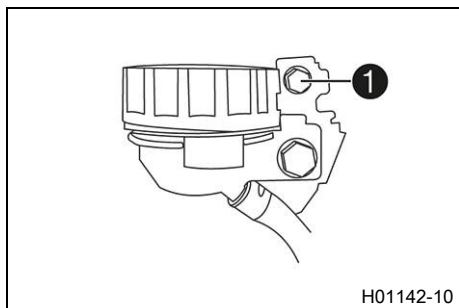
- 後輪ブレーキのブレーキパッドを点検します。(📖 頁104)

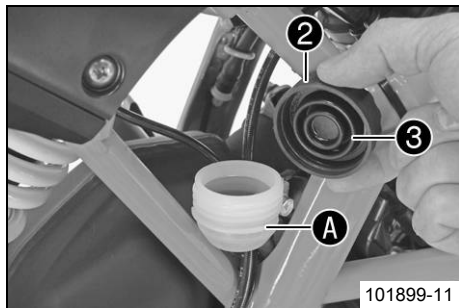
主な作業

条件

スクリューキャップがロックされている。

- スクリュー①を外し、スクリューキャップのロックを取り外します。



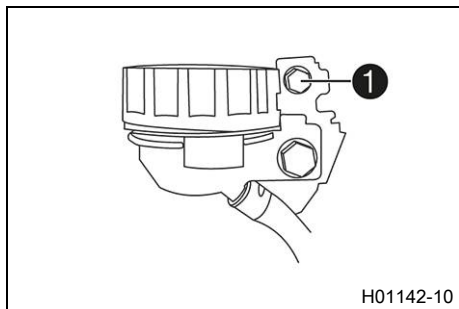


- 車両を垂直に立てます。
- スクリューキャップ②をダイヤフラム③と共に外します。
- ブレーキフルードを①Aのマーキングの位置まで注ぎます。

ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1 (📖 頁175)

- スクリューキャップをダイヤフラムと一緒に取り付けます。

i 参考
 ブレーキフルードが溢れたりこぼれたりした場合は、すぐに水で洗い流して下さい。



条件

スクリューキャップがロックされている。

- スクリューキャップロックの位置を調整し、スクリュー①を取り付け、しっかりと締めます。

規定

スクリューキャップロック 調節タンク 後輪ブレーキ	M5	7 Nm
---------------------------	----	------

12.10 後輪ブレーキのブレーキパッドを点検する



警告

事故の危険性 ブレーキパッドの摩耗によるブレーキ性能の低下。

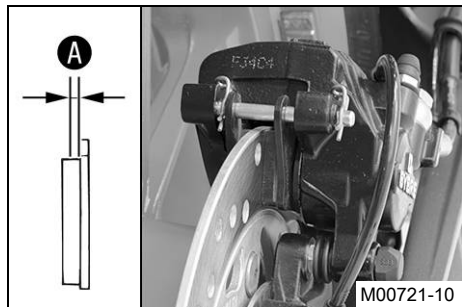
- 摩耗したブレーキパッドはすぐに交換して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)

12 ブレーキシステム

注意

事故の危険性 ブレーキディスクの損傷によるブレーキ性能の低下。

- ブレーキパッドの交換が遅れると、スチール製のブレーキパッドサポートがブレーキディスクをこすります。ブレーキ性能が大幅に低下し、ブレーキディスクを破損してしまいます。ブレーキパッドは定期的に点検して下さい。



- ブレーキパッド厚み **A** の最小値を確認します。

厚み最小値 A	$\geq 1 \text{ mm}$
----------------	---------------------

- » 厚みが最小値を下回っている:
 - 後輪ブレーキのブレーキパッドを交換します。🔧
- ブレーキパッドにひびや破損がないか点検します。
 - » ひびや破損がある:
 - 後輪ブレーキのブレーキパッドを交換します。🔧

13.1 前輪を取り外す

準備作業

- 車両をリアスタンドでジャッキアップします。(📖 頁78)
- フロントスタンドで車両をジャッキアップします。(📖 頁79)

主な作業

- スクリュー①を外し、フェンダーを横に向かって押します。
- スクリュー②を外し、車輪速度センサー③を穴から抜きます。
- スクリュー④を数回転分緩めます。
- スクリュー⑤を緩めます。
- スクリュー④を押し、アクスルシャフトをフォークレグの穴から押し出します。
- スクリュー④を外します。



警告

事故の危険性 ブレーキディスクの損傷によるブレーキ性能の低下。

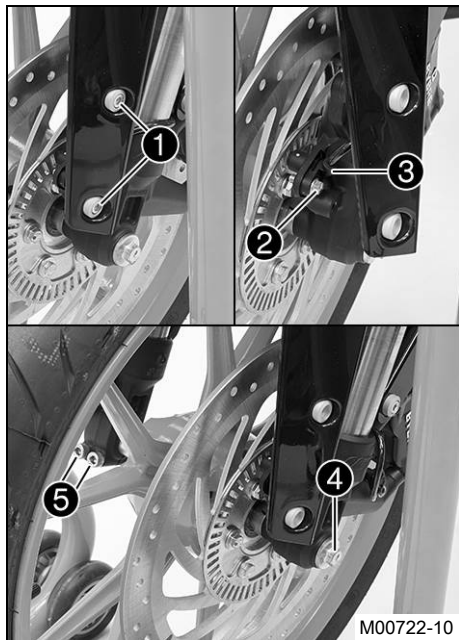
- ブレーキディスクが破損する事のないよう、車輪の保管には注意して下さい。

- 前輪を支え、アクスルシャフトを抜きます。前輪をフロントフォークから取り外します。



参考

前輪を取り外した状態でブレーキレバーを作動しないで下さい。



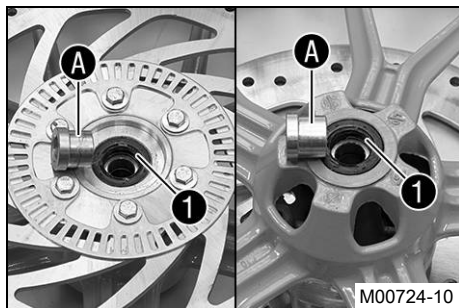
13.2 前輪を取り付ける



警告

事故の危険性 ブレーキディスクへのオイル、グリースの付着によるブレーキ性能の劣化。

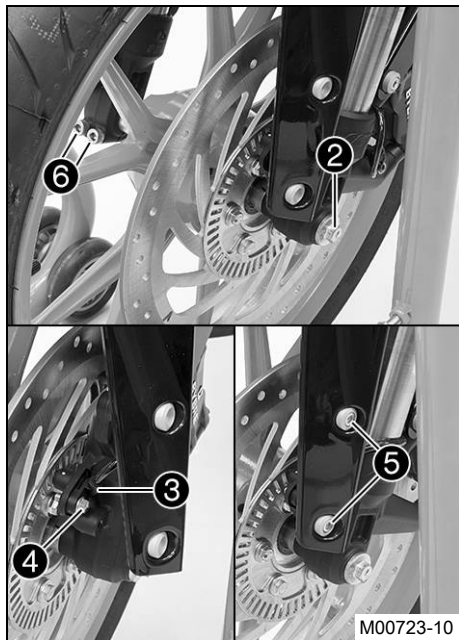
- ブレーキディスクは絶対に油脂類が付かないようにし、必要に応じてブレーキ洗浄剤で清掃します。



- ホイールベアリングに破損・磨耗がないか点検します。
 - » ホイールベアリングが破損または磨耗している:
 - ホイールベアリングを交換します。
- シャフトのシールリング①とスペーサーの接触面Aを清掃してグリースアップします。

耐久性グリース (頁178)

- スペーサーを取り付けます。



- アクスルシャフトとスクリュー②のねじ山を清掃します。
- アクスルシャフトを清掃し、グリースアップします。

耐久性グリース (📖 頁178)

- 前輪の位置を調整し、アクスルシャフトを取り付けます。
✓ ブレーキパッドの位置を正しく調整します。
- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

規定

前輪アクスルシャフト用スクリュー	M8	25 Nm
------------------	----	-------

- 車輪速度センサー③を穴に差し込み、位置を調整します。
- スクリュー④を取り付け、しっかりと締めます。

規定

車輪速度センサーホルダー用スクリュー	M6	8 Nm
--------------------	----	------

- スクリュー⑤を取り付け、しっかりと締めます。
- ブレーキパッドがブレーキディスクに接触して圧点を感じられるまで、ブレーキレバーを何度か作動します。
- 車両をフロントスタンドから降ろします。(📖 頁80)
- 車両をリアスタンドから降ろします。(📖 頁78)
- 前輪のブレーキを作動し、フロントフォークのスプリングを何度か強く圧縮します。
✓ フォークレッグの位置が調整されます。
- スクリュー⑥をしっかりと締めます。

規定

フォークレッグのアクスル通し穴用スクリュー	M8	15 Nm
-----------------------	----	-------

13.3 後輪を取り外す

準備作業

- 車両をリアスタンドでジャッキアップします。(📖 頁78)

主な作業

- スクリュー①を外し、車輪速度センサー②を穴から抜きます。
- ナット③とワッシャーを外します。
- チェーンアジャスター④を取り外します。
- 後輪を支え、アクスルシャフト⑤をワッシャー、チェーンアジャスター④と一緒に抜き出します。
- 後輪をできるだけ前に押し、チェーンをリアスプロケットから外します。



警告

事故の危険性 ブレーキディスクの損傷によるブレーキ性能の低下。

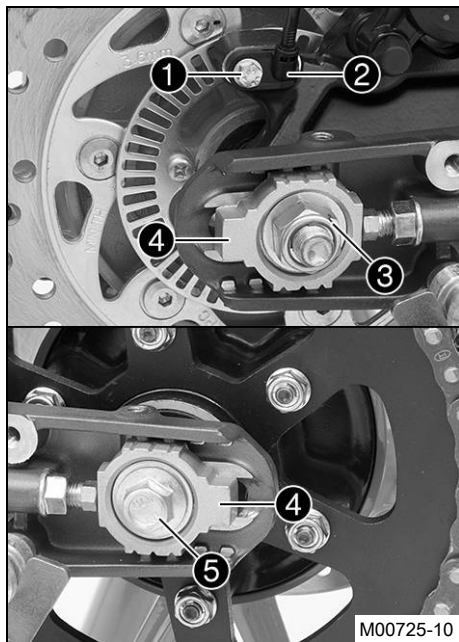
- ブレーキディスクが破損する事のないよう、車輪の保管には注意して下さい。

- 後輪を後ろに引き、スイングアームから取り外します。



参考

後輪を取り外した状態でブレーキペダルを作動しないで下さい。



13.4 後輪を取り付ける

- 警告**
事故の危険性 ブレーキディスクへのオイル、グリースの付着によるブレーキ性能の劣化。
- ブレーキディスクは絶対に油脂類が付かないようにし、必要に応じてブレーキ洗浄剤で清掃します。

- 警告**
事故の危険性 後輪ブレーキを作動してもブレーキがかからない。
- 後輪を取り付けた後は必ず、圧点を感じるまでフットブレーキを作動して下さい。

主な作業

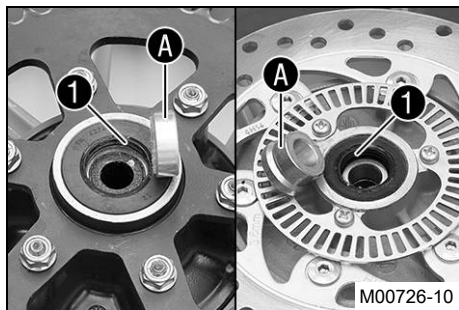
- 後輪のハブダンパーを点検します。 (頁112)
- ホイールベアリングに磨耗や損傷がないかを点検します。
 - » ホイールベアリングが磨耗または損傷している:
 - ホイールベアリングを交換します。
- シャフトのシールリング①とスペーサーの接触面Aを清掃してグリースを塗布します。

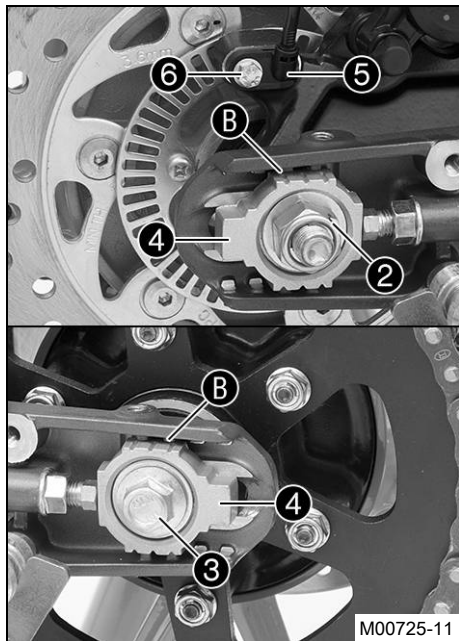
耐久性グリース (頁178)

- アクスルシャフトのアクスルナットのねじ山を清掃します。
- アクスルシャフトを清掃し、グリースアップします。

耐久性グリース (頁178)

- キャリパーサポートとスイングアームのかみ合わせ部分を清掃します。
- ハブダンパーとリアスプロケットサポートを後輪に取り付けます。
- 後輪の位置を調整します。
 - ✓ ブレーキパッドの位置が正しく調整されています。





- 後輪をできるだけ前に押し、チェーンをリアスプロケットにかけます。
- 後輪を後ろに引き、アクスルシャフト③をワッシャー、チェーンアジャスター④と一緒に取り付けます。

規定

左右のチェーンアジャスター④は同じポジションで取り付けして下さい。

- ナット②とワッシャーを取り付けます。
- チェーンアジャスターがスクリーに触れるまで後輪を前に押し、ナット②をしっかりと締めます。

規定

後輪の位置が正しく調整されるよう、左右のチェーンアジャスターに付けられたマーキングが目印Bに対して同じ位置にくるように取り付けして下さい。

後輪アクスルシャフト用ナット	M14x1.5	90 Nm
----------------	---------	-------

- 車輪速度センサー⑤を穴に差し込み、位置を調整します。
- スクリュー⑥を取り付け、しっかりと締めます。

規定

車輪速度センサーホルダー用スクリュー	M6	8 Nm
--------------------	----	------

その後の作業

- 車両をリアスタンドから降ろします。(📖 頁78)
- チェーンの遊びを点検します。(📖 頁85)
- 車両をリアスタンドから降ろします。(📖 頁78)

13.5 後輪のハブダンパーを点検する

i 参考

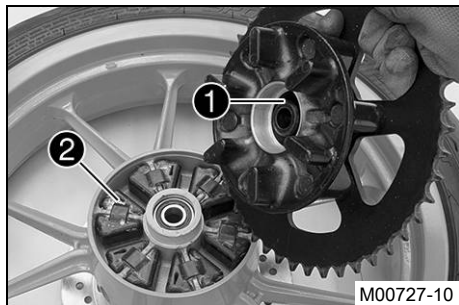
エンジンの力はリアスプロケットから6つのハブダンパーを通して後輪に伝えられます。車両の使用によりハブダンパーは摩耗していきます。ハブダンパーを適時に交換しないと、リアスプロケットサポートと後輪ハブを損傷してしまいます。

準備作業

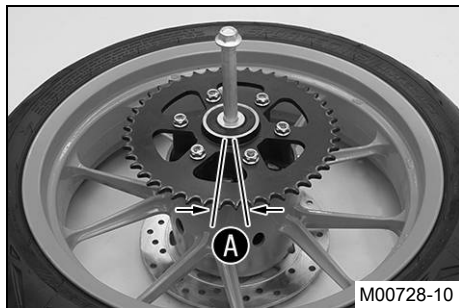
- 車両をリアスタンドでジャッキアップします。(頁78)
- 後輪を取り外します。 (頁109)

主な作業

- ベアリング**①**を点検します。
 - » ベアリングが破損または磨耗している：
 - ベアリングを交換します。
- 後輪のハブダンパー**②**に破損・磨耗がないか点検します。
 - » 後輪のハブダンパーが磨耗または損傷している：
 - 後輪のハブダンパー全てを交換します。



M00727-10



M00728-10

- リアスプロケットを上にして後輪を作業台の上に置き、アクスルシャフトをハブに差し込みます。
- 遊び**A**を確認するため、後輪を押さえた状態でリアスプロケットを回してみます。

i 参考






遊びはリアスプロケットの外側で測定します。

後輪ハブダンパーの遊び	≤ 5 mm
-------------	--------

- » 遊び**A**が記載された値より大きい:

- 後輪のハブダンパー全てを交換します。

その後の作業

- 後輪を取り付けます。  ( 頁110)
- 車両をリアスタンドから降ろします。 ( 頁78)
- チェーンの遊びを点検します。 ( 頁85)
- 車両をリアスタンドから降ろします。 ( 頁78)

13.6 タイヤの状態を点検する



警告

事故の危険性 タイヤの破裂による制御不可能な走行状態。

- タイヤが破損もしくはすり減っている場合は、安全を図るためにも即座に交換して下さい。(お近くの KTM 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。)



警告

転倒の危険性 前輪と後輪でタイヤのプロフィールが異なっていると、安定した走行が妨げられます。

- 制御不能な状況にならないよう、前輪・後輪には必ず同種プロフィールのタイヤを装着して下さい。



警告

事故の危険性 承認または推奨されていないタイヤならびに車輪を装着した場合、走行性能が損なわれます。

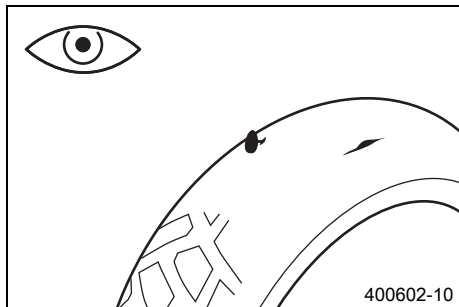
- KTM により承認および推奨された適切な速度記号のタイヤならびに車輪のみを使用して下さい。



参考

タイヤの種類、状態、空気圧は車両の走行性能に影響を与えます。

タイヤがすり減っていると、路面が濡れている場合などは特に走行性能に悪影響を与えます。



- 前輪・後輪のタイヤに亀裂がないか、異物が刺さっていないか、その他損傷がないかを点検します。
 - » タイヤに亀裂や損傷がある、または異物が刺さっている:
 - タイヤを交換します。
- 溝の深さを点検します。

i 参考

各国法律により定められている溝の深さの最小値を守ってください。

溝の深さ最小値	≥ 2 mm
---------	--------

- » 溝の深さが最小値を下回っている:
 - タイヤを交換します。
- タイヤの製造日を確認します。

i 参考

通常、タイヤの製造日はタイヤに記載されており、DOTコードの下4桁の数字で表されています。最初の2桁が製造週を、残りの2桁が製造年を示しています。

KTMでは、実際の磨耗状態にかかわらず、遅くとも製造日から5年を経過したらタイヤ交換する事をお勧めしています。

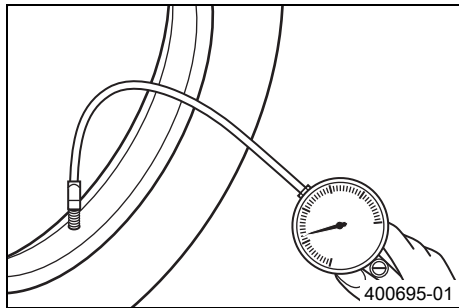
- » タイヤの製造日が5年以上前である:
 - タイヤを交換します。

13.7 タイヤの空気圧を点検する

i 参考

タイヤの空気圧が低過ぎると磨耗がひどくなり、タイヤが過熱します。
適正な空気圧により快適な走行が可能となり、またタイヤの寿命も延びます。

13 車輪、タイヤ



- ダストキャップを外します。
- タイヤが冷えた状態で空気圧を点検します。

タイヤの空気圧 (同乗者なし)	
前輪	2.0 bar
後輪	2.0 bar

タイヤ空気圧 (同乗者有り / 最大積載量)	
前輪	2.0 bar
後輪	2.2 bar

- » タイヤの空気圧が規定値と一致していない:
 - タイヤの空気圧を調節します。
- ダストキャップを取り付けます。

14.1 バッテリーを取り外す

警告
怪我の危険性 バッテリー液、バッテリーから発生する気体は重大な化学火傷を引き起こす恐れがあります。

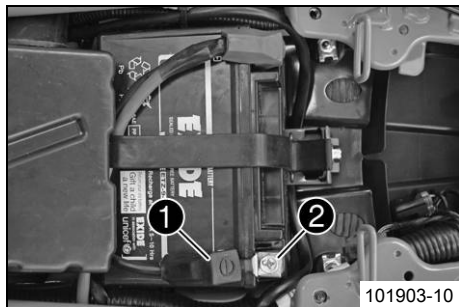
- バッテリーはお子様の手の届かない場所に保管して下さい。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- バッテリー液、バッテリーから発生する気体には触れないようにして下さい。
- 火花や炎をバッテリーに近づけないで下さい。充電は必ず換気の良い場所で行って下さい。
- 皮膚についた場合は、水で十分に洗い流して下さい。バッテリー液が目に入ってしまったら、最低 15 分間水で洗浄した後、医師の診断を受けて下さい。

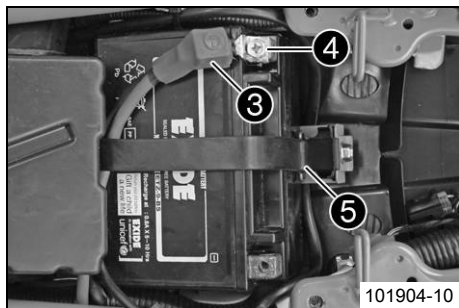
準備作業

- リアシートを取り外します。(📖 頁81)
- シートを取り外します。(📖 頁82)

主な作業

- マイナス極のカバー①を後ろへずらします。
- バッテリーからマイナスケーブル②を外します。



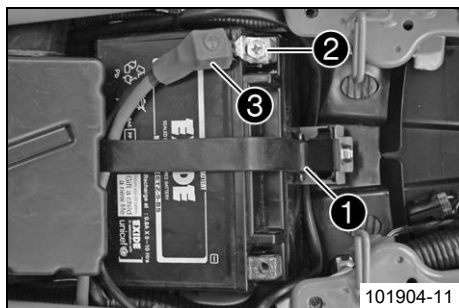


- プラス極のカバー③を後ろへずらします。
- バッテリーからプラスケーブル④を外します。
- ゴムバンド⑤を外します。
- バッテリーを上にしてバッテリーホルダーから外します。

i 参考

バッテリーがあがった状態で、またはバッテリーなしに車両を運転する事は絶対にやめて下さい。どちらの場合も電気部品や安全関連装置を破損する恐れがあります。これにより、車両は道路交通に不適切な状態となります。

14.2 バッテリーを取り付ける



主な作業

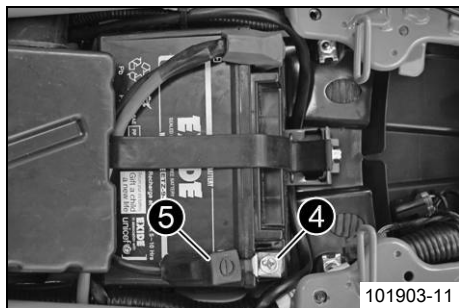
- バッテリーホルダー内でバッテリーの位置を調整します。

規定

バッテリーの電極が上を向くようにして下さい。

バッテリー (ETZ-9-BS) (巻 頁167)

- ゴムバンド①をかけます。
- プラスケーブル②の位置を調整し、スクリーを取り付け、しっかりと締めます。
- プラス極のカバー③の位置を調整します。



- マイナスケーブル④の位置を調整し、スクリューを取り付け、しっかりと締めます。
- マイナス極のカバー⑤の位置を調整します。

その後の作業

- シートを取り付けます。(📖 頁83)
- リアシートを取り付けます。(📖 頁82)
- 時計を設定します。(📖 頁49)

14.3 バッテリーを充電する

警告
怪我の危険性 バッテリー液、バッテリーから発生する気体は重大な化学火傷を引き起こす恐れがあります。

- バッテリーはお子様の手の届かない場所に保管して下さい。
- 適切な保護服、保護メガネを着用して下さい。
- バッテリー液、バッテリーから発生する気体には触れないようにして下さい。
- 火花や炎をバッテリーに近づけないで下さい。充電は必ず換気の良い場所で行って下さい。
- 皮膚についた場合は、水で十分に洗い流して下さい。バッテリー液が目に入ってしまったら、最低 15 分間水で洗浄した後、医師の診断を受けて下さい。



警告

環境汚染 バッテリーに使用されている部品や物質は環境に悪影響を及ぼします。

- バッテリーは家庭用ゴミとして廃棄しないで下さい。破損したバッテリーは環境上適切な方法で廃棄して下さい。バッテリーはお近くの KTM 正規ディーラーまたは使用済みバッテリーの回収場所に持ち込んで下さい。
-



参考

バッテリーは使用しなくても毎日放電しています。

バッテリーの寿命は充電量と充電方法に大きく左右されます。

大きな電流により短時間で充電すると寿命に悪影響を与えます。

充電電流、充電電圧、充電時間が規定値を超えると、電解液が安全バルブから漏れ出ます。これによりバッテリー容量が減ってしまいます。

エンジン始動でバッテリーがあがってしまった場合は、すぐに充電して下さい。

放電し切った状態で長く放置すると過放電が起こって硫酸化物が形成され、バッテリーが壊れてしまいます。

このバッテリーはメンテナンスフリーです。電解液レベルの点検を行う必要はありません。

準備作業

- 電装系部品は全てスイッチを切り、エンジンを止めます。
- リアシートを取り外します。(📖 頁81)
- シートを取り外します。(📖 頁82)
- 車載電子部品を破損しないよう、バッテリーのマイナスケーブルを外します。



主な作業

- 充電器とバッテリーを接続します。充電器のスイッチを入れます。

バッテリー充電器 (58429074000)

この充電器を使ってバッテリーの静電圧、スタート能力、ジェネレーターのチェックをする事も可能です。また、この充電器では過充電の心配がありません。

i 参考

カバー①は絶対に取り外さないで下さい。

バッテリーケース②に記載された容量の最大 10%でバッテリーを充電します。

- 充電が終了したら充電器の電源を切り、バッテリーから外します。

規定

充電電流、充電電圧、充電時間が規定値を超えないよう注意して下さい。

車両を使用しないときも、バッテリーの充電は定期的に行って下さい。	3ヶ月
----------------------------------	-----

- マイナスケーブルの位置を調整し、スクリューを取り付けてしっかりと締めます。
- マイナス極のカバーの位置を調整します。

その後の作業

- シートを取り付けます。(📖 頁83)
- リアシートを取り付けます。(📖 頁82)
- 時計を設定します。(📖 頁49)

14.4 ABS ヒューズを交換する

**警告**

火災の危険性 不適切なヒューズを使用すると、電気装置に過重な負荷がかかる恐れがあります。

- 規定電流値のヒューズのみをご使用下さい。切れたヒューズをつないだり、修理する事は絶対にやめて下さい。

**参考**

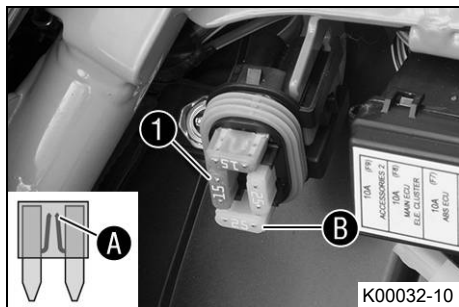
ABS 用の 2 つのヒューズはリアシートの下にあります。この 2 つのヒューズで ABS のリターンポンプと油圧ユニットを保護しています。ABS コントロールユニットを保護している 3 つ目のヒューズはヒューズボックス内に設置されています。

準備作業

- 電装系部品は全てスイッチを切り、エンジンを止めます。
- リアシートを取り外します。(📖 頁81)

ABS 油圧ユニットのヒューズを交換する:

- カバーキャップを外し、ヒューズ①を取り外します。

**参考**

ヒューズのワイヤーが A のように切れていればヒューズは損傷しています。

**警告**

火災の危険性 不適切なヒューズを使用すると、電気装置に過重な負荷がかかる恐れがあります。

- 規定電流値のヒューズのみをご使用下さい。切れたヒューズをつないだり、修理する事は絶対にやめて下さい。

- 適切な容量のスペアヒューズを取り付けます。

ヒューズ (75011088015) (📖 頁167)

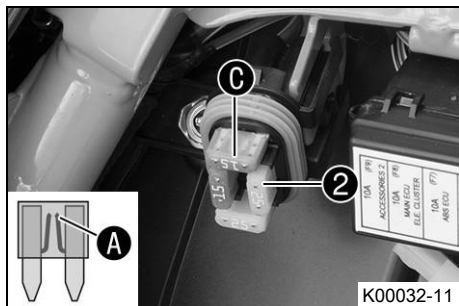
i ヒント

新しいスペアヒューズ **B** をヒューズボックスに取り付け、必要な場合に使用できるようにしておきます。

- カバーキャップを取り付けます。

ABS リターンポンプのヒューズを交換する:

- カバーキャップを外し、ヒューズ **2** を取り外します。



! 警告

火災の危険性 不適切なヒューズを使用すると、電気装置に過大な負荷がかかる恐れがあります。

- 規定電流値のヒューズのみをご使用下さい。切れたヒューズをつないだり、修理する事は絶対にやめて下さい。

- 適切な容量のスペアヒューズを取り付けます。

ヒューズ (90111088025) (📖 頁168)

i ヒント

新しいスペアヒューズ **C** をヒューズボックスに取り付け、必要な場合に使用できるようにしておきます。

- カバーキャップを取り付けます。

その後の作業

- リアシートを取り付けます。(📖 頁82)

14.5 各電装系部品のヒューズを交換する

参考

メインヒューズと各電装系部品のヒューズが設置されたヒューズボックスは、リアシートの下にあります。

準備作業

- 電装系部品は全てスイッチを切り、エンジンを止めます。
- リアシートを取り外します。(P.81)

主な作業

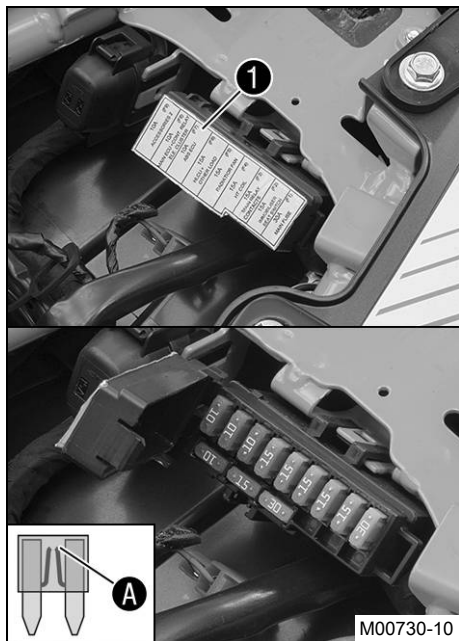
- ヒューズボックスのカバー①を開きます。
- 損傷したヒューズを取り外します。

規定

ヒューズ1 - 30A - メインヒューズ
ヒューズ2 - 15A - コンビネーションインスツルメント、アラーム装置 (オプション)
ヒューズ3 - 15A - コントロールユニット、燃料ポンプ
ヒューズ4 - 15A - イグニッションコイル
ヒューズ5 - 15A - 冷却ファン
ヒューズ6 - 15A - ホーン、ブレーキライト、ターンシグナル、ヘッドライトのハイビームとロービーム、ポジションライト、テールライト、ナンバープレートライト
ヒューズ7 - 10 A - ABS コントロールユニット
ヒューズ8 - 10A - コンビネーションインスツルメント、コントロールユニット
ヒューズ9 - 10 A - アクセサリー用

参考

ヒューズのワイヤーがⒶのように切れていればヒューズは損傷しています。



**警告**

火災の危険性 不適切なヒューズを使用すると、電気装置に過大な負荷がかかる恐れがあります。

- 規定電流値のヒューズのみをご使用下さい。切れたヒューズをつないだり、修理する事は絶対にやめて下さい。

- 適切な容量のスペアヒューズを取り付けます。

ヒューズ (75011088010) (📖 頁167)

ヒューズ (75011088015) (📖 頁167)

ヒューズ (75011088030) (📖 頁168)

**ヒント**

新しいスペアヒューズをヒューズボックスに取り付け、必要な場合に使用できるようにしておきます。

- 電装系部品の機能を点検します。
- ヒューズボックスのカバー①を閉じます。

その後の作業

- リアシートを取り付けます。(📖 頁82)

14.6 ヘッドライトバルブを交換する

注意

反射板の損傷 輝度の低下。

- ライトバルブに油脂類が付着していると熱により気化し、反射板に付着します。取り付け前にバルブを清掃し、油脂類が付かないよう注意して下さい。

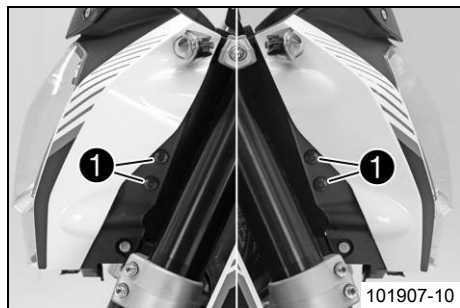
14 電装系

準備作業

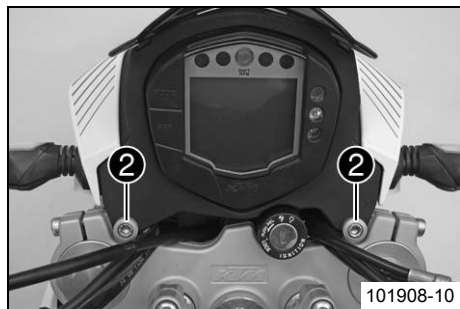
- 電装系部品は全てスイッチを切り、エンジンを止めます。

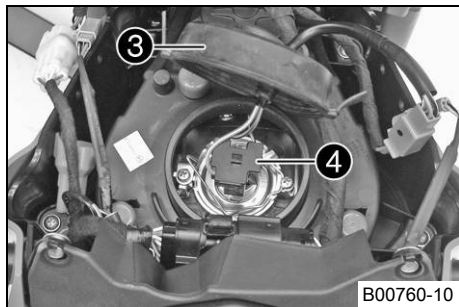
主な作業

- 足割リベット①を外します。

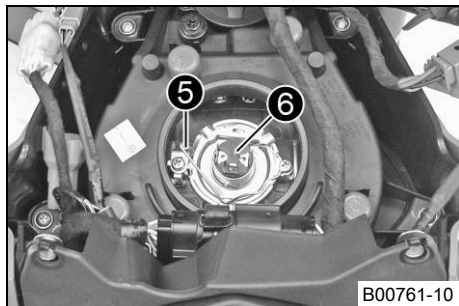


- スクリュー②を外します。
- ヘッドライトマスクを軽く持ち上げ、前方に開きます。





- 保護キャップ**③**を外します。
- プラグ**④**を抜きます。



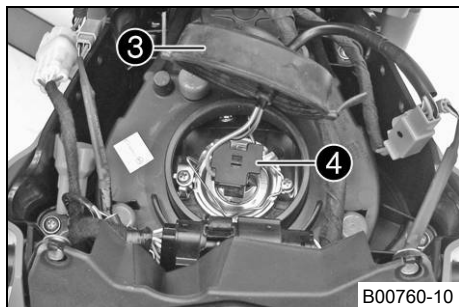
- 固定フレーム**⑤**を外します。
- ヘッドライトバルブ**⑥**を取り外します。
- ヘッドライトケースに新しいヘッドライトバルブを取り付けます。

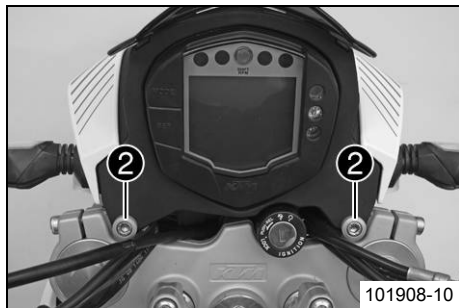
規定

ヘッドライトバルブを差し込む際は、突起部をくぼみにはめて下さい。

ヘッドライト (H4 / ソケット P43t) (頁 168)

- 固定フレーム**⑤**をはめます。
- プラグ**④**を差し込みます。
- カバーキャップ**③**を取り付けます。

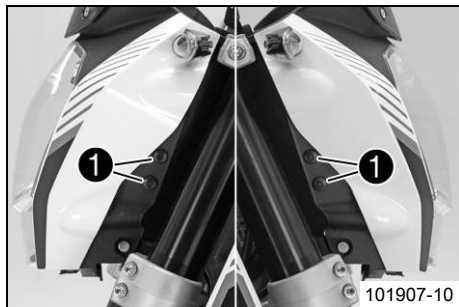




- ヘッドライトマスクを上に戻します。
- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

規定

ヘッドライトマスク用スクリュー	M6	9 Nm	Loctite® 243™
-----------------	----	------	---------------



- 両側の足割リベット①を取り付けます。
- 照明の機能を点検します。

14.7 ポジションライトのバルブを交換する

注意

反射板の損傷 輝度の低下。

- ライトバルブに油脂類が付着していると熱により気化し、反射板に付着します。取り付け前にバルブを清掃し、油脂類が付かないよう注意して下さい。

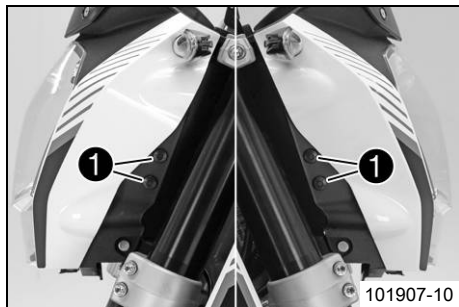
14 電装系

準備作業

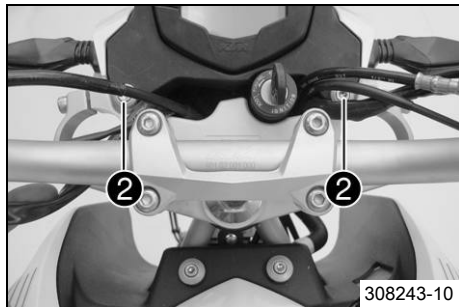
- 電装系部品は全てスイッチを切り、エンジンを止めます。

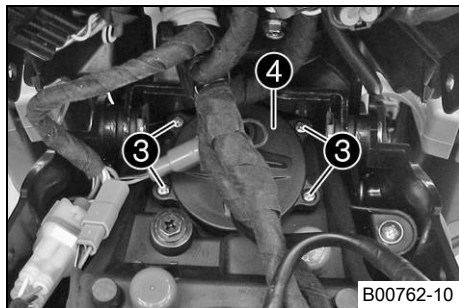
主な作業

- 足割リベット①を外します。

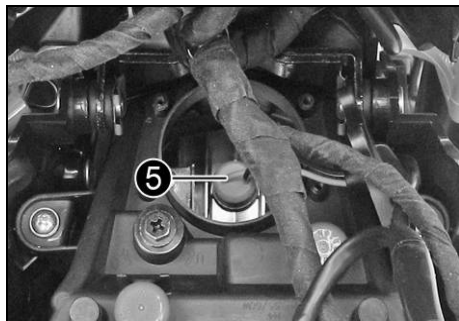


- スクリュー②を外します。
- ヘッドライトマスクを軽く持ち上げ、前方に開きます。





- スクリュー③を外します。
- カバー④を外します。



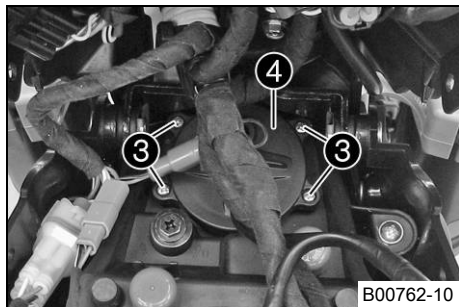
- ソケットをランプ⑤と一緒にケースから抜きます。
- バルブを取り外します。
- ソケットに新しいバルブを取り付けます。

ポジションライト (W5W / ソケット W2.1x9.5d) (📖 頁168)

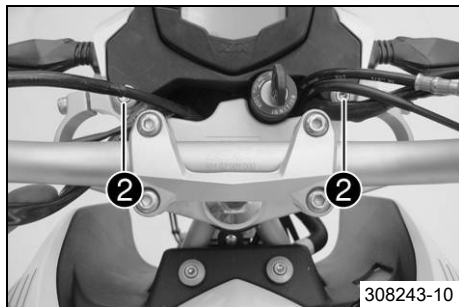
- ソケットをランプ⑤と一緒にケース内で位置を調整します。



14 電装系



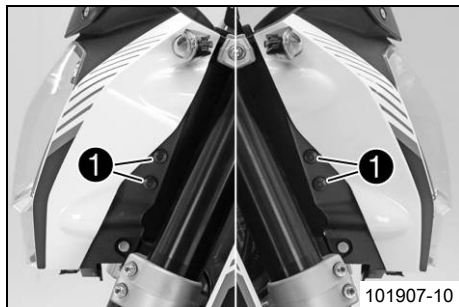
- カバー④の位置を調整します。
- スクリュー③を取り付け、しっかりと締めます。



- ヘッドライトマスクを上に関じます。
- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

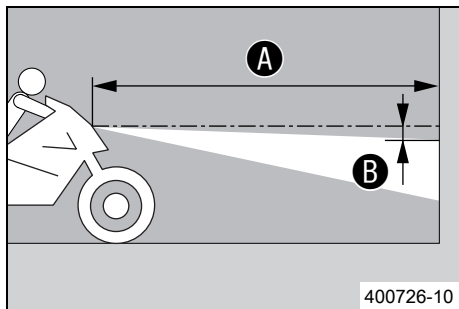
規定

ヘッドライトマスク用スクリュー	M6	9 Nm	Loctite® 243™
-----------------	----	------	---------------



- 両側の足割リベット①を取り付けます。
- 照明の機能を点検します。

14.8 ヘッドライトの設定を点検する



- 明るい壁が前にある水平な地面の上に車両を立て、ヘッドライトの中心の高さで壁に印を付けます。
- その印の下、**B**の距離にもう1つ印を付けます。

規定

距離 B	5 cm
-------------	------

- 壁から **A**の距離に車両を垂直に立て、ロービームを点灯します。


規定

距離 A	5 m
-------------	-----

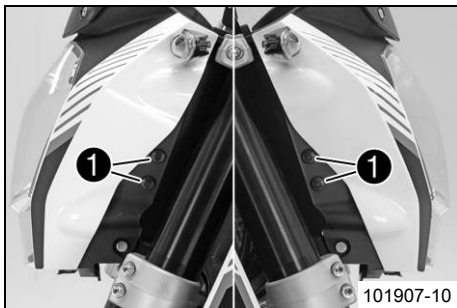
- ここで運転者が (必要に応じて荷物および同乗者と一緒に) 車両に乗ります。
- ヘッドライトの設定を確認します。

走行準備の整った車両に運転者 (場合によってはさらに荷物と同乗者) が乗った状態で、明暗の境界が下側の印と一致する事を確認して下さい。

» 明暗の境界が規定通りになっていない:

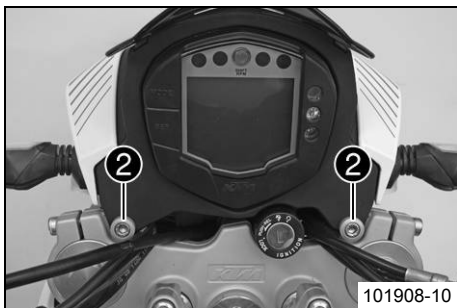
- ヘッドライトの照明距離を調節します。( 頁132)

14.9 ヘッドライトの照明距離を調節する

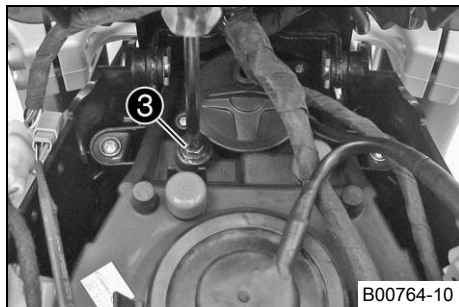


主な作業

- 足割リベット①を外します。



- スクリュー②を外します。
- ヘッドライトマスクを軽く持ち上げ、前方に開きます。



- スクリュー③を回して、ヘッドライトの照明距離を調節します。

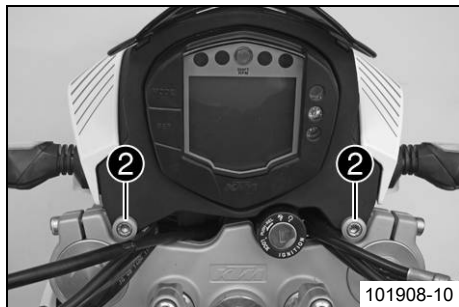
規定

走行準備の整った車両に運転者(場合によってはさらに荷物と同乗者)が乗った状態で、明暗の境界が下側の印(「ヘッドライトの設定を点検する」で付けた印)と一致する事を確認して下さい。



参考

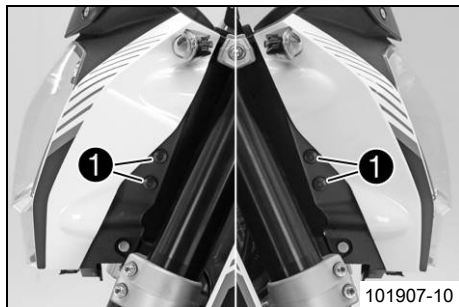
時計回りに回すと照明距離が短くなり、逆方向に回すと長くなります。



- ヘッドライトマスクを上に戻します。
- スクリュー②を取り付け、しっかりと締めます。

規定

ヘッドライトマスク用スクリュー	M6	9 Nm	Loctite® 243™
-----------------	----	------	---------------

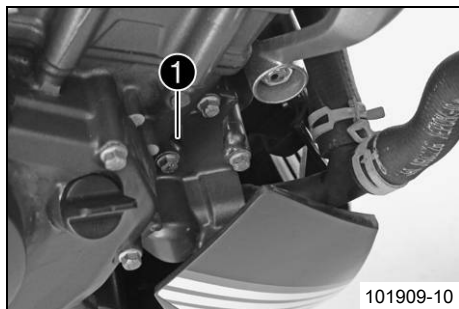


- 両側の足割リベット①を取り付けます。

その後の作業

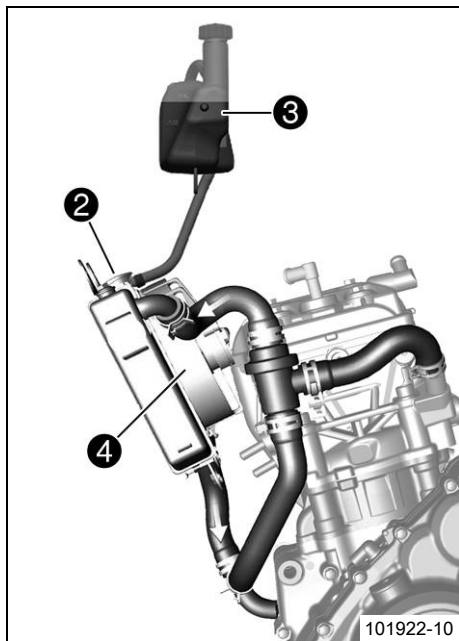
- ヘッドライトの設定を点検します。(📖 頁131)

15.1 冷却システム



エンジン内のウォーターポンプ①によりクーラントが強制循環します。熱により発生した冷却システム内の圧力は、ラジエーターキャップ②にあるバルブで調整されます。熱膨張により余分となったクーラントが調節タンク③に流れ込みます。流れ込んだクーラントは、温度が下がるとまた冷却システムに吸い込まれます。これにより、クーラントが記載された温度まで上昇しても不具合を起こす事はありません。

125 °C



冷却は走行風と、サーモスイッチで制御されている冷却ファン④によって行われます。速度が遅いほど冷却効果は低くなります。同様に、ラジエーターのフィンが汚れていると冷却効果が低くなります。

15.2 不凍液とクーラントのレベルを点検する



警告

火傷の危険性 クーラントは運転中、非常に熱く、圧力がかかっています。

- エンジンが運転で暖まっているときは、ラジエーター、ラジエーターホース、その他冷却システムの部品を開かないで下さい。エンジンと冷却システムが冷めるのを待って下さい。火傷した場合、その部位をぬるま湯に浸して下さい。



警告

中毒の危険性 クーラントは毒性で、健康に害を及ぼします。

- クーラントが皮膚、目、衣服につかないよう注意して下さい。目に入った場合はすぐに水で洗い流し、医師の診断を受けて下さい。皮膚についた場合は、すぐにその部分を水と石鹸で洗って下さい。クーラントを飲み込んでしまった場合は、すぐに医師の診断を受けて下さい。クーラントが衣服についた場合は着替えて下さい。クーラントは子供の手の届かない場所に保管して下さい。

条件

エンジンが冷えている。

- 車両を水平な地面の上で垂直に立てます。
- 調節タンク①のキャップを外します。
- クーラントの不凍効果を点検します。

-25... -45 °C

- » クーラントの不凍効果が規定通りになっていない:
 - クーラントの不凍効果を調整します。
- 調節タンクのクーラントのレベルを点検します。

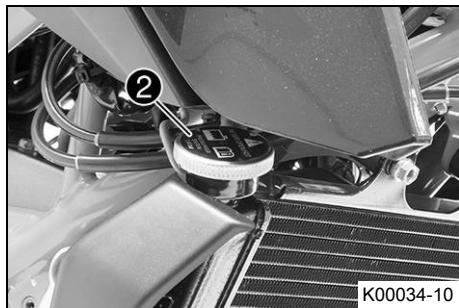
クーラントのレベルがMINとMAXの間にある事を確認して下さい。

- » クーラントのレベルが規定通りになっていない:
 - クーラントのレベルを調整します。

クーラント (🔊 頁175)

- 調節タンクのキャップを取り付けます。





- ラジエーターキャップ②を外します。
- クーラントの不凍効果を点検します。

-25... -45 °C

» クーラントの不凍効果が規定通りになっていない:

- クーラントの不凍効果を調整します。

- ラジエーター内のクーラントのレベルを確認します。

ラジエーターがクーラントで満たされている事を確認して下さい。

» クーラントのレベルが規定通りになっていない:

- クーラントのレベルを調節し、クーラントが減少した原因を突き止めます。

クーラント (頁175)

» 以下に示した規定値以上のクーラントを追加する必要があった:

> 0.20 L

- 冷却システムにクーラントを注入してエア抜きをします。 (頁141)

- ラジエーターキャップを取り付けます。

15.3 クーラントのレベルを点検する



警告

火傷の危険性 クーラントは運転中、非常に熱く、圧力がかかっています。

- エンジンが運転で暖まっているときは、ラジエーター、ラジエーターホース、その他冷却システムの部品を開かないで下さい。エンジンと冷却システムが冷めるのを待って下さい。火傷した場合、その部位をぬるま湯に浸して下さい。



警告

中毒の危険性 クーラントは毒性で、健康に害を及ぼします。

- クーラントが皮膚、目、衣服につかないよう注意して下さい。目に入った場合はすぐに水で洗い流し、医師の診断を受けて下さい。皮膚についた場合は、すぐにその部分を水と石鹸で洗って下さい。クーラントを飲み込んでしまった場合は、すぐに医師の診断を受けて下さい。クーラントが衣服についた場合は着替えて下さい。クーラントは子供の手の届かない場所に保管して下さい。

条件

エンジンが冷えている。

- 車両を水平な地面の上で垂直に立てます。
- 調節タンク①に入っているクーラントのレベルを確認します。

クーラントのレベルがMINとMAXの間にある事を確認して下さい。

- » クーラントのレベルが規定通りになっていない:
 - クーラントのレベルを調整します。

クーラント (📖 頁175)

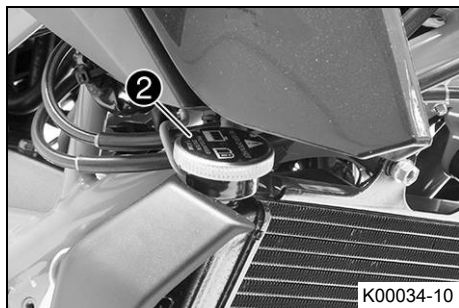
- ラジエーターキャップ②を取り外し、ラジエーター内のクーラントのレベルを点検します。


ラジエーターがクーラントで満たされている事を確認して下さい。

- » クーラントのレベルが規定通りになっていない:
 - クーラントのレベルを調節し、クーラントが減少した原因を突き止めます。

クーラント (📖 頁175)

- » 以下に示した規定値以上のクーラントを追加する必要があった:
> 0.20 L



- 冷却システムにクーラントを注入してエア抜きをします。  (頁141)
- ラジエーターキャップを取り付けます。

15.4 クーラントを排出する



警告

火傷の危険性 クーラントは運転中、非常に熱く、圧力がかかっています。

- エンジンが運転で暖まっているときは、ラジエーター、ラジエーターホース、その他冷却システムの部品を開かないで下さい。エンジンと冷却システムが冷めるのを待って下さい。火傷した場合、その部位をぬるま湯に浸して下さい。



警告


中毒の危険性 クーラントは毒性で、健康に害を及ぼします。

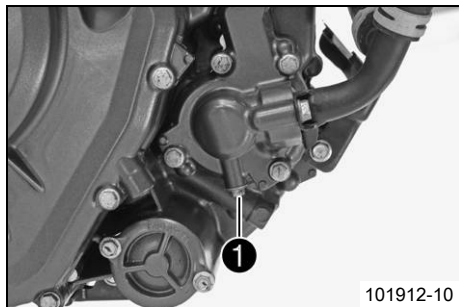
- クーラントが皮膚、目、衣服につかないよう注意して下さい。目に入った場合はすぐに水で洗い流し、医師の診断を受けて下さい。皮膚についた場合は、すぐにその部分を水と石鹼で洗って下さい。クーラントを飲み込んでしまった場合は、すぐに医師の診断を受けて下さい。クーラントが衣服についた場合は着替えて下さい。クーラントは子供の手の届かない場所に保管して下さい。

条件

エンジンが冷えている。

準備作業

- フロントスポイラーを取り外します。 ( 頁92)



主な作業

- 車両を垂直に立てます。
- エンジンの下に適当な容器を用意します。
- スクリュー①を外します。
- ラジエーターキャップを外します。
- クーラントが完全に流れ出るまで待ちます。
- スクリュー①を新しいシールリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

規定

ウォーターポンプ排水口用スクリュー ラグ	M6	8 Nm
-------------------------	----	------

15.5 冷却システムにクーラントを注入してエア抜きをする

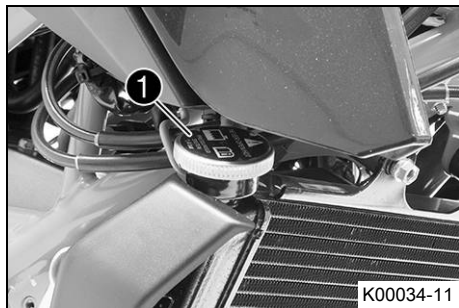


警告

中毒の危険性 クーラントは毒性で、健康に害を及ぼします。

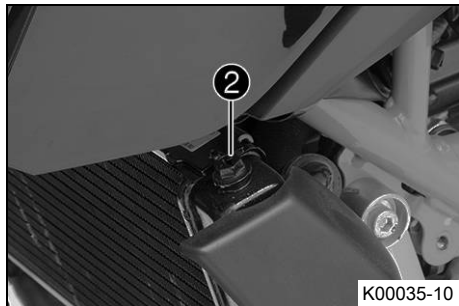
- クーラントが皮膚、目、衣服につかないよう注意して下さい。目に入った場合はすぐに水で洗い流し、医師の診断を受けて下さい。皮膚についた場合は、すぐにその部分を水と石鹼で洗って下さい。クーラントを飲み込んでしまった場合は、すぐに医師の診断を受けて下さい。クーラントが衣服についた場合は着替えて下さい。クーラントは子供の手の届かない場所に保管して下さい。

15 冷却システム



主な作業

- ラジエーターキャップ①を外します。



- エアブリーダー②を3回転分緩めます。
- 車両を少し右に傾けます。
- クーラントがエアブリーダーから気泡のない状態で出てくるまでクーラントを注入し、その後すぐにエアブリーダーを取り付け、しっかりと締めます。

クーラント (📖 頁175)

- ラジエーターをクーラントで満たします。ラジエーターキャップを取り付けます。
- 車両をサイドスタンドで立てます。

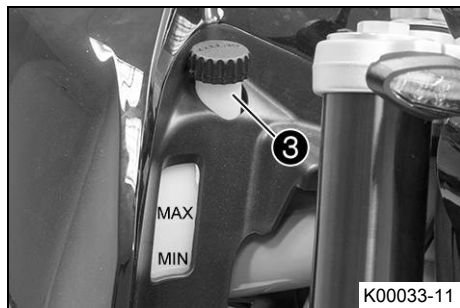


危険

中毒の危険性 排気ガスは毒性で、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンをかけているときは必ず十分に換気し、適切な排気設備のない閉め切った室内でエンジンをかけたり、かけたままにする事はやめて下さい。
-
- エンジンをかけ、暖気運転します。

15 冷却システム

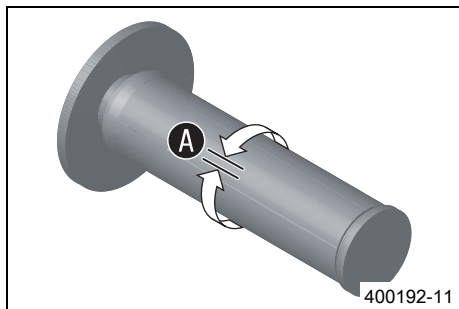


- エンジンを停止して冷めるのを待ちます。
- エンジンが冷めたらラジエーター内のクーラントのレベルを再度点検し、必要に応じてクーラントを補給します。
- 調節タンク③のキャップを外し、クーラントをMAXのマーキングまで注入します。
- 調節タンクのキャップを取り付けます。

その後の作業

- フロントスポイラーを取り付けます。(📖 頁93)

16.1 アクセルワイヤーの遊びを点検する



- スロットルグリップがスムーズに動くか確認します。
- ハンドルバーを直進の状態にします。スロットルグリップを軽く両方向に回し、アクセルワイヤーの遊び **A** を確認します。

アクセルワイヤーの遊び	3... 5 mm
-------------	-----------

- » アクセルワイヤーの遊びが規定通りになっていない:
 - アクセルワイヤーの遊びを調節します。🔧 (📖 頁145)



危険

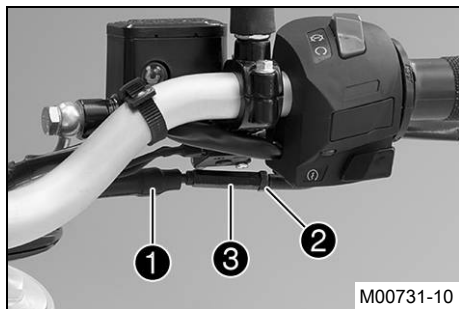
中毒の危険性 排気ガスは毒性で、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンをかけているときは必ず十分に換気し、適切な排気設備のない閉め切った室内でエンジンをかけたり、かけたままにする事はやめて下さい。
- エンジンをかけ、アイドルングさせます。ハンドルバーをハンドル限界全体にわたって左右に動かします。

アイドルング回転数は一定でなければなりません。

- » アイドリング回転数が一定でない:
 - アクセルワイヤーの取り回しを点検します。

16.2 アクセルワイヤーの遊びを調節する



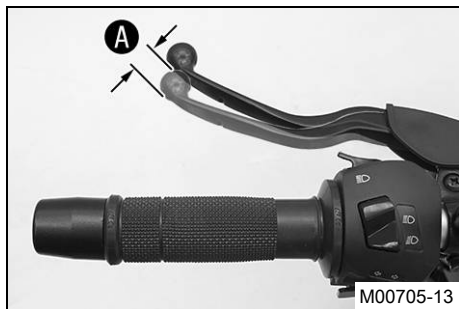
- ハンドルバーを直進の状態にします。
- ワイヤーブーツ ① を後ろへずらします。
- カウンターナット ② を緩めます。
- 調節スクリュー ③ でアクセルワイヤーの遊びを調節します。

規定

アクセルワイヤーの遊び	3... 5 mm
-------------	-----------

- カウンターナット ② をしっかりと締めます。
- ワイヤーブーツ ① をかぶせます。

16.3 クラッチレバーの遊びを点検する



- クラッチレバーがスムーズに動くか確認します。
- ハンドルバーを直進の状態にします。クラッチレバーを抵抗が感じられるまで引き、クラッチレバーの遊び A を確認します。

クラッチレバーの遊び	1... 3 mm
------------	-----------

- » クラッチレバーの遊びが規定通りになっていない:
 - クラッチワイヤーの遊びを調節します。 (頁146)

注意

クラッチの損傷 クラッチレバーに遊びがないとクラッチが滑り出します。

- 車両を運転する前に必ずクラッチレバーの遊びを点検して下さい。
- ハンドルバーをハンドル限界全体にわたり左右に動かします。

クラッチレバーの遊びは一定でなければなりません。

- » クラッチレバーの遊びが一定でない:
 - クラッチワイヤー取り回しを点検します。

16.4 クラッチワイヤーの遊びを調節する

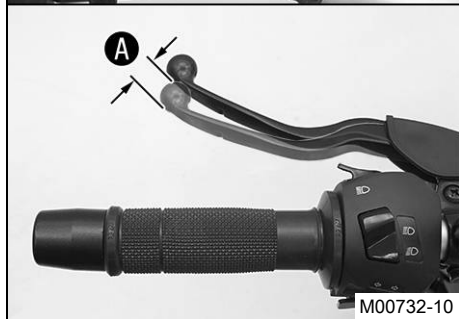


- ハンドルバーを直進の状態にします。
- ワイヤーブーツ①を後ろへずらしません。
- カウンターナット②を緩めます。
- クラッチワイヤーの遊びAを調節スクリー③で調節します。

規定

クラッチレバーの遊び	1... 3 mm
------------	-----------

- カウンターナット②をしっかりと締めます。
- ワイヤーブーツ①の位置を調整します。



17.1 エンジンオイルのレベルを点検する

条件

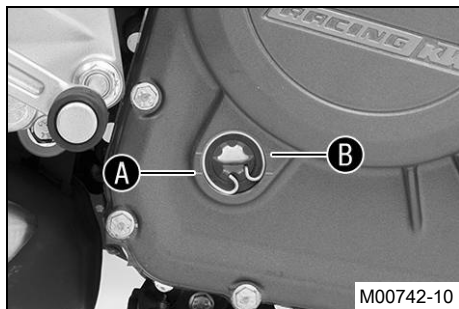
エンジンが作動温度に達している。

準備作業

- 車両を水平な地面の上で垂直に立てます。

主な作業

- エンジンオイルのレベルを点検します。



i 参考

エンジンを停止した後、1分待ってから点検します。

エンジンオイルのレベルが **A** と **B** の間にあるように調整します。

- » エンジンオイルのレベルが **A** のマーキングを下回っている:
 - エンジンオイルを補給します。(頁 150)
- » エンジンオイルのレベルが **B** のマーキングを上回っている:
 - エンジンオイルのレベルを調整します。

17.2 エンジンオイルとオイルフィルターを交換し、オイルスクリーンを清掃する



警告

火傷の危険性 エンジンオイル並びにミッションオイルは運転中非常に熱くなっています。

- 適切な保護服、保護手袋を着用して下さい。火傷した場合、その部位をぬるま湯に浸して下さい。



警告

環境汚染 問題物質が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは定められた規則に従って正しく廃棄して下さい。

i 参考

エンジンオイルは、エンジンが作動温度に達した状態で排出します。

準備作業

- フロントスポイラーを取り外します。(📖 頁92)
- 車両をサイドスタンドで水平な地面の上に立てます。

主な作業

- エンジンの下に適当な容器を用意します。
- オイルドレインボルト①をOリングと一緒に外します。
- オイルスクリーン②をOリングと一緒に外します。
- スクリュープラグ③をオイルスクリーン④と一緒に外します。
- エンジンオイルが完全に流れ出るまで待ちます。
- オイルドレインボルトとオイルスクリーンを念入りに清掃します。
- オイルスクリーン②の位置を調整し、オールドレインボルト①をOリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

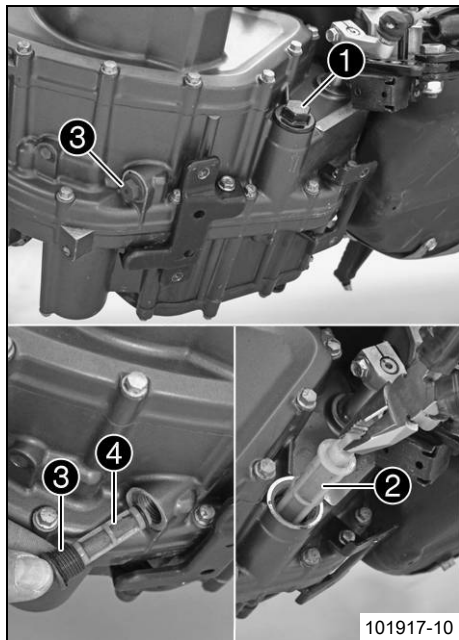
規定

オールドレインボルト	M24x1.5	15 Nm
------------	---------	-------

- スクリュープラグ③をオイルスクリーン④とOリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

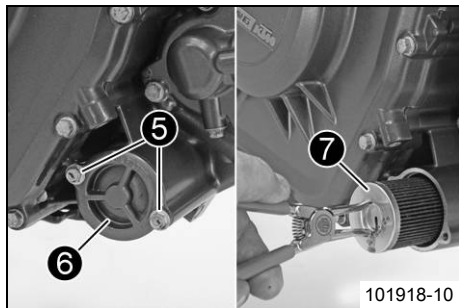
規定

オイルスクリーン (小) 用スクリュープラグ	M17x1.5	12 Nm
------------------------	---------	-------



101917-10

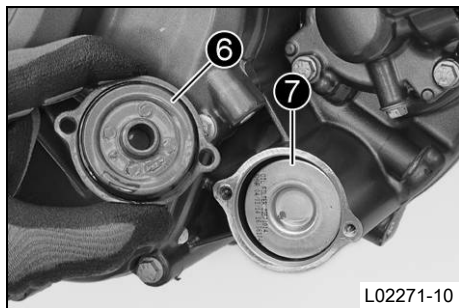
17 エンジンで行うサービス作業



- スクリュー⑤を外します。オイルフィルターカバー⑥をOリングと一緒に取り外します。
- オイルフィルター⑦をフィルターケースから取り出します。

サークリップ用ペンチ (逆作用) (51012011000)

- エンジンオイルが完全に流れ出るまで待ちます。
- 部品とシール面を念入りに清掃します。



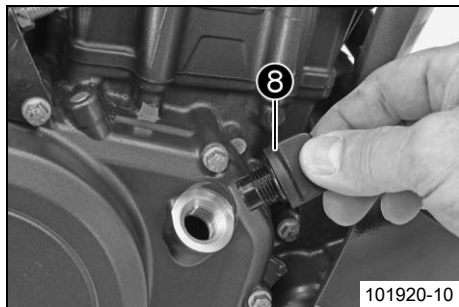
- オイルフィルター⑦を取り付けます。
- オイルフィルターカバーのOリングにオイルを差します。オイルフィルターカバー⑥を取り付けます。
- スクリューを取り付け、しっかりと締めます。

規定

オイルフィルターカバー用スクリュー	M5	8 Nm
オイルフィルターカバー用スクリュー	M6	12 Nm

i 参考

エンジンオイルが少な過ぎる場合やエンジンオイルの質が悪いと、エンジンの摩耗を早める事になります。



- クラッチカバーにあるオイルフィルラスクリュー⑧をOリングと一緒に取り外し、エンジンオイルを注入します。

エンジンオイル	1.7 L	エンジンオイル (SAE 15W/50) (頁175)
---------	-------	---------------------------------

- オイルフィルラスクリューをOリングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。



危険

中毒の危険性 排気ガスは毒性で、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンをかけているときは必ず十分に換気し、適切な排気設備のない閉め切った室内でエンジンをかけたり、かけたままにする事はやめて下さい。
-
- エンジンをかけ、漏れがないか確認します。

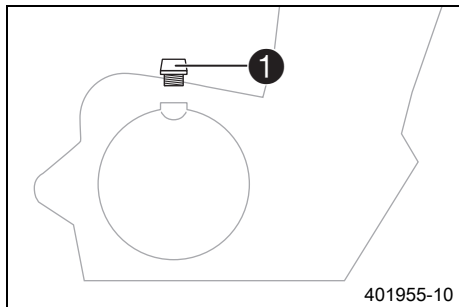
その後の作業

- フロントスポイラーを取り付けます。(頁93)
- エンジンオイルのレベルを点検します。(頁147)

17.3 エンジンオイルを補給する

参考

エンジンオイルが少な過ぎたり質が悪いと、エンジンの摩耗を早める事になります。



主な作業

- クラッチカバーにあるオイルフィルターボルト①を O リングと一緒に外し、エンジンオイルを注入します。

エンジンオイル (SAE 15W/50) (📖 頁175)

参考

エンジンオイルの性能を最大限に引き出すには、異なったエンジンオイルを混ぜて使用する事は望ましくありません。
必要に応じてエンジンオイルを交換する事をお勧めします。

- オイルフィルターボルトを O リングと一緒に取り付け、しっかりと締めます。

危険

中毒の危険性 排気ガスは毒性で、意識不明や死亡の原因となる恐れがあります。

- エンジンをかけているときは必ず十分に換気し、適切な排気設備のない閉め切った室内でエンジンをかけたり、かけたままにする事はやめて下さい。
- エンジンをかけ、漏れがないか確認します。

その後の作業

- エンジンオイルのレベルを点検します。(📖 頁147)

18.1 洗車をする

注意

部品の損傷 高圧洗車機による部品の破損や損傷。

- 高圧洗車機で洗車する際は、直接水が電子系統、プラグ、ケーブル、ベアリングなどにかからないように調整して下さい。高圧洗車機のジェットと部品間は最低 60 cm 以上空けて下さい。高圧による洗車は破損の原因となり、部品の破壊を引き起こす可能性があります。



警告

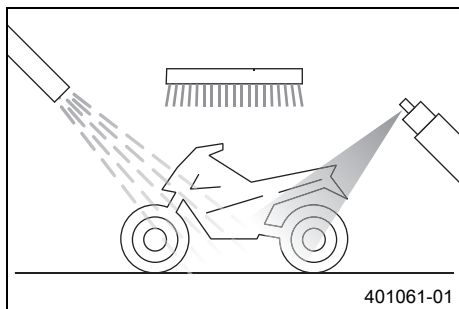
環境汚染 問題物質が環境汚染の原因となります。

- オイル、グリース、フィルター、燃料、洗浄剤、ブレーキフルードなどは定められた規則に従って正しく廃棄して下さい。



参考

品質や外観を長く保持するため、洗車は定期的に行って下さい。
洗車中は車両に直射日光が当たらないよう注意して下さい。



401061-01

- 水が入らないように排気装置をふさぎます。
- 大きな汚れはあらかじめ弱い水流で落としておきます。
- 汚れがひどい箇所には市販のモーターサイクル洗浄剤を吹きつけ、ブラシで汚れを落とします。

モーターサイクル用洗浄剤 (参照 頁177)

 **参考**

市販のモーターサイクル洗浄剤を入れた温水と柔らかいスポンジを使用します。

毎回、水で車両を流してからモーターサイクル洗浄剤を使用して下さい。
凍結防止用の塩が散布された道路を走行した後は、水で洗車して下さい。温水を使うと塩の作用を促進してしまいます。

- 車両を弱い水流で念入りに洗い流した後、車両をよく乾燥させます。
- 排気装置のキャップを外します。

**警告**

事故の危険性 ブレーキシステムの濡れ・汚れによるブレーキ性能の劣化。

- ブレーキを慎重に作動し、ブレーキシステムの汚れ・濡れを解消して下さい。

- 洗車後、エンジンが作動温度に達するまで短い距離を走行します。

 **参考**

熱によりエンジンやブレーキシステムの手の届かない場所にある水分も蒸発します。

- ハンドルまわりのワイヤーブーツをずらし、ここに入り込んだ水分も蒸発させます。
- 車両が冷えたら全てのスライド部とベアリング部をグリースアップします。
- チェーンを清掃します。(📖 頁84)
- 塗装されていない金属製部品(ブレーキディスクと排気装置を除く)には、腐食防止剤を塗布します。

ラッカー塗装、金属、ゴム用手入れ剤 (📖 頁178)

- ラッカー塗装されている全部品に刺激の少ないラッカー専用の手入れ剤を塗布します。

パーフェクト・フィニッシュおよびラッカー塗装用光沢剤 (📖 頁177)

i 参考

納車時、光沢のないプラスチックの部品は磨かないでください。材料の品質を著しく損なう恐れがあります。

- プラスチックおよびパウダーコーティングされている部品は全て刺激の少ない洗浄・手入れ剤で手入れをします。

ラッカー塗装 (光沢、非光沢)、金属、プラスチック専用洗浄剤 (📖 頁177)

- イグニッション/ハンドルロックにオイルを差します。

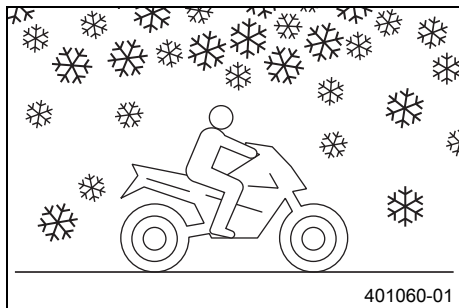
汎用オイルスプレー (📖 頁178)

18.2 冬季運転における点検・メンテナンス作業

i 参考

冬季にも車両を使用する際は、凍結防止のため路上に散布された塩の存在を考慮に入れなければなりません。刺激が強い塩に対する予防対策を講じておく必要があります。

凍結防止用の塩が散布された道路を走行したら、走行後、水で洗車して下さい。温水を使うと塩の作用を促進してしまいます。



- 洗車をします。(📖 頁152)
- ブレーキを清掃します。

i 参考

凍結防止用の塩が散布された道路を走行した後は、**毎回必ず**ブレーキキャリアとブレーキパッドを清掃して下さい。ブレーキキャリアとブレーキパッドが冷めるのを待ち、取り付けたままの状態でご念入りに水で洗い、良く乾燥させます。

凍結防止用の塩が散布された道路を走行した後は、車両を水でご念入りに洗浄し、よく乾燥させて下さい。

- エンジンやスイングアームをはじめ、塗装されていない部品や亜鉛メッキが施された部品 (ブレーキディスクを除く)には全てワックス系腐食防止剤を塗布します。

i 参考

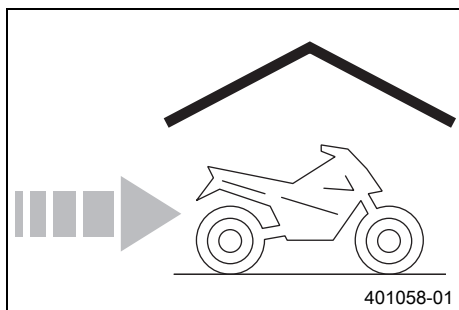
ブレーキディスクには腐食防止剤が付かないよう注意して下さい。ブレーキ性能が大幅に低下します。

- チェーンを清掃します。(📖 頁84)

19.1 保管

i 参考

車両を長期に渡って使用しない場合は、以下に挙げた処置をご自身または KTM の正規ディーラーで行って下さい。車両の保管前に全ての部品が機能するか、摩耗していないか点検します。サービス作業、修理、改修作業が必要な場合は、ディーラーの工場が空いている保管時期に行う事をお勧めします。シーズン開始の混雑時を避ける事ができます。



- シーズンオフで使用を停止する前の最後の給油時に、燃料添加剤を加えます。

燃料添加剤 (📖 頁178)

- 燃料を給油します。(📖 頁71)
- 洗車をします。(📖 頁152)
- エンジンオイルとオイルフィルターを交換し、オイルスクリーンを清掃します。👉 (📖 頁147)
- 不凍液とクーラントのレベルを点検します。(📖 頁136)
- タイヤの空気圧を点検します。(📖 頁114)
- バッテリーを取り外します。👉 (📖 頁116)
- バッテリーを充電します。👉 (📖 頁118)

規定

バッテリーの保管温度 (直射日光を避ける)	0... 35 °C
-----------------------	------------

- 乾燥し、急激な温度変化のない場所に車両を立てます。

i 参考

KTM では車両をジャッキアップして保管する事をお勧めしています。

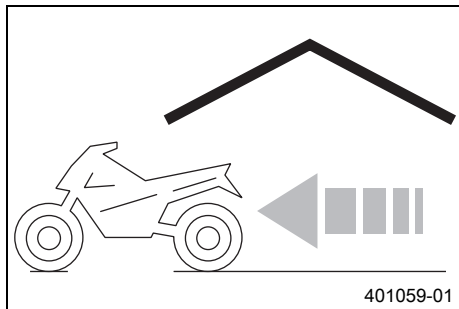
- 車両をリアスタンドでジャッキアップします。(📖 頁78)
- フロントスタンドで車両をジャッキアップします。(📖 頁79)

- 通気性の良い防水シートかカバーで車両を覆います。

**参考**





空気を通さないカバーは湿気が逃げず、腐食の原因となりますので絶対に使用しないで下さい。

保管中にエンジンを短時間のみ作動すると、車両に非常に悪い影響を与えます。エンジンが十分に暖まらないため、燃焼の際に生じた水蒸気が結露し、バルブや排気管のさびの原因となります。

19.2 保管後、運転操作の前に

- 車両をフロントスタンドから降ろします。(📖 頁80)
- 車両をリアスタンドから降ろします。(📖 頁78)
- バッテリーを取り付けます。🔌(📖 頁117)
- 時計を設定します。(📖 頁49)
- 運転操作の前に必ず行う点検・メンテナンス作業を実施します。(📖 頁61)
- 試験走行を行います。

不具合	考えられる原因	対応
スタータースイッチを作動してもエンジンが回転しない	操作ミス	- エンジン始動方法の作業ステップに従って下さい。(📖 頁62)
	バッテリーがあがっている	- バッテリーを充電します。👉(📖 頁118)
	ヒューズ1、3、4、8のいずれかが飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。(📖 頁123)
	正しくアース接続されていない	- アース接続を点検します。
クラッチレバーを握らないとエンジンが回転しない	ギアが入っている	- ギアをニュートラルに入れます。
	ギアが入っており、サイドスタンドが出ている	- ギアをニュートラルに入れます。
エンジンが回転しているのかからない	操作ミス	- エンジン始動方法の作業ステップに従って下さい。(📖 頁62)
	燃料噴射システムでの不具合	- KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。👉
エンジンの出力が低過ぎる	エアフィルターがひどく汚れている	- エアフィルターを交換します。
	燃料フィルターがひどく汚れている	- 燃圧を点検します。👉
	燃料噴射システムでの不具合	- KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。👉
エンジンが異常に熱くなる	冷却システムのクーラントが少な過ぎる	- 冷却システムに漏れがないか点検します。 - クーラントのレベルを点検します。(📖 頁138)
	ラジエーターのフィンがひどく汚れている	- ラジエーターのフィンを清掃します。
	冷却システム内に気泡が発生している	- クーラントを排出します。👉(📖 頁140) - 冷却システムにクーラントを注入してエア抜きをします。👉(📖 頁141)
	サーモスタットが故障している	- サーモスタットを点検します。👉

不具合	考えられる原因	対応
エンジンが異常に熱くなる	ヒューズ5が飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。 (<small>図</small> 頁123)
	冷却ファン装置が故障している	- 冷却ファン装置を点検します。 
エンジン診断警告ランプ (MIL) が赤く点灯	燃料噴射システムでの不具合	- KTM 診断ツールでエラーメモリーを解読します。 
走行中にエンジンが停止する	燃料不足	- 燃料を給油します。 (<small>図</small> 頁71)
	ヒューズ1、3、4、8のいずれかが飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。 (<small>図</small> 頁123)
ABS 警告ランプが点灯	ABS のヒューズが飛んでいる	- ABS のヒューズを交換します。 (<small>図</small> 頁121)
	前輪と後輪の回転数に大きな差がある	- 停車してイグニッションを停止し、再スタートします。
	ABS の不具合	- KTM 診断ツールで ABS エラーメモリーを解読します。 
オイルの消費が多い	エンジンのエア抜きホースが折れ曲がっている	- エア抜きホースを折れないように配置し、必要に応じて交換します。
	エンジンオイルのレベルが高過ぎる	- エンジンオイルのレベルを点検します。 (<small>図</small> 頁147)
	エンジンオイルの濃度 (粘度) が低過ぎる	- エンジンオイルとオイルフィルターを交換し、オイルスクリーンを清掃します。  (<small>図</small> 頁147)
ヘッドライトとポジションライトが機能しない	ヒューズ6が飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。 (<small>図</small> 頁123)
ターンシグナル、ブレーキライト、ホーンが機能しない	ヒューズ6が飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。 (<small>図</small> 頁123)
時計が表示されない、または正しく表示されない	ヒューズ8が飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。 (<small>図</small> 頁123) - 時計を設定します。 (<small>図</small> 頁49)

不具合	考えられる原因	対応
バッテリーがあがっている	車両を停止した際、イグニッションをオフにしなかった	- バッテリーを充電します。 (📖 頁118)
	バッテリーがジェネレーターで充電されない	- 充電電圧を点検します。 🖱️ - スタンバイ電流を点検します。 🖱️
コンビネーションインスツルメントの画面に何も表示されない	ヒューズ8が飛んでいる	- 各電装系部品のヒューズを交換します。 (📖 頁123) - 時計を設定します。 (📖 頁49)
コンビネーションインスツルメントの速度表示が機能しない	速度表示のワイヤーハーネスが損傷している、またはコネクタが酸化している	- ワイヤーハーネスとコネクタを点検します。

21.1 エンジン

構造	単気筒、4 ストローク、水冷エンジン
排気量	249 cm ³
ストローク	61.1 mm
ボア	72 mm
圧縮比	12.5:1
駆動方式	4バルブ DOHC、カムレバーによる制御、チェーンによる駆動
吸気バルブ直径	29 mm
排気バルブ直径	24 mm
吸気バルブ遊び (冷えた状態)	0.08... 0.12 mm
排気バルブ遊び (冷えた状態)	0.13... 0.17 mm
クランクシャフトベアリング	スライドベアリング x 2
コンロッドベアリング	スライドベアリング
ピストン	軽合金、鋳造
ピストンリング	コンプレッションリング x 1、テーパフェースリング x 1、オイルリング x 1
エンジン潤滑方式	ローターポンプ 2 台による圧送式
一次減速比	30:80
クラッチ	湿式クラッチ、機械式作動
ギア	6 速常時噛合式
変速比	
1 速	12:32
2 速	14:26
3 速	19:27

4 速	21:24
5 速	23:22
6 速	25:21
フューエルマネージメント	電子制御による燃料噴射
イグニッション	非接触制御電子イグニッション、デジタルイグニッションコントローラー
ジェネレーター	12 V, 230 W
スパークプラグ	BOSCH VR 5 NE
スパークプラグ電極間のクリアランス	0.8 mm
スパークプラグ	BOSCH VR 5 NEU
スパークプラグ電極間のクリアランス	1 mm
冷却システム	水冷式、ウォーターポンプによるクーラントの常時循環
アイドル回転数	1,450... 1,550 rpm
エンジンスタート装置	セルフスターター

21.2 締付けトルクエンジン

オイルジェット	M5	6 Nm	Loctite® 243™
オイルフィルターカバー用スクリュー	M5	8 Nm	-
ギアセンサー用スクリュー	M5	6 Nm	Loctite® 243™
パルサーコイル用スクリュー	M5	6 Nm	Loctite® 243™
固定ブラケット用スクリュー	M5	6 Nm	Loctite® 243™
固定子ケーブル固定ブラケット用スクリュー	M5	8 Nm	Loctite® 243™
固定子用スクリュー	M5	8 Nm	Loctite® 243™

21 仕様一覧

ウォーターポンプカバー用スクリュー	M6	12 Nm	-
ウォーターポンプホイール用ナット	M6	10 Nm	Loctite® 243™
ウォーターポンプ排水口用スクリュー プラグ	M6	8 Nm	-
エンジンエア抜きプレート用スクリュー	M6	10 Nm	Loctite® 243™
エンジンケース用スクリュー	M6x35	12 Nm	Loctite® 243™
エンジンケース用スクリュー	M6x75	12 Nm	-
オイルジェット	M6	6 Nm	Loctite® 243™
オイルフィルターカバー用スクリュー	M6	12 Nm	-
オイルポンプ用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite® 243™
カムシャフトデコンプシャフト用スクリュー	M6	10 Nm	Loctite® 243™
カムシャフトベアリングブラケット用スクリュー	M6	11 Nm	-
クラッチカバーのシャフトシールリング固定ブラケット用スクリュー	M6	11 Nm	Loctite® 243™
クラッチカバー用スクリュー	M6	12 Nm	-
クラッチケーブル固定プレート用スクリュー	M6	6 Nm	Loctite® 243™
クラッチスプリング用スクリュー	M6	10 Nm	-
ジェネレーターカバー用スクリュー	M6	12 Nm	-
シフトロック用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite® 243™
シリンダーヘッド用スクリュー	M6	12 Nm	-
セルフスターターモーター用スクリュー	M6	12 Nm	-

21 仕様一覧

タイミングチェーンテンショナーリリース用スクリュー	M6	6 Nm	-
タイミングチェーンテンショナーレール用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite® 243™
タイミングチェーンテンショナー用スクリュー	M6	12 Nm	-
チェーン脱落防止用スクリュー	M6	11 Nm	Loctite® 243™
バルブカバー用スクリュー	M6	12 Nm	-
フリーホイールギア固定ブラケット用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite® 243™
フロントsprocket保護プレート用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite® 243™
フロントsprocket用スクリュー	M6	11 Nm	-
ベアリングロック用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite® 243™
ロックレバー用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite® 243™
固定ブラケット用スクリュー	M6	12 Nm	Loctite® 243™
シフトアシストリターンズpring用スクリュー	M8	20 Nm	Loctite® 243™
シリンダーヘッドへのマニホールド取り付け用ナット	M8	20 Nm	-
スクリュープラグ	M8	12 Nm	Loctite® 243™
バルancerシャフトギア用スクリュー	M8	25 Nm	Loctite® 243™
排気管フランジ用スタッドボルト	M8	22 Nm	-
排気管フランジ用ナット	M8	22 Nm	-
コンロッドベアリング用スクリュー	M8x1	34 Nm	-
カムシャフトギア用スクリュー	M10	32 Nm	Loctite® 243™

シリンダーヘッド用スクリュー	M10	1レベル 30 Nm 2レベル 60 Nm	ねじ山にはオイルを差し、 ヘッド接触面はグリースアップ
ローター用スクリュー	M10	110 Nm	Loctite® 243™
水温センサー	M10	14 Nm	-
油圧スイッチ	M10	14 Nm	-
カムレバー用スクリュープラグ	M10x1	9 Nm	-
スパークプラグ	M12	15 Nm	-
インナークラッチハブ用ナット	M16LHx1.5	120 Nm	Loctite® 243™
第1ギア/タイミングチェーンギア用 ナット	M16x1.5	120 Nm	Loctite® 243™
オイルスクリーン(小)用スクリュープ ラグ	M17x1.5	12 Nm	-
ジェネレーターカバー用スクリュープ ラグ	M18x1.5	10 Nm	-
オイルドレインボルト	M24x1.5	15 Nm	-
ジェネレーターカバー用スクリュープ ラグ	M24x1.5	10 Nm	-
バルンサーシャフトギア用ナット	M28x1.5	60 Nm	Loctite® 243™

21.3 容量

21.3.1 エンジンオイル

エンジンオイル	1.7 L	エンジンオイル (SAE 15W/50) (図 頁175)
---------	-------	-------------------------------

21 仕様一覧

21.3.2 クーラント

クーラント	1.2 L	クーラント (📖 頁175)
-------	-------	----------------

21.3.3 燃料

フューエルタンク総容量 (約)	11 L	無鉛ハイオクガソリン (ROZ 95) (📖 頁176)
-----------------	------	------------------------------

予備燃料 (約)	1.5 L
----------	-------

21.4 シャーシ

フレーム	鋼管スペースフレーム、パウダーコーティング	
フロントフォーク	WP Suspension	
ショックアブソーバー	WP Suspension	
ブレーキシステム		
前輪	ディスクブレーキ、4ピストンキャリパー	
後輪	ディスクブレーキ、シングルピストンキャリパー、フローティングマウント	
サスペンションストローク		
前輪	150 mm	
後輪	150 mm	
ブレーキディスク直径		
前輪	300 mm	
後輪	230 mm	
ブレーキディスク磨耗限界		
前輪	3.6 mm	

後輪	3.6 mm
タイヤの空気圧 (同乗者なし)	
前輪	2.0 bar
後輪	2.0 bar
タイヤ空気圧 (同乗者有り / 最大積載量)	
前輪	2.0 bar
後輪	2.2 bar
二次減速比	14:46
チェーン	5/8 x 1/4" (520) X リング
ステアリングヘッド角度	65°
ホイールベース	1,367±15 mm
シート高 (負荷がない状態)	800 mm
最低地上高 (負荷がない状態)	170 mm
乾燥重量	139 kg
最大許容軸重 (前輪)	125 kg
最大許容軸重 (後輪)	210 kg
最大許容総重量	335 kg

21.5 電装系

バッテリー	ETZ-9-BS	バッテリー電圧: 12 V 定格容量: 8 Ah メンテナンスフリー
ヒューズ	75011088010	10 A
ヒューズ	75011088015	15 A

ヒューズ	90111088025	25 A
ヒューズ	75011088030	30 A
ヘッドライト	H4 / ソケット P43t	12 V 60/55 W
ポジションライト	W5W / ソケット W2.1x9.5d	12 V 5 W
インストルメントの照明とインジケータランプ	LED	
ターンシグナル	LED	
ブレーキライト / テールライト	LED	
ナンバープレートライト	LED	

21.6 タイヤ

タイヤ (前輪)	タイヤ (後輪)
110/70 ZR 17 M/C 54W TL Metzeler Sportec M5 Interact	150/60 ZR 17 M/C 66W TL Metzeler Sportec M5 Interact
下記アドレスのサービスで詳細をご確認下さい: http://www.ktm.com	

21.7 フロントフォーク

フロントフォークタイプナンバー	90201000044
フロントフォーク	WP Suspension
フロントフォーク長	736 mm
フロントフォークオイル	440 ml
	フロントフォークオイル (SAE 4) (48601166S1) (頁 176)

21.8 ショックアブソーバー

ショックアブソーバータイナンバー	90104010100
ショックアブソーバー	WP Suspension
スプリングプリロード	
コンフォート	1 クリック
スタンダード	3 クリック
スポーツ	6 クリック
最大積載時	10 クリック
空車サグ	15 mm
ライディングサグ	50... 55 mm
取り付け時の全長	300 mm

21.9 締付けトルクシャーシ

チェーンガード用スクリュー	EJOT PT® K60x20	4 Nm	-
ヘッドライト用スクリュー	EJOT PT® K50x12	4 Nm	-
マスク固定用スクリュー	EJOT PT® K50x12	4 Nm	-
排気管クランプ	-	20 Nm	-
EFI コントロールユニット用スクリュー	M4	4 Nm	-
サブフレーム下部フェアリング用スクリュー	M4	5 Nm	-
その他シャーシ用スクリュー	M4	4 Nm	-
ナンバープレートライト用スクリュー	M4	2 Nm	-
ABS ホースクランプ用スクリュー	M5	5 Nm	-
ウインドシールド用スクリュー	M5	3 Nm	-

21 仕様一覧

サイドスタンドスイッチ用スクリュー	M5	5 Nm	Loctite® 243™
サブフレーム下部カバー用スクリュー	M5	5 Nm	-
スポイラー用スクリュー	M5	5 Nm	-
その他シャーシ用スクリュー	M5	5 Nm	-
その他シャーシ用ナット	M5	5 Nm	-
タンクキャップ用スクリュー	M5	4 Nm	-
チェーンガード用スクリュー	M5	4 Nm	Loctite® 243™
テールライト用スクリュー	M5	5 Nm	-
ナンバープレートホルダー用スクリュー	M5	5 Nm	-
フューエルタンクのフランジキャップ用スクリュー	M5	5 Nm	-
フューエルタンクフェアリング用スクリュー	M5	5 Nm	-
リアエンド下部用スクリュー	M5	5 Nm	-
傾斜角センサー用スクリュー	M5	5 Nm	Loctite® 243™
後輪ブレーキワイヤーホルダー用スクリュー	M5	5 Nm	Loctite® 243™
燃料ポンプ用スクリュー	M5	5 Nm	-
ABS モジュール用スクリュー	M6	7 Nm	-
ABS 後部センサーホイール用スクリュー	M6	8 Nm	Loctite® 243™
イグニッションコイル用スクリュー	M6	9 Nm	-
エアフィルターケースのカバー用スクリュー	M6	3 Nm	-
エアフィルターケース用スクリュー	M6	6 Nm	-

クラッチケーブル固定プレート用スクリュー	M6	8 Nm	Loctite® 243™
サイドスタンドスイッチのケーブルホルダー用スクリュー	M6	9 Nm	Loctite® 243™
サイドスタンドマグネットホルダー用スクリュー	M6	5 Nm	Loctite® 243™
シート取付け用スクリュー (前方)	M6	6 Nm	-
シート用スクリュー	M6	9 Nm	-
シフトレバーリンクージ用スクリュー	M6	9 Nm	Loctite® 243™
その他シャーシ用スクリュー	M6	9 Nm	-
その他シャーシ用ナット	M6	15 Nm	-
ダンパーゴムフレーム用ナット	M6	7 Nm	-
ダンパーゴムへの固定ブラケット用スクリュー	M6	7 Nm	-
チェーンスライダーガード用スクリュー	M6	8 Nm	-
ナンバープレートホルダー用スクリュー	M6	9 Nm	Loctite® 243™
フットブレーキシリンダー用スクリュー	M6	9 Nm	Loctite® 243™
フューエルタンク用スクリュー	M6	9 Nm	-
ブレーキペダル調節用ナット	M6	9 Nm	-
フロントスポイラー用スクリュー	M6	7 Nm	-
フロントフェンダー用スクリュー	M6	9 Nm	-
ヘッドライトホルダー用スクリュー	M6	9 Nm	-
ヘッドライトマスク用スクリュー	M6	9 Nm	Loctite® 243™

21 仕様一覧

メインサイレンサー用スクリュー	M6	9 Nm	-
ラジエーターホルダー用スクリュー	M6	9 Nm	-
ラジエーター取付け用スクリュー	M6	6 Nm	-
ラジエーター用ナット	M6	5 Nm	-
レギュレーターホルダー用スクリュー	M6	9 Nm	-
レギュレーター用スクリュー	M6	9 Nm	-
傾斜角センサーホルダー用スクリュー	M6	9 Nm	-
後輪スプラッシュガード用スクリュー	M6	9 Nm	-
後輪ブレーキのブレーキフルードリザーバー用スクリュー	M6	8 Nm	Loctite® 243™
後輪リアエンド用スクリュー	M6	7 Nm	-
車輪速度センサーホルダー用スクリュー	M6	8 Nm	-
前輪リアエンド用スクリュー	M6	8 Nm	-
調節タンク用スクリュー	M6	9 Nm	-
アッパートリプルクランプ用スクリュー	M8	11 Nm	-
エンジンマウントへの取付け用スクリュー	M8	25 Nm	-
サイドグリップ用スクリュー	M8	25 Nm	-
シフトレバー用スクリュー	M8	16 Nm	Loctite® 243™
その他シャーシ用スクリュー	M8	25 Nm	-
その他シャーシ用ナット	M8	30 Nm	-
ハンドルバークランプ用スクリュー	M8	21 Nm	Loctite® 243™

21 仕様一覧

フォークレグのアクスル通し穴用スクリュー	M8	15 Nm	-
ブレーキペダル用スクリュー	M8	16 Nm	Loctite® 243™
フレームへのエンジンマウント取付け用スクリュー	M8	25 Nm	-
ホーン用スクリュー	M8	21 Nm	-
メインサイレンサー用スクリュー	M8	24 Nm	-
リアシート用フットレストサポート用スクリュー	M8	25 Nm	Loctite® 243™
リアスプロケット用ナット	M8	27 Nm	-
口アートリプルクランプ用スクリュー	M8	15 Nm	-
後輪ブレーキディスク用スクリュー	M8	25 Nm	Loctite® 243™
前輪アクスルシャフト用スクリュー	M8	25 Nm	-
前輪ブレーキディスク用スクリュー	M8	25 Nm	Loctite® 243™
前輪ブレーキキャリパー用スクリュー	M8x1	25 Nm	Loctite® 204™
エンジンマウント用スクリュー	M10	45 Nm	-
サイドスタンド用スクリュー	M10	35 Nm	Loctite® 243™
その他シャーシ用スクリュー	M10	45 Nm	-
その他シャーシ用ナット	M10	50 Nm	-
ブレーキワイヤー用バンジョーボルト	M10	24 Nm	-
サイドスタンド取付けアーム用スクリュー	M10x1.25	25 Nm	Loctite® 243™
ショックアブソーバー用下部スクリュー	M10x1.25	45 Nm	-
ショックアブソーバー用上部スクリュー	M10x1.25	45 Nm	Loctite® 243™

21 仕様一覧

ターンシグナル用ナット	M10x1.25	6 Nm	-
ハンドルアダプター用スクリュー	M10x1.25	21 Nm	-
フロントシートフットレストサポート / エンジンマウント用スクリュー	M10x1.25	45 Nm	-
フロントシートフットレストサポート 用スクリュー	M10x1.25	45 Nm	Loctite® 243™
ミラー用スクリュー (右)	M10LHx1.25	16 Nm	-
ミラー用スクリュー (左)	M10x1.25	16 Nm	-
スイングアームピボット用ナット	M14x1.5	100 Nm	-
後輪アクスルシャフト用ナット	M14x1.5	90 Nm	-
ステアリングヘッド用上部スクリュー	M16x1.5	53 Nm	Loctite® 243™
ラムダセンサー	M18x1.5	19 Nm	-
スイングアームのベアリング用調整 リング	M22x1	遊びを引き締める	-
ステアリングヘッド用ナット	M30x1	1 レベル 55 Nm 2 レベル (時計と反対周りで 緩める) 2 回転 3 レベル 5 Nm	-

エンジンオイル (SAE 15W/50)

規格 / 分類

- JASO T903 MA (頁179)
- SAE (頁179) (SAE 15W/50)

規定

- 指定された規格 (タンク記載を参照)に適合し、これに応じた特性を有するエンジンオイルのみを使用して下さい。

一部化学合成エンジンオイル

推奨製品

Motorex®

- Formula 4T

クーラント

規定

- アルミニウム製エンジンでは (温度の高い地域の場合も)、高品質のクーラントに腐食防止剤を添加したもの以外は使用しないでください。品質の悪い不凍液を使用すると、腐食や気泡が発生する恐れがあります。

配合割合

耐凍結効果: -25... -45 °C	腐食防止不凍液 蒸留水
----------------------	----------------

推奨製品

Motorex®

- COOLANT M3.0

ブレーキフルード DOT 4 / DOT 5.1

規格 / 分類

- DOT

規定

- 指定された規格 (タンク記載を参照)に適合し、これに応じた特性を有するブレーキフルードのみを使用して下さい。

推奨製品

Castrol

- RESPONSE BRAKE FLUID SUPER DOT 4

Motorex®

- Brake Fluid DOT 5.1

フロントフォークオイル (SAE 4) (48601166S1)

規格 / 分類

- SAE (頁 179) (SAE 4)

規定

- 指定された規格 (タンク記載を参照)に適合し、これに応じた特性を有するオイルのみを使用して下さい。

無鉛ハイオクガソリン (ROZ 95)

規格 / 分類

- DIN EN 228 (ROZ 95)

規定

- 指定された規格に適合する、または同等の無鉛ハイオクガソリンのみを使用して下さい。
- 最大 10%のエタノールを含む混合ガソリン (E10)を使用しても問題ありません。



参考

メタノール燃料 (M15、M85、M100 など)および 10%以上のエタノールを混合した燃料 (E15、E25、E85、E100 など)は使用しないで下さい。

チェーンスプレー Onroad

規定

推奨製品

Motorex®

- Chainlube Road

チェーン洗浄剤

推奨製品

Motorex®

- Chain Clean

パーフェクト・フィニッシュおよびラッカー塗装用光沢剤

推奨製品

Motorex®

- Moto Polish & Shine

モーターサイクル用洗浄剤

推奨製品

Motorex®

- Moto Clean

ラッカー塗装(光沢、非光沢) 金属、プラスチック専用洗浄剤

推奨製品

Motorex®

- Quick Cleaner

ラッカー塗装、金属、ゴム用手入れ剤

推奨製品

Motorex®

- Moto Protect

耐久性グリース

推奨製品

Motorex®

- Bike Grease 2000

燃料添加剤

推奨製品

Motorex®

- Fuel Stabilizer

汎用オイルスプレー

推奨製品

Motorex®

- Joker 440 Synthetic

JASO T903 MA

多岐にわたる技術開発を受け、4ストロークエンジン搭載モーターサイクル専用の仕様規格、JASO T903 MA が生まれました。以前はモーターサイクル専用の仕様がなく、4ストロークモーターサイクルには乗用車用のエンジンオイルが使われていました。乗用車ではエンジンのサービス頻度を下げる事が重要である一方、モーターサイクルエンジンでは何よりも高回転数で高い出力を引き出す事が要求されます。さらにモーターサイクルでは、ギアやクラッチにもエンジンと同じオイルが使用される事が珍しくありません。JASO MA 規格はこれら特殊な需要を考慮に入れた内容となっています。



SAE

SAE 粘度は米国の自動車技術者協会 (Society of Automotive Engineers)によって定められたもので、オイルをその粘度によってクラス分けするものです。粘度はオイルの一特性に過ぎず、その品質を表すものではありません。

ABS	アンチロックブレーキシステム	直進走行中に車輪がロックしてハンドルが効かなくなってしまうのを防ぐ安全システム
-----	----------------	---



26.1 赤のマーク

赤のマークは直ちに対処すべきエラー状態を示します。

	エンジン診断警告ランプ (MIL) が赤く点灯 - OBD (On-Board-Diagnose (オンボード診断)) が排気または安全関連で重大な不具合を検出しました。
	盗難防止システムのインジケータランプが赤く点灯 / 点滅 - 盗難防止システム / アラーム装置で状態メッセージまたはエラーメッセージが発生しました (オプション)。




26.2 黄色とオレンジ色のマーク

黄色とオレンジ色のマークはできるだけ早く対処すべきエラー状態を示します。運転支援システムが作動している場合も同様に黄色またはオレンジ色のマークが表示されます。

	警告全般を示すランプが黄色に点灯 - 操作安全上の注意 / 警告事項が検出されました。この場合、関連情報がインフォメーションディスプレイにも表示されます。
	ABS 警告ランプが黄色に点灯 / 点滅 - ABS (アンチロックブレーキシステム) で状態メッセージまたはエラーメッセージが発生しました。

26.3 緑と青のマーク

緑と青のマークは情報を表示しています。

	ターンシグナルインジケータランプがターンシグナルのリズムで緑に点滅 - ターンシグナルが作動しています。
	ニュートラルインジケータランプが緑に点灯 - ギアがニュートラルに入っています。
	ハイビームインジケータランプが青く点灯 - ハイビームが点灯しています。

A

ABS 94

ABS のヒューズ

交換する 121

O

OWNER'S MANUAL 13

あ

アクセサリ 14

アクセルワイヤーの遊び

調節する 145

点検する 144

安全な運転 11

アンチロック・ブレーキシステム 94

い

イグニッション 26

インジケータランプ 34

う

運転操作の前に

運転操作の前に必ず行う点検・メンテナンス作業 61

初めて運転操作を行う際の注意 57

保管後 157

え

エマージェンシーOFFスイッチ 25

エンジン

慣らし運転をする 58

エンジンオイル

交換する 147

補給する 150

エンジンオイルのレベル

点検する 147

エンジン始動 62

エンジンナンバー 21

お

オイルスクリーン

清掃する 147

オイルフィルター

交換する 147

か

各部の名称

左前方 16

右後方 18

カスタマーサービス 15

環境 12

き

キーナンバー 21

給油する

燃料 71

キロメートルがマイル	
調節する	48

く

クーラント	
排出する	140
クーラントのレベル	
点検する	136, 138
クラッチレバー	22
クラッチレバーの遊び	
点検する	145
クラッチワイヤーの遊び	
調節する	146

け

ケミカル類	14
-------	----

こ

後輪	
取り付ける	110
取り外す	109
後輪のハブダンパー	
点検する	112
コンビネーションインスツルメント	
インジケータランプ	34
インフォメーションディスプレイ	39
起動とテスト	29
機能ボタン	33

クーラントの温度表示	38
警告通知	30
航続距離 / 走行時間メニュー	45
サービス / 航続距離メニュー	44
走行距離 1 TRIP 1メニュー	47
走行距離 2 TRIP 2メニュー	47
走行時間 / 平均速度メニュー	40
総走行距離ODOメニュー	46
ディスプレイ	35
表示TRIP F	37
フューエルタンクの残量表示	36
平均速度 / 平均燃費メニュー 1	41
平均燃費 1 / 平均燃費 2 メニュー	42
平均燃費 2 / サービスメニュー	43

さ

サービス	15
サービスプラン	73-75
サイドグリップ	53
サイドスタンド	56
作業上の決まり	12

し

シート	
取り付ける	83
取り外す	82
シートロック	52
シフト回転数RPM 1	
設定する	49

シフト回転数RPM 2			
設定する	50		
シフト操作	64		
シフトレバー	54		
調節する	77		
シャーシナンパー	20		
車載工具	53		
写真	15		
車両			
清掃する	152		
フロントスタンドから降ろす	80		
フロントスタンドでジャッキアップする	79		
リアスタンドから降ろす	78		
車両に荷物を積む	59		
仕様一覧			
エンジン	161		
締付けトルク、エンジン	162		
締付けトルク、シャーシ	169		
シャーシ	166		
ショックアブソーバー	169		
タイヤ	168		
電装系	167		
フロントフォーク	168		
容量	165		
使用環境	9		
ショックアブソーバー			
スプリングプリロードを調節する	76		
す			
スタータースイッチ	26		
スペアパーツ	14		
スロットルグリップ	23		
せ			
前輪			
取り付け	107		
取り外す	106		
た			
ターンシグナルスイッチ	25		
タイプラベル	20		
タイヤの空気圧			
点検する	114		
タイヤの状態			
点検する	113		
ち			
チェーン			
清掃する	84		
点検する	88		
汚れを点検する	84		
チェーンの遊び			
調節する	86		
点検する	85		

駐車 69

て

停止 69

と

冬季運転

点検・メンテナンス作業 154

時計

調節する 49

トラブルシューティング 158-160

に

荷物 59

は

パッシングライトスイッチ 24

バッテリー

充電する 118

取り付ける 117

取り外す 116

ハンドル操作

ロックする 27

ロックを解除する 27

ハンドルロック 26

ひ

ヒューズ

(各電装系部品)交換する 123

ふ

フィルターキャップ

閉じる 52

開く 51

不凍液

点検する 136

ブレーキ 67

ブレーキディスク

点検する 95

ブレーキパッド

(後輪ブレーキ)点検する 104

(前輪ブレーキ)点検する 99

ブレーキフルード

(後輪ブレーキ)補給する 102

(前輪ブレーキ)補給する 97

ブレーキフルードのレベル

(後輪ブレーキ)点検する 101

(前輪ブレーキ)点検する 96

ブレーキペダル 55

遊びを調節する 100

遊びを点検する 99

ブレーキレバー 22

ブレーキをかける 67

フロントスプロケット

点検する 88

フロントスポイラー

取り付ける	93
取り外す	92

へ

ヘッドライトの設定

調節する	132
点検する	131

ヘッドライトバルブ

交換する	124
------	-----

ほ

法定保証	14
ホーンスイッチ	23
保管	156
保護服	12

ポジションライトのバルブ

交換する	127
------	-----

め

メーカー保証	14
--------	----

も

モーターサイクル

リアスタンドでジャッキアップする	78
------------------	----

ゆ

油脂類	14
輸送	70

よ

容量

エンジンオイル	165
クーラント	166
燃料	72, 166

ら

ライディング	64
発進	64
ライトスイッチ	24

り

リアシート

取り付ける	82
取り外す	81

リアシート用フットレスト	54
--------------	----

リアスプロケット

点検する	88
------	----

れ

冷却システム	135
クーラントを注入してエア抜きをする	141

READY TO RACE

>> www.ktm.com



3213414ja

2016 年 2 月



KTM Sportmotorcycle GmbH
5230 Mattighofen/オーストリア
<http://www.ktm.com>



写真: ミッターパワー
/KTM